

名古屋大学 減災連携研究センター

令和5年度 活動報告書

Annual Report
Disaster Mitigation Research Center,
Nagoya University

名古屋大学減災連携研究センター 令和5年度活動報告書

Annual Report Disaster Mitigation Research Center, Nagoya University

名古屋大学減災連携研究センター

令和 5 年度 活動報告書

Annual Report

Disaster Mitigation Research Center (DMRC)

Nagoya University

令和 6 年 6 月

名古屋大学 減災連携研究センター

はじめに

2024 年は元旦に能登半島地震が発生し大変な年明けとなりました。こうした事例を持ち出すまでもなく、日本列島に暮らす我々の生活は地震、津波、火山噴火、豪雨、土砂災害など多様な自然災害と隣り合わせです。そのため、こうした災害を十分に理解し、適切な対策を講じることが必要不可欠といえます。しかしながら、これだけ自然災害が身近な土地に暮らしていても、個々の住民や家庭、地域や企業において十分な対策がとられているとは言い難く、大きな災害が起きるたびに様々な問題が発生します。

近年では、南海トラフ地震の発生や、地球温暖化による気象災害の激甚化・高頻度化が懸念されています。こうした自然災害では、自然現象そのものの脅威に加えて地域が抱える災害に対する対応力の不足、脆弱性が問題となります。原因となる自然現象や災害の社会への影響及び災害軽減技術などに関して研究すべき要素が多々ありますが、既存の学術分野を横断する研究連携の取り組みが欠かせません。一方、我々は自然現象の発生を制御することはできませんが、社会の脆弱性を改善して対応することは可能であり、そのために、地域の行政、企業、住民などの関係者との連携が必要となります。

こうした考えから、名古屋大学減災連携研究センターは、防災・減災のための研究連携及び社会との連携を掲げ、2012 年から活動してきました。大学において人員、予算がともに限られる厳しい状況の中、地道に連携の努力を積み重ねてきています。本報告書では、減災連携研究センターが 2023 年度に実施した活動をまとめました。内容をご覧ください、センターの活動をご理解いただくとともに、不足している点のご指摘、新たな連携活動のご提案などのフィードバックをいただければ幸甚に存じます。引き続き減災連携研究センターの活動へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

2024 年 5 月

減災連携研究センター長 鷺谷 威

目 次

1. センターの概要と構成	
(1) 基本理念.....	1
(2) 令和5年度の構成.....	2
2. 減災館	
(1) 概要.....	7
(2) 令和5年度の展示活動について.....	8
3. 研究活動	
(1) 東海圏減災研究コンソーシアム.....	15
(2) JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）：モンゴルにおける地球環境変動に伴う大規模自然災害への防災啓発プロジェクト（2017～2023）（連携先：モンゴル非常事態庁、JICA、モンゴル国立大学、放送大学）.....	16
(3) 内閣府・総合科学・イノベーション会議 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)における「港湾における高潮・波浪浸水リスク評価技術の開発」.....	17
(4) 総合地球環境学研究所・土地利用革新のための知の集約プログラム（インキュベーション研究）「氾濫原—輪中景観における災害軽減／生態系保全のための自然・文化を基盤とする解決策の体系化：持続的な地域の共創に向けた社会規範の再構築に向けて」.....	18
(5) 科学研究費補助金国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 「基礎滑り構造と二次部材耐震対策の導入による建築物の高耐震化」.....	19
(6) 防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト「発災時の企業の事業活動停止を防ぐ」.....	20
4. 社会活動	
(1) 防災アカデミー.....	21
(2) げんさいカフェ.....	24
(3) 災と SEEING.....	27
(4) その他人材育成活動.....	28
5. 構成員研究活動	
(1) 飛田潤.....	31

(2) 鷺谷 威	32
(3) 鈴木康弘	33
(4) 富田孝史	34
(5) 長江拓也	35
(6) 平山修久	36
(7) 木作尚子	37
(8) 千葉 啓広	38
(9) エネルギー防災（中部電力）寄附研究部門	39
(10) ライフライン地盤防災（東邦ガス）産学協同研究部門	40

6. 構成員研究業績

(1) 概要	41
(2) 論文・著書	43
(3) 発表・講演	48
(4) 受賞	58
(5) 外部資金	59
(6) 委員	61
(7) メディア	67

7. 名古屋大学基金「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」寄附者様 ご芳名一覧

2018 年度寄附者様 ご芳名一覧	78
2019 年度寄附者様 ご芳名一覧	79
2020 年度寄附者様 ご芳名一覧	80
2021 年度寄附者様 ご芳名一覧	81
2022 年度寄附者様 ご芳名一覧	82
2023 年度寄附者様 ご芳名一覧	83

1. センターの概要と構成

(1) 基本理念

『最先端の減災研究に基づいて、地域全体の様々な連携を深め、減災実現モデルを創る。』

【減災のための「知」の創出】

分野連携型研究、地域力を結集した地域連携型減災研究を実現します。学内外の研究者連携の強化、地域社会とのリエゾン、情報発信、減災研究プロジェクトや地域連携活動の企画・調整・推進などを担います。

【人材育成】

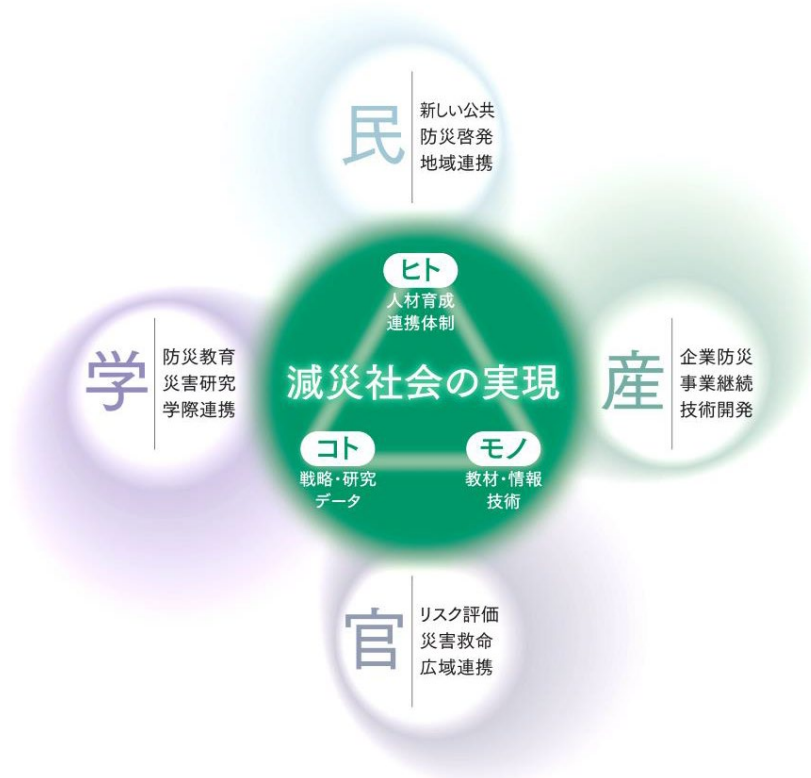
地域連携による防災教育の体系化と人材育成により、「新しい公共」を支える防災人材育成事業を戦略的に実現します。

【地域連携】

地域連携を実現する枠組み作りを推進します。「顔の見える」地域ネットワークに基づく、研究成果の橋渡しをします。

【国際連携】

減災戦略のアジア展開に貢献するため、地域における減災戦略モデルのベストプラクティスを海外移転させます。



センターの基本理念

（２）令和５年度の構成

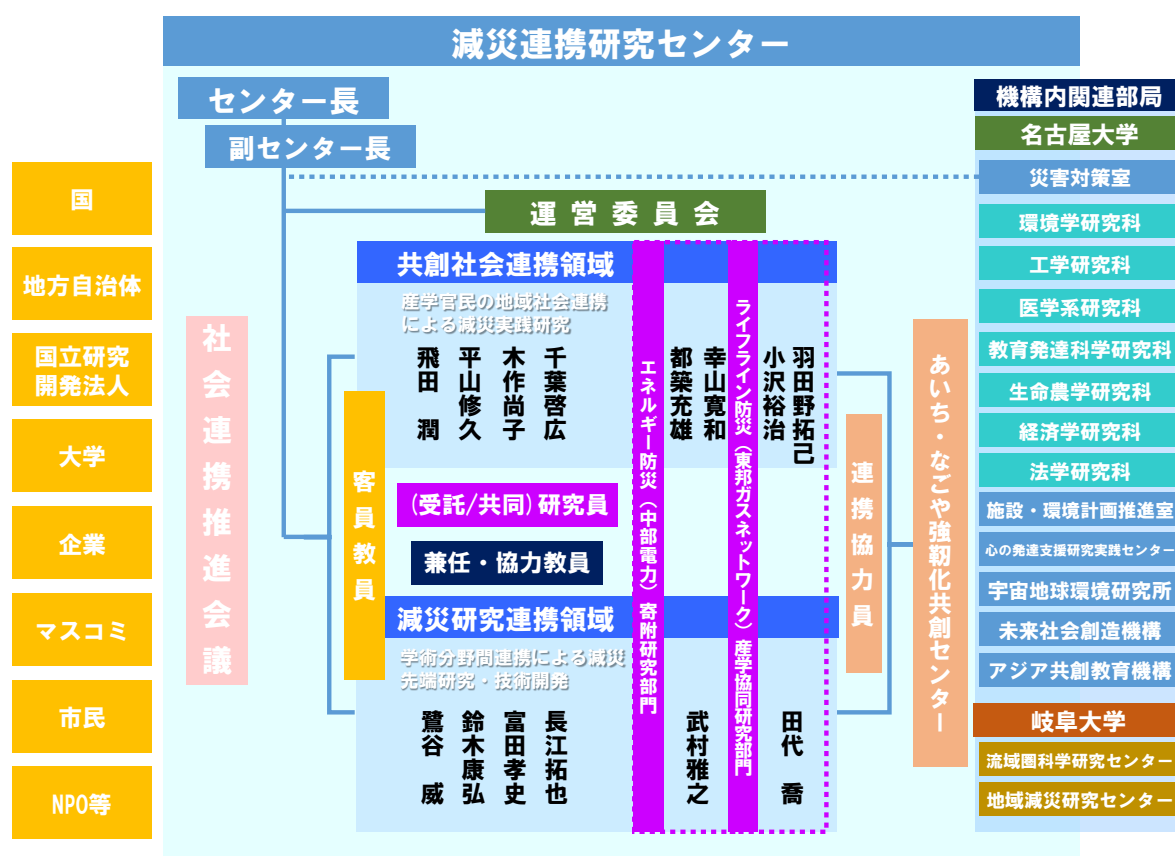
『先進的な減災研究の推進と、産業界との連携研究双方の実現をめざして、減災研究連携部門と共創社会連携部門を運営』

名古屋大学減災連携研究センターは、減災研究連携部門と共創社会連携部門の２部門を核として、社会連携推進会議や環境学研究科・工学研究科・医学系研究科・教育発達科学研究科などの関連部局と連携をしながら減災課題の研究・普及・啓発を行う。

研究連携部門は地震火山研究、社会インフラ減災研究、建築・都市減災研究、人間・社会減災研究などにおいて減災を実現するための最新の研究成果を生み出す。

共創社会連携部門にはエネルギー防災、ライフライン地盤防災の寄附研究部門、産学協同研究部門が、産業・企業の立場から地域の安全・安心を考え、人材育成に貢献する。

このような場に行政や市民、マスコミ、NPOなどが参画し、意見をかわすことで、研究分野や対策主体を越えた真の連携研究が可能となる。



令和５年度のセンターの構成

令和5年度の構成員一覧

令和6年3月末時点

専任教員	センター長／共創社会連携領域 教授	飛田 潤
	副センター長／減災研究連携領域 教授	鷺谷 威
	減災研究連携領域 教授	鈴木 康弘
	減災研究連携領域 教授	富田 孝史
	減災研究連携領域 准教授	長江 拓也
	共創社会連携領域 准教授	平山 修久
特任教員	共創社会連携領域 特任教授・名誉教授	福和 伸夫
	共創社会連携領域 特任准教授	木作 尚子
	共創社会連携領域 特任助教	千葉 啓広
寄附研究 部門教員	減災研究連携領域 特任教授	武村 雅之
	共創社会連携領域 特任准教授	都築 充雄
	共創社会連携領域 特任助教	幸山 寛和
産学協同研究 部門教員	減災研究連携領域 副センター長／特任教授	田代 喬
	共創社会連携領域 特任准教授	小沢 裕治
	共創社会連携領域 特任助教	羽田野 拓己
客員教員	防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター 契約研究員	梶原 浩一
	江戸川大学 特任教授	隈本 邦彦
	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授	阪本 真由美
	産業技術総合研究所 地質調査総合センター連携推進室 国内連携グループ グループ長	穴倉 正展
	消防大学校消防研究センター 研究統括官	細川 直史
	海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸土工研究領域 波浪研究グループ長	平山 克也
	東京大学 先端科学技術研究センター 教授	廣井 悠
	防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門 部門長	藤原 広行
	清水建設株式会社 技術研究所 安全安心技術センター 主席研究員	宮腰 淳一
	日本気象協会 事業本部 参与	新井 伸夫
	京都府立大学 生命環境科学研究科 准教授	荒木 裕子
	応用地質株式会社 共創 Lab 主席研究員	山崎 雅人
	国際協力機構（JICA） 国際協力専門員	西川 智
	兵庫県立大学 減災復興政策研究科 准教授	平井 敬

兼任教員	環境学研究科 教授	飯塚 悟
	環境学研究科 准教授	尾崎 文宣
	環境学研究科 教授	加藤 博和
	未来社会創造機構 教授	河口 信夫
	環境学研究科 教授	熊谷 博之
	教育発達科学研究科 教授	狐塚 貴博
	環境学研究科 教授	小松 尚
	生命農学研究科 教授	五味 高志
	岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授	小山 真紀
	環境学研究科 准教授	齋藤 仁
	経済学研究科 教授	齊藤 誠
	環境学研究科 教授	高橋 誠
	環境学研究科 教授	谷川 寛樹
	工学研究科 教授	恒川 和久
	宇宙地球環境研究所 教授	坪木 和久
	工学研究科 教授	戸田 祐嗣
	工学研究科 准教授	中井 健太郎
	工学研究科 教授	中野 正樹
	工学研究科 准教授	中村 晋一郎
	工学研究科 教授	中村 光
	環境学研究科 教授	西澤 泰彦
	工学研究科 教授	野田 利弘
	心の発達支援研究実践センター 准教授	野村 あすか
	アジア共創教育研究機構 教授	林 秀弥
	工学研究科 教授	原 進
	環境学研究科 教授	藤田 耕史
	環境学研究科 准教授	堀田 典裕
	医学系研究科 教授	松田 直之
	工学研究科 教授	水谷 法美
	災害対策室 室長／教授	護 雅史
	環境学研究科 教授	森 保宏
	環境学研究科 教授	山岡 耕春
	環境学研究科 准教授	山中 佳子
	工学研究科 講師	LELEITO Emanuel Langat
連携協力員等 (あいち・なご)	あいち・なごや強靱化共創センターセンター長	福和 伸夫
	あいち・なごや強靱化共創センター副センター長	岡田 晴道

や強靱化共創センター)	あいち・なごや強靱化共創センターセンター総括	内田 聡
	あいち・なごや強靱化共創センター	小島 慶洋
	あいち・なごや強靱化共創センター	上村 朝子
	あいち・なごや強靱化共創センター	山本 笙平
	あいち・なごや強靱化共創センター	渡辺 千尋
	あいち・なごや強靱化共創センター	高木 智明
	あいち・なごや強靱化共創センター	木全 誠一
受託研究員	株式会社東京設計事務所	北島 涼介
	株式会社日建設計	朝日 智生
	清水建設株式会社 名古屋支店	渡辺 明美
	株式会社スギ薬局	高谷 貴士
	株式会社中電シーティーアイ	大西 亮
	稲沢市	赤羽 翔馬
	知立市	中根 祐介
	出光興産株式会社	阿部 隼人
	中日本高速道路株式会社	坂 宗樹
	株式会社日水コン	平田 明寿
	津島市	榎並 克浩
	岡崎市	柴田 智隼
	生活協同組合コープあいち	松浦 基晴
	豊田市	河原 佳幸
	豊川市	平松 佳采
	名古屋市上下水道局	河西 良紀
	株式会社竹中工務店名古屋支店	上段 聖也
	幸田町	壁谷 初美
	豊橋市	岡田 恵実
	愛知県企業庁	吹元 雅崇
	株式会社一条工務店	高橋 武宏
	株式会社一条工務店	奥 祥平
	蒲郡市	大西 武史
	碧南市	塩谷 健太
	愛西市	亀澤 かおり
	日本赤十字社愛知県支部	川上 慎一
	みよし市	池田 悠人
	メタウォーター	松尾 晃政
	応用地質	岡崎 真友子
	四日市市	人見 幸希

	スマートインプリメント	芝 直之
	ゼンリン	川島 俊平
	日本工営都市空間株式会社	長谷川 智則
	KYB	中村 悠太
	ヒラオカ石油株式会社	飯阪 真也
	安城市	長田 萌
研究員	減災連携研究センター	石原 宏
	減災連携研究センター	末松 憲子
	減災連携研究センター	高瀬 邦夫
	減災連携研究センター	武居 信介
	減災連携研究センター	土屋 泰広
	減災連携研究センター	野村 一保
	減災連携研究センター	橋富 彰吾
	減災連携研究センター	山崎 暢

2. 減災館

(1) 概要

平成 26 (2014) 年 3 月に完成した減災館は、令和 6 (2024) 年 3 月で 10 年を迎えた。名古屋大学東山キャンパス初の免震構造建物であり、減災連携研究センターに関わる研究者が最先端の減災研究を行うとともに、減災に向けた社会連携の拠点にもなっている。また、地下の免震装置と屋上の振動実験室によって建物全体を実際に揺ることができるなど、世界初の試みを取り入れられている。免震装置には弾性免震を採用し、十分な設計余裕を設けることで、巨大地震に対して地域で最も安全な建物となっている。

平常時は、減災研究の拠点であるとともに、教育・人材育成の場としても活用している。1 階には地震動を再現できる振動台「BiCURI」や、3D プリンターによる地形模型や床面に設置した名古屋周辺の大型空中写真にハザード情報などをプロジェクションマッピングするビジュアル展示のほか、防災・減災について学ぶパネル、耐震を学ぶための模型、キッズコーナーなどを整備し、来館者に学びの場を提供している。また、「防災アカデミー」や「げんさいカフェ」を開催する場所にもなる。2 階は様々な資料や情報システムを閲覧できるライブラリーと、企画展開催スペースとして活用している。

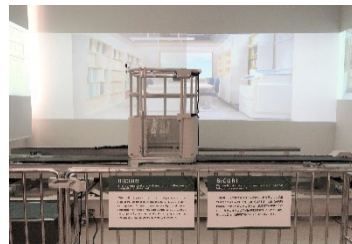
大規模災害発生時には、災害対応や情報発信の拠点にもなる。そのために、水・食糧などの備蓄や、非常用発電装置、電源車との接続端子、プロパンガスを用いた空調設備、太陽光発電装置を備え、1 週間程度の自立運用が可能である。また、リアルタイムでの災害情報の共有を目的とし、自治体衛星通信システムにより愛知県と、長距離無線 LAN により中部地方整備局と結ばれている。



減災館外観



減災ギャラリー



BiCURI



減災ライブラリー



免震ギャラリー



屋上実験室内

(2) 令和5年度の展示活動について

① 展示概要

平成26年5月7日より、減災ギャラリー・減災ホール(1階)、減災ライブラリー(2階)、免震ギャラリー(地下)を展示ブースとして一般に公開している。公開時間は水曜日～土曜日の午後1時～4時で、午後1時30分からは、減災連携研究センターの教員・研究員が日替わりで「ギャラリートーク」を行い、それぞれの専門分野の研究の話を身近に聞くことができる場を提供している。なお、令和5(2023)年度は、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、6月より、5人以上の団体見学については予約を必須とし、それ以外については自由見学も可能とした。

減災センターも設立10周年となり、これを機に昨年度は、キッズコーナーをリニューアルするなど大規模な整備をおこなったが、今年度は通常どおり、展示物の修繕や古くなった展示内容の更新など必要最小限の維持管理に務めた。背景には電気代の高騰による予算の圧迫をあげることができる。そのような中でも、若い世代の利用を促すために、名大祭の期間は予約制を解除して自由見学としたり、名大生の防災サークルである「轍(わだち)の会」の活動や共創センターが実施している高校生防災セミナーに協力^[憲未1]したりするなどの活動は継続して行った。

完全予約制から自由見学導入の緩和の影響もあって、10月21日のホームカミングディに開館以来の来館者が9万人を突破し、セレモニーを行うことができた。

また、はじめての試みとして、6月20日から7月9日にかけては、(公財)名古屋まちづくり公社 名古屋都市センターの要請で、金山南ビル内の都市センターまちづくり広場において、出張展示を行った。



来館者9万人セレモニー(10月21日)

② ギャラリートーク

ギャラリートークは、減災館の目玉企画となっている。すべての教員が日替わりで講師を務め、専門分野の内容を分かりやすく伝えている。令和5年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、対面でのギャラリートークを全面的に解禁した。このため、見学者から忌憚なく質問を受けたり、意見を聞いたりできるようになった。また、特別企画展開催中には、テーマに応じてスペシャルギャラリートークを実施した。

ギャラリートークの主なタイトル（令和5年度）

氏 名	タ イ ト ル
小沢裕治特任准教授	非常時の電源、エネルギーについて
幸山寛和特任助教	地震時、平時の電気火災について
鷺谷威教授	活断層で起きる地震について
鈴木康弘教授	阪神淡路大震災から四半世紀
高瀬邦夫研究員	名古屋の大雪について
武村雅之特任教授	「関東大震災から100年」を語る
田代喬特任教授	近年の水害×治水を踏まえ、対応すべき水防災を考える
千葉啓広特任助教	臨時情報知っていますか？
都築充雄特任准教授	震は享る～幸田露伴と関東大震災
富田孝史教授	高潮災害とそれに対する備え
長江拓也准教授	地震に耐える建物について
野村一保研究員	BCP（事業継続計画）って何？
橋富彰吾研究員	南海トラフ巨大地震による石油製品の供給支障
羽田野拓己特任助教	都市ガス会社の防災対策
平山修久准教授	災害廃棄物対策を知る
護雅史教授	地面と基礎と建物の揺れ方

（50音順）

③ 特別企画展・速報展

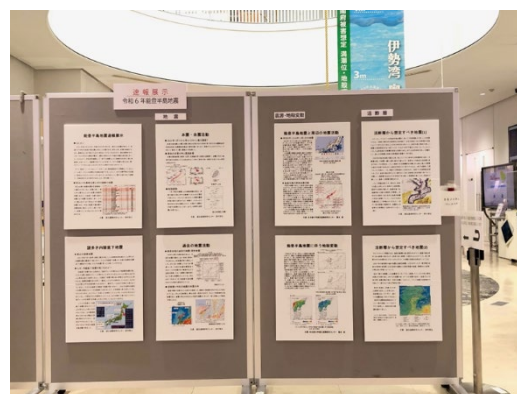
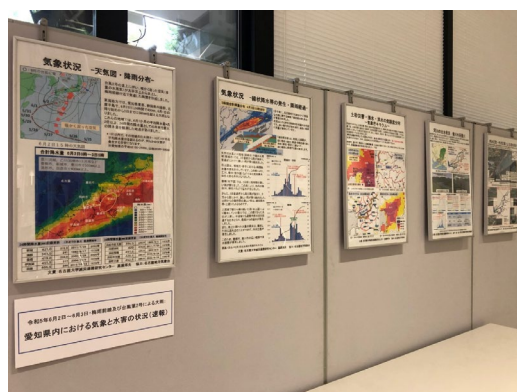
減災館では、過去に発生した大規模な地震・風水害、さらには防災関連のテーマで特別企画展を実施している。令和5年度は関東大震災の発生から100年にあたり、武村特任教授のもとで3部に分け、年度を通じて展示を行った。展示パネルをまとめ加筆・編集の上、図録にあたる『図説 関東大震災の全容』（全64頁）も作成した。

また、令和5年6月2日から3日にかけて梅雨前線による大雨が愛知県内に降り、令和6年1月1日には、新年早々、M7.7の能登半島地震が発生した。このためそれぞれの災害について速報展示を実施した。前者については田代副センター長が中心となり、後者に関しては、飛田センター長、護災害対策室長の尽力で、入手した震源近傍で観測された揺れの記録を振動台「BiCURI」で再現できるようになり、展示に加えることができた。

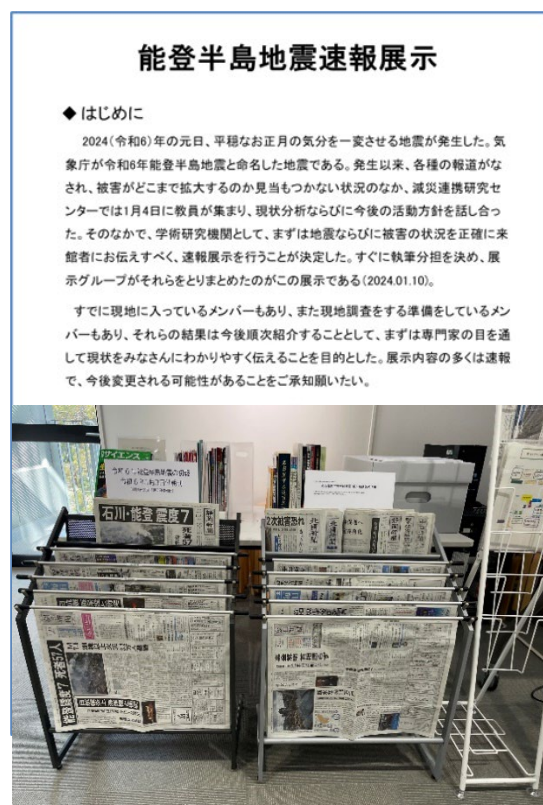
特別企画展・速報展示一覧

	期間	タイトル
第34回	2023年5月10日～8月10日	関東大震災 第1部 地震の正体を探る ー関東大震災と地震学
	7月15日	スペシャルギャラリートーク(武村)
	2023年8月30日～11月24日	関東大震災 第2部 震源直上で何が起こったか？ ー神奈川県の関東大震災
	9月16日	スペシャルギャラリートーク(武村)
	2023年11月29日～2024年3月28日	関東大震災 第3部 関東大震災が造った東京 ー帝都復興事業とその後
	2月3日	スペシャルギャラリートーク(武村)
速報展示	2023年8月25日～	令和5年6月2日～3日の梅雨前線と台風2号による大雨:愛知県内における気象と水害状況(速報)
	2024年1月9日～	能登半島地震(速報)

速報展示 「梅雨前線による大雨」の展示



「能登半島沖地震」の展示



第34回 関東大震災100年記念展示

名古屋大学
第1部
地震の正体を探る
— 関東大震災と地震学 —

2023年
5月10日(水)～8月10日(木)

第34回特別企画展
関東大震災

7月15日(土曜日) 13:30～
スズキ記念ギャラリー2F
武村雅之特任教授「地震の正体を探る— 関東大震災と地震学 —」
7月15日(土曜日) 13:30～
スズキ記念ギャラリー2F
武村雅之特任教授「地震の正体を探る— 関東大震災と地震学 —」

名古屋大学
第2部
震源直上で何が起きたか？
— 神奈川県・関東大震災 —

2023年
8月30日(水)～11月24日(金)

第34回特別企画展
関東大震災

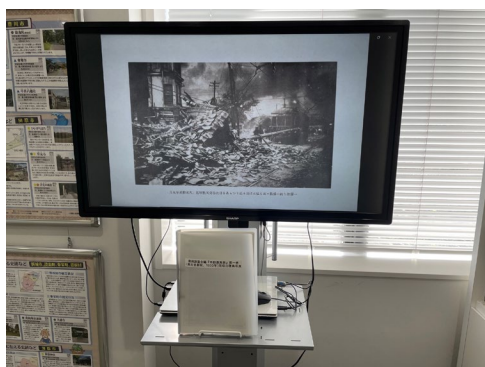
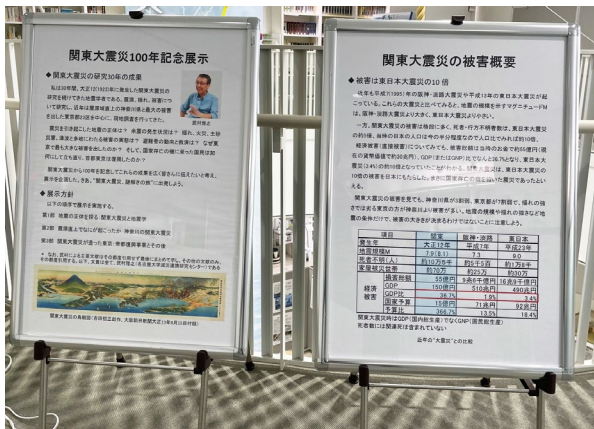
9月16日(土曜日) 13:30～
スズキ記念ギャラリー2F
武村雅之特任教授「震源直上で何が起きたか？— 神奈川県・関東大震災 —」
9月16日(土曜日) 13:30～
スズキ記念ギャラリー2F
武村雅之特任教授「震源直上で何が起きたか？— 神奈川県・関東大震災 —」

名古屋大学
第3部
関東大震災が通った東京
— 帝都復興事業とその後 —

2023年
11月29日(水)～3月28日(木)

第34回特別企画展
関東大震災

2月3日(土曜日) 13:30～
スズキ記念ギャラリー2F
武村雅之特任教授「関東大震災が通った東京— 帝都復興事業とその後 —」
2月3日(土曜日) 13:30～
スズキ記念ギャラリー2F
武村雅之特任教授「関東大震災が通った東京— 帝都復興事業とその後 —」



『図説 関東大震災の全容』の表紙

④ 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センターでの展示

令和5年6月20日から7月9日まで、名古屋都市センター11階まちづくり広場にて、「自然災害の経験を未来へつなぐ自然災害の経験を未来へつなぐ」―名古屋大学減災館の活動から―企画展示を行った。展示内容は、伊勢湾台風や愛知県内で発生した歴史地震の記録、子供向け防災啓発グッズなど、減災館で過去に企画展示として扱ったものを中心に選定し、これまでの研究活動内容とした。

また、展示最終日の7月9日には、最終日スペシャルとして、午前に減災館教員3名(飛田センター長、都築特任准教授、小沢特任准教授)からギャラリートークを3題、午後にシンポジウム「伊勢湾台風の災害記録をひも解いて 改めて見えてきたこと」を実施した(富田教授、田代特任教授、荒木客員教員、倉田博士研究員)。これにより新たな観点からの研究展開を話題提供し、聴講者と議論することで過去の災害について理解を深め、考える場を提供できた。



自然災害の経験を未来へつなぐ
―名古屋大学減災館の活動から―

減災館では地域と連携した防災・減災研究と活動を展開しています。これまでの地域の自然災害に関する展示と、将来に向けた活動を紹介します。

2023
6.20 火 ~ 7.9 日

時間：10:00 ~ 18:00
(月曜休館。土日は17:00まで。最終日7/9は16:00まで。)
場所：名古屋都市センターまちづくり広場・ホール
名古屋市中区金山町1-1-1 金山南ビル11F
参加費：無料

7.9 (日) 最終日スペシャル

10:00-12:00 ギャラリートーク
数人のセンター教員が、減災に関するいろいろな話題をコンパクトに提供します。

13:30-15:30 シンポジウム
「伊勢湾台風の災害記録をひも解いて 改めて見えてきたこと」
事前申込みをお願いします。詳しくはQRコードでセンターホームページへ

主催：名古屋大学減災連携研究センター

午前:10:30-12:00 ギャラリートーク

減災連携研究センターの教員から、活動内容をコンパクトにお話します。**出入り自由ですので、一部でも気軽にお聞きください**

- ・減災館のさまざまな活動
飛田 潤 (センター長・共創社会連携領域教授)
- ・震は享る〜幸田露伴と関東大震災
都築 充雄 (中部電力寄附研究部門特任准教授)
- ・災害時のライフラインについて考える
小沢 裕治 (東邦ガスネットワーク産学協同研究部門特任准教授)

午後:13:30-15:30 シンポジウム

「伊勢湾台風の災害記録をひも解いて 改めて見えてきたこと」

伊勢湾台風について、新たな観点からの研究展開を議論します。

- 話題提供1 「伊勢湾台風によって決壊した海岸・河川堤防とその仮締切作業」
田代 喬 (名古屋大学減災連携研究センター特任教授)
- 話題提供2 「伊勢湾台風による名古屋市の避難者分布を明らかにする取り組み」
荒木 裕子 (京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授)
- 話題提供3 「伊勢湾台風に関する情報の地図上への集約とその解釈」
倉田 和己 (株式会社ファルコン/
名古屋大学減災連携研究センター博士研究員)

総合討議： 講演者、コメンテーター
コメンテーター：富田 孝史 (名古屋大学減災連携研究センター教授)

現地参加のみの開催です。下記ホームページ
もしくはQRコードから、事前申込をお願いします。
シンポジウムホームページ
<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=23846>

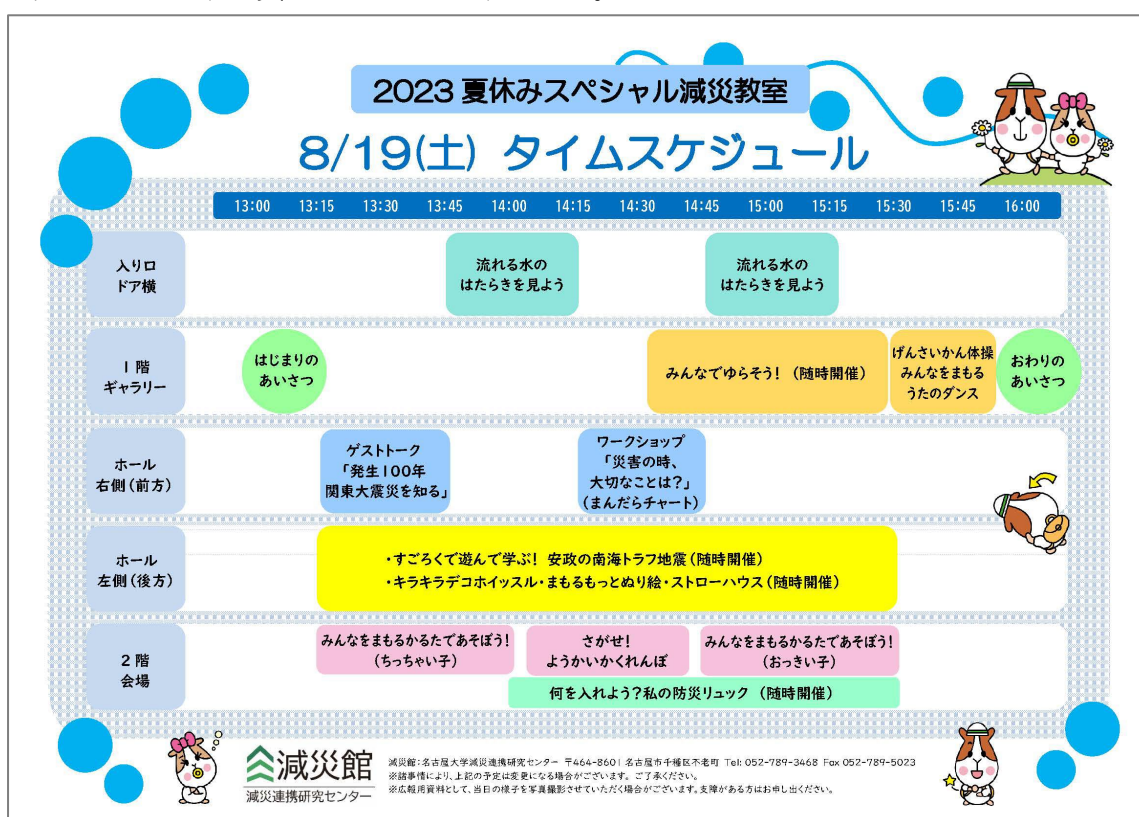


⑤ 特別イベント

夏休みスペシャル減災教室（キッズデー）

令和5年8月19日（13:00～16:00）には、小・中・高校生向けイベントとして「夏休みスペシャル減災教室」を開催した。当日のタイムスケジュールを以下に示す。

子供むけとして、工作コーナーをつくり、職員や受託研究員の方々の協力を得て、ストローハウスを造り、耐震構造について勉強した。さらに免震装置や屋上実験室などを探検するツアーを全館で実施し、ホールでは紙芝居やお話を聞く会を開いて、災害時に大切なことはというテーマで、お父さんやお母さんにも考えてもらう機会を設けた。なお、キッズコーナーでは、いつでも、動画鑑賞、かるた、げんさいスイッチ、絵本、防災グッズなどで自由に遊べるようにした。そして、最後に昨年同様「みんなをまもるうた」の動画を見ながら参加者全員でダンスをして終わった。



⑥ 減災ライブラリーの活動について

減災館 2 階の減災ライブラリーでは、来館者が防災・減災について深く学ぶため、自然災害に関する図書や資料を広く収集・公開している。

平成 28（2016）年度に資料管理システムを導入し、蔵書及び収蔵資料を登録・管理している。令和 5 年度は、図書 834 冊、収蔵資料 10 件を登録した。また、資料データと所蔵本の在庫照合を実施して利用者の利便性向上に努めたほか、年度更新資料等を整理し、571 冊の除籍を行った。令和 5 年度末の検索可能資料数は、図書 13,856 冊、収蔵資料 104 件である。図書の内訳は、書籍 5,768 冊、雑誌 4,830 冊、その他 3,258 冊で、「その他」には、地域防災計画やハザードマップ、報告書など書店流通していない資料の他、防災学習 DVD などの映像資料等が含まれる。

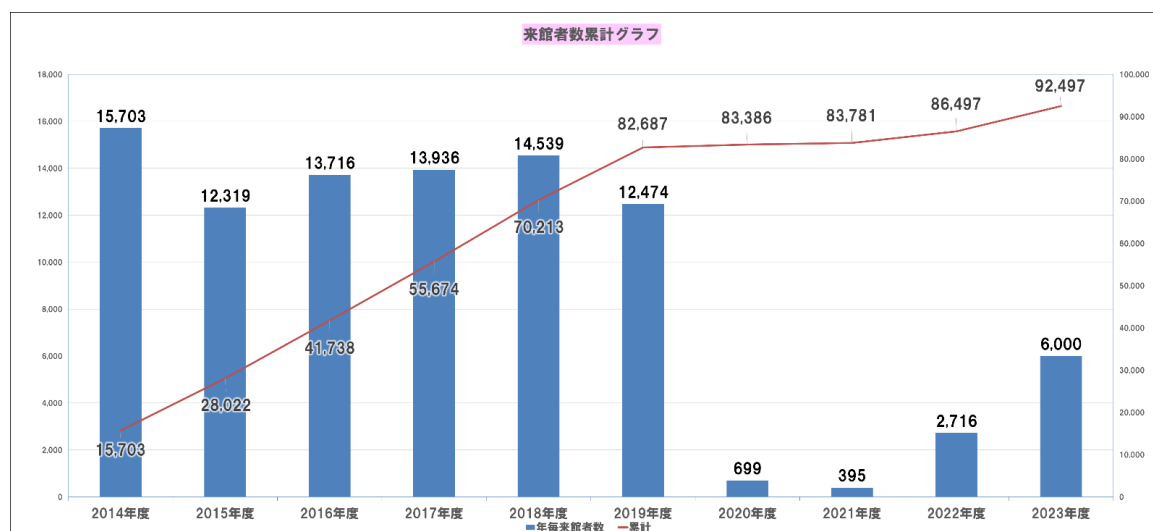
令和 6 年 1 月 1 日の令和 6 年能登半島地震発生を受け、当センターで実施した速報展示では、関連する蔵書も展示した。令和 6 年以前の地震に関する資料として 17 冊（平成 5

（1993）年能登半島沖地震から令和 5 年 5 月 5 日石川県能登地方の地震関連）を展示したほか、令和 6 年能登半島地震に関する資料として雑誌を中心に 101 冊を購入して展示した。あわせて、令和 6 年 1 月 1 日以降の地元紙・北國新聞を、まとめて閲覧できる様にしたほか、全国紙・ブロック紙・地方紙の第 1 報も 7 紙展示した（読売・朝日・毎日・日経・中日・静岡・北國）。

⑦ 来館者の概要

令和 5（2023）年度の来館者数は、6000 名であった。新型コロナウイルス感染症対策による入館者の落ち込みは令和 3（2021）年度を底に、次第に回復しつつある。先に述べたように、令和に入った年に 8 万人を突破して以来、来館者 9 万人を達成することができた。

アンケート（回収率 14.5%）で見る来館者の年齢を見ると、60 歳以上が半数を占める一方で、20 代以下が 1/4 以上を占めており、若者への浸透も見られる。また、印象に残ったものとしてはギャラリートークがトップ、ついで BiCURI、防災学習コーナー、床面地図、今昔マップと続いている。アンケートの回収率を高めるために、令和 6 年度から内容を簡素化する予定である。



3. 研究活動

(1) 東海圏減災研究コンソーシアム

【概要】

平成 25 年 3 月に東海地区の 6 国立大学(岐阜大学、静岡大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学)が参画して東海圏減災研究コンソーシアムが設立され、連携して東海地域における減災研究を進める基盤ができた。この 6 大学は減災研究を行う組織を有するが、いずれも小規模なものであり、個々の大学では減災に関わる広範な専門分野をカバーしきれない。6 大学が連携することで、地域との密着に連携するとともに、大学間連携で幅広い分野をカバーすることが可能となり、他地域における大規模な大学・研究所に一極集中した減災研究とは異なる、ユニークな研究組織が成立した。また、6 大学で連携して研究を進める目的で、プロジェクト概算要求を行い、名古屋大学を含む 4 大学で平成 27 年度分までの予算が措置された。その後は各大学の自助努力により連携の取り組みを進めている。

【令和 5 年度実績】

昨年度に引き続き、6 つの専門部会における情報共有や研究推進を行うとともに、幹事会を開催し、各大学の活動状況について意見交換を行った。2024 年 2 月 23 日には豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンターと東海減災研究コンソーシアムの共催により防災シンポジウム「地震防災のキーワード 耐震化と情報化」を豊橋市で開催した。

6 大学を取り巻く状況は年々変化しており連携組織の維持も決して簡単ではないが、将来発生する災害への備えが重要であることには変わりがなく、大学間の横のつながりを保つ取り組みを継続している。

（２）JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）：モンゴルにおける地球環境変動に伴う大規模自然災害への防災啓発プロジェクト（2017～2023）（連携先：モンゴル非常事態庁、JICA、モンゴル国立大学、放送大学）担当：鈴木康弘

【概要】

減災連携研究センターは、地域および市民主導のボトムアップ型防災の重要性を念頭に、日本の好事例をモンゴルへ展開することを目指した。対象地域はモンゴル国内で最も地球温暖化に伴う自然災害のリスクが高い西部地域の中心であるホブド県とし、①ホブド県庁・非常事態局・学校等による連携体制の構築、②地域特性に見合う防災教材の開発、③地域リーダーから一般住民へ防災活動の展開、を目指した。

【令和５年度実績】

令和５年度は７年間プロジェクトの最終年度となった。地球温暖化に伴う自然災害の増大の中で、住民が「想定外」に遭遇しないよう、①専門家による解説ビデオ、②ホブド市の洪水ハザードマップ、③子供たちとの共創による防災カルタ、等の防災教育コンテンツを整備した。また、④市民防災の役割と必要性に関する市民ワークショップを重ね、ホブド市に防災ボランティア組織が設置された。こうした取り組みは非常事態庁のみならず教育省からも高く評価され、JICA の好事例としても採りあげられた（図）。さらに、全国展開のニーズが高まり、令和５年度 JICA 草の根事業公募において第２フェーズが採択された。

草の根/パートナー型

モンゴルにおける地球環境変動に伴う大規模自然災害への防災啓発プロジェクト（2017年～2023年）

11 積み重ねられる
まちづくりを

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

防災を我がこととして「想定外」の災害から守る！

- 実施団体：
東海国立大学機構 名古屋大学
- 対象国・地域：
モンゴル国ホブド県
- 現地カウンターパート
モンゴル非常事態庁
(ホブド非常事態局)
モンゴル国立大学
- 協力内容：
・モンゴル初の防災カルタを子供たちと一緒に創作
・専門家が災害リスクを住民へ語りかける映像コンテンツを整備
・被害軽減ワークショップにより行政・市民の連携体制を構築
- 団体のこれまでの取り組み：
名古屋大学は全国に先駆けて2002年から地域防災の推進を開始し、2010年には減災連携研究センター、2014年にはその活動拠点として減災館を開設。市民・地域主導の防災実現手法を開発。本事業はその国際展開である。
- 事業実施の背景：
モンゴル西部地方において、地球環境変動の影響による災害リスクが高まっている。そのため住民が地域に即した災害や防災に関する正しい知識に基づいて、自ら主体的に防災に取り組めるようにするにはどうしたら良いかが国家的課題となっている。

モンゴル国の課題と成果

課題①「防災」が未だに身近ではないモンゴルにおいて「我がこと」感をいかに醸成するか

成果① ホブドの子供たちと「防災カルタ」を共創し、その魅力がホブド県全域に広まり活用されました

課題② 地域防災は行政・地区リーダー・住民がお互いの役割を認識し協働しなければ実現できない

成果② 地区リーダーとワークショップを重ね、住民が災害リスクを学び、災害時と平時の行政と住民の役割を確認。ホブド市が防災ボランティア組織を結成

⇒ カルタ作成コンクール応募数：700（ウランバートル分200を含む）
カルタ大会開催：ホブド7回、他モンゴル国内で3回以上
参加総人数：450名以上、ワークショップ参加：延べ750名
県内全校へ配付、学校教諭が県内各地へ出張指導体制継続
教育省が全国教材にすることを検討開始

事業の波及効果

!

Bosai Card（防災カルタ）がモンゴルに定着！

・日本・モンゴル友好50周年記念カルタ大会は大盛況。詩や絵を好むモンゴル人の心を捉えたBosai Cardは予想以上の好評を博し、一挙に全国的防災教材として展開が期待される！

!

モンゴル人の積極性は地域防災の鍵！

・旧社会主義国モンゴルはトップダウン型防災の実効性が高いが、同時に遊牧民ならではの自主性・積極性は防災実現の鍵を握る。日本もモンゴルから学ぶべき！

（３）内閣府・総合科学・イノベーション会議 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)における「港湾における高潮・波浪浸水リスク評価技術の開発」

【概要】

内閣府総合科学・イノベーション会議による戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第3期の「スマート防災ネットワークの構築」において採択されたサブ課題「リスク情報による防災行動の促進」における「水災害リスク・被害影響可視化技術」のうち、「港湾における高潮・波浪浸水リスク評価技術の開発」を2023年9月1日から5ヵ年の計画で取り組んでいる。

この研究開発は、港湾における高潮・波浪による浸水リスクを可視化することにより、行政だけでなく、港湾立地企業においても防災を自分事として捉えてその対応能力を向上させることを期待している。特に、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言を含むサステナビリティ開示基準の策定を踏まえて、気候関連リスクと機会が及ぼす財務的影響に関する情報開示を企業に義務化させる動きが世界的に加速化している。今後より高まると考えられるこういった枠組みに基づく企業対応としての高潮等の物理的リスクの評価とそのリスク低減のための対策を検討し情報公開するために、また、気候変動適応策として掲げられた港湾における「協働防護」の関係者間での検討のために、プレイヤーである関係企業や行政機関に浸水リスクという基本的な情報を提供できる技術の開発を目指す。

この研究開発は、名古屋大学が主導して実施するものの、国土交通省、港湾管理者等自治体および港湾立地企業との緊密な連携のもとに実施される。具体的には、研究開発の初期段階から、行政機関および民間企業から構成される社会実装アドバイザリーボードを設置して、研究成果の活用方法、分かりやすい成果の表示方法等について議論しながら研究開発を進めている。

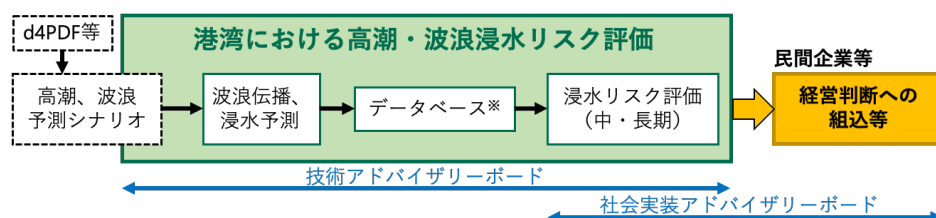


図 研究開発の概要

【令和5年度実績】

この研究開発では、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾・空港技術研究所が開発した NOWT-PARI ver. 5.3 を使って高潮・波浪による港湾の浸水を計算する。対象港湾を、2019 年台風 19 号により浸水が発生し、その後官民協力して防災対策を検討してきた清水港として、NOWT-PARI を適用する清水港モデルを作成した。2019 年台風 19 号時の高潮や波浪の観測値あるいは d4PDF に基づいた推定値を使って港内の波浪伝播・浸水計算を実施し、計算モデルや方法の妥当性や課題を明らかにした。また、観測潮位の極値統計解析を行なって駿河湾各所における高潮の再現期間を推定し、QGIS、qgis2web、Google Earth Pro および e コミマップの計算結果の表示システムとしての長所・短所を検討した。

（４）総合地球環境学研究所・土地利用革新のための知の集約プログラム（インキュベーション研究）「氾濫原—輪中景観における災害軽減／生態系保全のための自然・文化を基盤とする解決策の体系化：持続的な地域の共創に向けた社会規範の再構築に向けて」

【概要】

本研究は、総合地球環境学研究所（大学共同利用機関法人人間文化研究機構の一組織。以下、地球研と表記）が進める「土地利用の根源的な革新による地球環境問題解決に向けた知の集約プログラム（土地利用革新のための知の集約プログラム）」の一課題として、令和5年度の実践プロジェクトに採択されたインキュベーション研究である。

氾濫原に成立した輪中集落とその周辺に残された景観を対象に、水流～地形～集落、生業～文化～社会といった各種景観要因からなる連鎖系の解析により、災害軽減と生態系保全を両立する持続的共創に向けた社会規範に資する知見を得ることを目的とする。氾濫原において、①洪水攪乱による更新を受けながら、多様で豊かな連結性が培ってきた“生態系ネットワーク”と、②洪水氾濫に翻弄されつつも、水流を調整し土地を巧みに利用してきた集落～堤防の構造的配置に関する分析を進める。さらに、地域に存続する生業や文化などの社会条件を踏まえ、③入会地や共有財によって自然資源を享受してきた近世社会の自然共生モデルを探究するとともに、④頻発する洪水氾濫に適応して成立した輪中景観と非常時の“水防共同体制”を考察する。これらの学際的な知見と他地域の近似景観に関するレビューを踏まえ、河川と共生してきた氾濫原—輪中景観に“地域知”として伝承された「自然・文化を基盤とする解決策」（Nature and Culture based Solutions）を抽出、再評価して体系化する。研究着手時には、地球研、タイ・カセサート大学、東北大学、名古屋大学、岐阜大学、京都府立大学、岐阜協立大学、岐阜聖徳学園大学、大同大学の9機関13名に及ぶ研究者からなる、学際・分野横断的な共同研究体制を構築して進めた。

【令和5年度実績】

濃尾平野に成立した氾濫原—輪中景観を調査地として研究展開に努める中で、氾濫原における災害軽減と生態系保全を両立させる本来の目標を見据えるに、特定地域に遍在しがちな「輪中」に限定せず、個別の集落やその周辺の景観に注目し過ぎることなく、上下流や対岸側の集落・景観との関係性を重視した「氾濫原共同体」（Natural and Social Floodplain Community）の設計が重要と認識するに至った。これに伴って京都大学、山梨大学、九州工業大学、豊橋技術科学大学、滋賀県立大学などの7機関から新たに9名の専門家を加え（合計22名）、行政機関からの情報収集や関係施設・団体との交流も進めた。その成果や姿勢が認められ、令和6年度には予備研究「氾濫原景観における災害軽減／生態系保全のための自然・文化を基盤とする解決策：流域治水／自然再興の実践に向けた持続的な氾濫原共同体の設計」への移行が認められた（※プロジェクト概要 HP 参照）。

※実践 FS「氾濫原景観における災害軽減／生態系保全のための自然・文化を基盤とする解決策：流域治水／自然再興の実践に向けた持続的な氾濫原共同体の設計」、<https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/73/>（右に QR コード）



(5) 科学研究費補助金国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 「基礎滑り構造と二次部材耐震対策の導入による建築物の高耐震化」(2022-2026 年度)

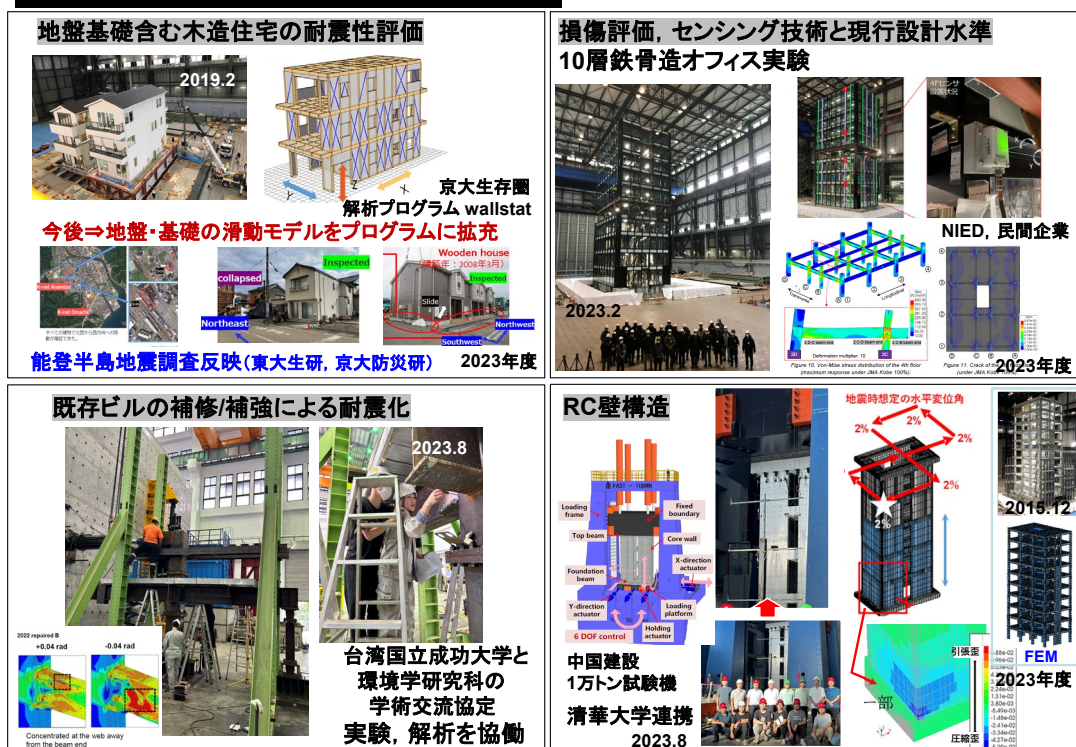
大地震時における建物群の損傷によって社会に多大な機能損失, 経済損失が生じます。建築物の耐震性改善に構造骨組の強度確保, 靱性能確保が効果を上げた一方で, 内外装材や設備機器類の耐震性向上が今も大きな課題となっており, 現行基準建物では, こうした二次部材の損傷が機能損失がダウンタイム, 補修コストの主要因となることが明らかになっています。二次部材も含めた建物全体の実性能評価, 対策による耐震化の評価に, 確率論的性能評価を適用する研究開発方針を掲げ, 実験データに基づく数値解析シミュレーション, 各種部材損傷フラジリティに基づく次世代型の評価手法・設計法構築に国際共同機関(台湾, 韓国, 米国, 中国, トルコ, スイス, ニュージーランド他)とともに取り組んでいます。日本側は, 東大生研, 防災科学技術研究所, 北海道大学, 大阪大学, 東北大学との協働体制です。

【令和5年度】

基礎と地盤の間の力のやりとりが強非線形領域に入る場合の地震応答評価については, 能登半島地震の被害調査, 地盤上の戸建て住宅の震動台実験を対象とした数値解析を推進しました。その効果を最大化するコア壁構造については清華大学, 天津大学との基礎(A)研究が採択され, 融合研究としての様相も呈しています。10層オフィス実験における二次部材分析と解析を進めるとともに, 振子型滑り免震の導入実験の設計を推し進めました。一貫して耐震性評価に反映できる手法構築は日本建築学会の研究委員会とも連動しました。

科研 国際共同研究加速基金

台湾成功大, 釜山大, Utah大, UC Irvine, ZURU Tech
清華大, 天津大, スイス工科大学, トルコYildiz工科大等



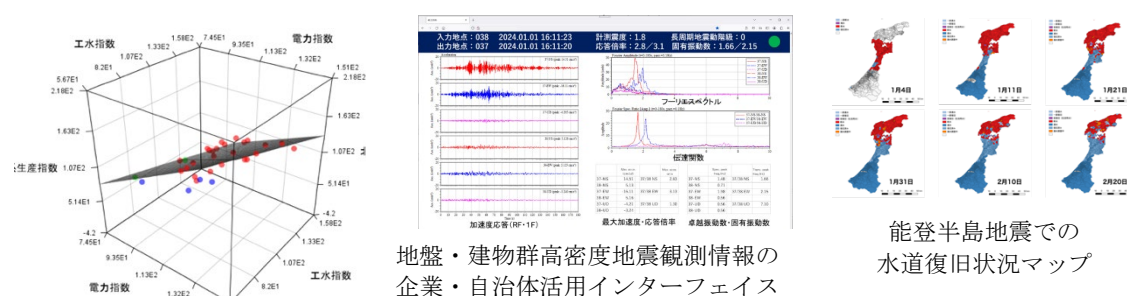
（６）防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト「発災時の企業の事業活動停止を防ぐ」

【概要】

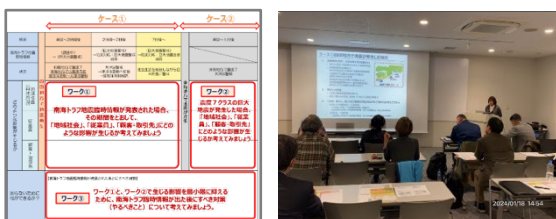
臨時情報発表時に製造業を中心とする地域産業活動が継続するために必要となる要素を構造化し、事前防災対策と事後対応を構成要素とした産業タイムラインモデルを構築し、都市インフラとサプライチェーンの回復力のリスク評価を行う。地域の人流、物流に対して、地震センサー、停電情報や都市インフラのスマートデータ等の減災情報利活用の高度化等を行い、臨時情報発表時の俯瞰的かつ総合的なリアルタイムでの社会様相モニタリング手法を開発する。臨時情報発表時での行動と資源を取り入れた事態想定シミュレーション技法を開発し、社会萎縮回避や事前防災投資のための地域産業回復シナリオを作成し、情報提供できるようにする。

【2023 年度実績】

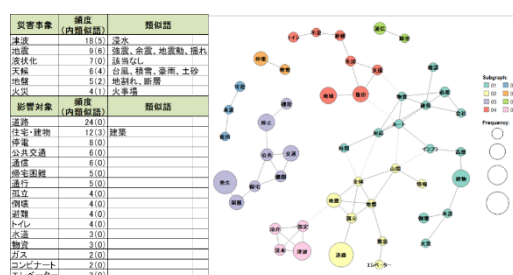
産業復興タイムライン構築のため、地域産業の相互依存性関係を抽出し、地域産業構造の可視化モデルを構築した。また、新型コロナウイルス COVID-19 感染症や明治用水大規模漏水事故に伴う社会活動萎縮等への影響について検証した。その結果、通常時データによる予測式（電力、工業用水）の構築でき、特定業種による産業動向のリアルタイム把握手法を検討し、社会へ影響を与える事象が、ライフラインデータの変動に対する影響を明らかにした。令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震でのライフラインデータについてデータ収集を行った。令和4年度までに整備したリアルタイムモニタリングシステムのデータ収集を継続的に実施し、モニタリングデータの高度化と地域での共有促進のための協働参画手法を構築した。その上で、企業の災害対応訓練・WS への活用を検討した。南海トラフ地震臨時情報対応ワークシートを開発し、関係機関とのワークショップを実施した。そして、事態想定シナリオ構築に向けて、臨時情報発表時の各主体の事後対応を図上演習シナリオ構築のための検討を実施した。また、多様な主体が参画可能な机上演習に活かすことができる事態想定シナリオについて、演習技法として検討した。



COVID-19 緊急事態宣言化と明治用水頭首工大規模漏水事故時のライフライン分析



南海トラフ地震臨時情報勉強会ツールの開発と実践



臨時情報発表時社会様相構造モデル

4. 社会活動

(1) 防災アカデミー

平成 16 年度 (2004 年度) から継続しているほぼ毎月開催の防災講演会であり、令和 6 年 2 月 13 日には 196 回を数えるまでになった (それ以前は地震防災連続セミナーの名称で 10 回開催している)。毎回、防災分野をリードする多様な講師がホットな話題を提供しており、今年度は、被災度判定システム、里地里山保全、リモートセンシング、災害報道等に関する内容をハイブリッド形式で 10 回開催した。延べ参加人数は 1,750 名であり、講演の様子はビデオ収録し、講演記録もまとめて災害アーカイブに保管・公開している。

防災アカデミー開催リスト

日付	氏名	所属	タイトル
4 月 24 日	富田 孝史	名古屋大学減災連携研究センター教授	臨海部の防災・減災は大丈夫?—これまでの災害教訓と今後の地域変容—
5 月 16 日	坪木 和久	名古屋大学宇宙地球環境研究所附属統合データサイエンスセンター教授、減災連携研究センター兼任・協力教員	台風のもたらす災害・将来予測・航空機観測
6 月 20 日	楠 浩一	東京大学地震研究所教授	安価なセンサーを用いた建物の地震時被災度判定システムの開発 その現状と未来
7 月 25 日	橋本 操	岐阜大学教育学部准教授	里地里山保全と災害対策—自然災害を防ぐ地域住民による里地里山づくり—
9 月 19 日	奥村 与志弘	関西大学社会安全学部教授	南海トラフ巨大地震へのカウントダウン—次の 10 年, 私たちが進むべき道を探る—
10 月 6 日	山田 真澄	京都大学防災研究所准教授	知ってるつもりの緊急地震速報



第193回 (11月30日)



第194回 (12月14日)



第195回 (1月22日)



第196回 (2月13日)





防災アカデミーの様子

（２）げんさいカフェ

平成 23 年（2011 年）6 月から毎月開催している減災の話題を扱うサイエンスカフェで、ハイブリッド形式で 12 回開催され、令和 6 年 3 月で第 148 回となった。専門家がファシリテータとのやり取りを通じて分かりやすく参加者に語りかけ、また気軽に質問を受けながら進行することで、一般的な講演会よりも気軽な雰囲気の中で相互理解が深まる効果がある。ファシリテータは、NHK 時代に科学報道に長く関わられた、サイエンスコミュニケーションの専門家である隈本邦彦氏（江戸川大学特任教授／減災連携研究センター客員教授）に依頼している。

今年度は当センターの専任・寄附研究部門・産学協同研究部門教員、及び兼任・協力教員らにより、多様な専門の立場から地震、水害、地域防災学や、形状記憶合金による建築、電力需要による災害被害把握など防災・減災に関するテーマを分かりやすく説明した。延べ参加人数は 2,120 名であった。

げんさいカフェ開催リスト

日付	氏名	専門	タイトル
4月26日	武村 雅之	地震学者	100年目に語る関東大震災研究事始め (減災館第34回特別企画展「関東大震災」との連携企画)
5月29日	鷺谷 威	地殻変動学者	トルコ・シリア地震、何が起きたのか
6月8日	田中 隆文	泥くさい防災研究者	飼い馴らさない防災学
7月7日	山中 佳子	地震学者	歴史資料の可視化で南海トラフ地震を検討する
8月7日	長江 拓也	耐震工学者	トルコ・シリア地震、被害の状況は？
9月17日	まこび (古島真子)	防災を Happy に 伝える防災士	若者に防災減災を届ける方法を考える (ぼうさいこくたい 2023 神奈川)
10月23日	田代 喬	河川工学者	「流域治水 2.0」って何？～高まる水害 リスクに備える新たな取り組み
11月20日	荒木 慶一	構造工学者	形状記憶合金で耐震！？
12月26日	山岡 耕春	地震学者	近年の火山噴火について
1月15日	福和 伸夫	地震工学者	南海トラフ地震の再来に備える～能登 半島地震を受けて～
2月26日	幸山 寛和	地域モニタリ ング研究者	大規模地震の被害状況を電力需要で測 る
3月26日	羽田野 拓己	ライフライン防 災研究者	令和5年台風2号から水害対策について 考える



第137回 (4月26日)



第138回 (5月29日)



第139回 (6月8日)



第140回 (7月7日)



第141回 (8月7日)



第142回 (9月17日)



げんさいカフェの様子

(3) 災と Seeing

「災(さい)と Seeing」は令和2年度にクラウドファンディングで開始した事業である。各地に残される自然災害にまつわる石碑や史跡を巡って過去の災害を実感し、次の災害への備えを促進することを企図している。令和3年度からは、減災連携研究センターとCBC テレビ、中日新聞社、中部地域づくり協会が連携して実施しており、映像コンテンツを作成してCBC テレビの番組「チャント!」で放映するとともに、連携して中日新聞への記事掲載、中部地域づくり協会作成のWeb ページでの情報発信を行っている。令和5年度は、6つの地域・災害を取り上げた。

公開年月	テーマ	主な取材場所	関連する自然災害	案内役
2023 年 4 月	平成 30 年 7 月 豪雨	浸水表示板(関市) 危機管理型水位計(関市) 津保川改修現場(関市) 津保川沿いの浸水位表示板(関市)	平成 30 年 7 月豪雨 (2018 年 6 月 28 日～ 7 月 8 日)	田代喬
2023 年 6 月	福井地震	福井大地震震源地の碑(坂井市) 福井城天守台跡の石垣(福井市) 旧酒伊ビル(福井市)	福井地震(1948 年 6 月 28 日)	飛田潤
2023 年 8 月	9.28 豪雨災害	美濃加茂市役所(美濃加茂市) 祐泉寺(美濃加茂市) 太田小学校(美濃加茂市) 美濃加茂市民ミュージアム(美濃加茂市) 9.28 豪雨災害を伝える石碑等(美濃加茂市)	9.28 豪雨災害(1983 年 9 月 28 日)	松尾直規(中 部大)
2023 年 10 月	明応地震	阿漕浦海岸(津市) 西来寺(津市) 三重県立みえ夢学園高等学校(津市)	明応地震(1498 年 9 月 20 日)	鷺谷 威
2023 年 12 月	阿寺断層帯	飛驒川の河床で発見された阿寺断層(下呂 市) 中津川市で見られる断層地形(中津川市) 中山道馬籠宿(中津川市)	天正地震(1586 年 1 月 18 日)	安江健一(富 山大) 鈴木康弘
2024 年 2 月	南海トラフ巨 大地震と豊橋 市	吉田城(豊橋市) 龍拈寺(豊橋市) 伊古部海岸(豊橋市) 御厨神社(豊橋市)	宝永地震(1707 年 10 月 28 日)、安政東海 地震(1854 年 12 月 23 日)	羽田野拓己

（４）その他の人材育成活動

【減災連携研究センターの受託研究員】

自治体や民間企業からの 36 名の受託研究員とともに、防災や減災に関する研究・活動を進めた。オンラインを利用し、研究・活動計画発表会（5 月 26 日）、研究・活動成果発表会（1 月 12 日）を実施した。

受託研究員の内訳

自治体	市・町・村	15 名	岡崎市、みよし市、稲沢市、安城市、幸田町、知立市、名古屋市上下水道、碧南市、津島市、豊川市、豊田市、豊橋市、四日市市、愛西市、蒲郡市
	愛知県	1 名	愛知県企業庁
民間	建築系	5 名	日建設計、一条工務店、竹中工務店、KYB、清水建設
	設計・コンサル系	5 名	応用地質、メタウォーター、東京設計事務所、日水コン、日本工営
	地図・測量	1 名	ゼンリン
	医薬	3 名	スギ薬局、日本赤十字、名古屋第二赤十字病院
	石油	2 名	出光興産、ヒラオカ石油
	その他	4 名	中電シーティーアイ、コープあいち、中日本高速、スマートインプリメント
合計		36 名	

研究・活動成果発表会での発表内容

発表者（本務先）	発表タイトル
1 池田悠人（みよし市）	市の防災事業の取組
2 赤羽翔馬（稲沢市）	避難所開設に関する取組
3 塩谷健太（碧南市）	地域防災の把握と検証
4 高谷貴士（㈱スギ薬局）	スギ薬局の災害対策 2023 年度取り組みと成果
5 亀澤かおり（愛西市）	自主防災組織の活性化について
6 中根祐介（知立市）	知立市の防災への取り組みについて
7 榎並克浩（津島市）	DX を活用した災害対応
8 岡田恵実（豊橋市）	受託研究員として研究したことや成果のまとめ
9 平松佳采（豊川市）	豊川市防災センター巨大床面地図の豊川市職員防災研修への展開の取り組み
10 壁谷初美（幸田町）	地域のサポート!!「地域防災計画」
11 河原佳幸（豊田市）	帰宅困難者対策
12 柴田智隼（岡崎市）	災害対応の標準化を目指した岡崎市版 Planning P と ICS Forms の検討
13 人見幸希（四日市市）	令和 5 年度受託研究員活動結果報告
14 長田萌（安城市）	洪水時における避難情報等の発令対象区域について
15 芝直之（スマートインプリメント㈱）	2023 年度 活動報告
16 川上慎一（日本赤十字社）	災害時の避難所におけるキッチンカーの運用方針について
17 市村直登（日本工営㈱）	上水道管路被災時からの迅速な機能復旧を図るための最適化手法に関する研究
18 吹元雅崇（愛知県企業庁）	水道の強靱化の効果的な推進に関する研究
19 河西良紀（名古屋上下水道局）	BCP 定着化研修
20 松尾晃政（メタウォーター㈱）	名古屋大学受託研究員 2023 年度活動報告
21 平田明寿（㈱日水コン）	水道システムのレジリエンス評価と事業継続に関する研究
22 渡辺明美（清水建設㈱）	防災・減災啓発活動の推進に関する取組
23 大西亮（㈱中電シーティーアイ）	2023 年度 活動成果発表
24 朝日智生（㈱日建設計）	防振架構
25 上段聖也（㈱竹中工務店）	構造設計者の防災意識調査-
26 高橋武宏（㈱一条住宅研究所）	大雪・雪災に強い住宅の基礎研究
27 奥祥平（㈱一条工務店）	木造戸建て住宅の地震経験による振動特性の変化
28 中村悠太（カヤバ㈱）	オイルダンパーの振動特性について
29 北島涼介（㈱東京設計事務所）	管網計算を踏まえた火災時の開栓可能消火栓数の検討
30 大西武史（蒲郡市）	地区防災計画作成支援体制の構築
31 岡崎真友子（応用地質㈱）	災害時の要配慮者避難に関する調査結果報告
32 川島俊平（㈱ゼンリン）	活動発表
33 松浦基晴（コープあいち）	効果的な災害対策本部訓練

【各種の研究会の活動】

1	自治体研究会 （都築特任准教授・平山准教授・羽田野特任助	減災館での対面、オンライン、またはそれらの併用により 12 回の研究集会を実施した。南海トラフ地震臨時情報や自治体の部門間連携などについて議論し、自治体間で情報共有を行った。また、研究会内に 6 つのグループを設置し、それぞれぼうさいこくたい
---	---------------------------------	---

	教)	2023 への出展, 南海トラフ臨時情報対応の検討, 防災啓発ゲームの開発, 災害時の備えを幼児に分かりやすく伝える方法の検討, ハザードマップの現状と課題, 地域防災力向上, 部門横断研修についての調査研究を行った。
2	減災古文書研究会 (末松研究員・都築特任准教授)	オンラインにて 24 回の勉強会を実施し、『鳥羽御城石垣御修復一件』を中心に翻刻を行い、図録とともに冊子として取りまとめ出版した。
3	ESPER (幸山特任助教・都築特任准教授)	例年では全員参加型のセミナーと並行して、より詳細な内容を勉強する場として分科会を設置して取り組んでいたが、2022 年度も新型コロナの影響で分科会を進めることが難しい状況であったため、全てを「全員参加型セミナー」とし、全国から講師の方をお招きしたオンラインセミナーを開催した。12 回開催し、延べ 194 名が参加した。
4	中部『歴史地震』研究懇談会 (武村特任教授・都築特任准教授・蛭川特任助教・幸山特任助教)	中部地方を中心とした歴史地震について、広範な立場の同好の士が集まり情報交換をしてそれらをまとめるとともに、歴史災害に対して得られた新たな知見やそこから導き出される教訓を発信する会を年 2 回開催し、中部『歴史地震』研究年報第 12 号を発刊した。2 回の会合では延 54 名の幅広い様々な立場の参加者が集い、18 件の調査研究報告と議論がなされた。
5	ババママ防災研究会 (都築特任准教授・幸山特任助教)	保育園や子どもを介して、楽しく防災について考えられるような啓発ツールの開発や子育て世代向けの防災啓発について検討している。2023 年度は、実際に幼稚園・保育園で開発したカルタや絵本を使った防災教育を実施し、啓発手法をブラッシュアップした。

【減災連携研究センター地域減災研究ワークショップ】

地域減災研究ワークショップは、減災連携研究センターに関わる研究者、実務者、学生が、産官学民連携により、南海トラフ地震など災害による地域の被害を軽減していくための理学、工学、人文・社会学、医学を基礎とする「地域減災研究」における研究成果の発表を通して、情報交換し議論することにより、地域減災研究の体系化に資すること目的に開催している。2023 年度は、8 月 3 日（木）・4 日（金）に、減災ホールおよびオンライン発表でのハイブリッド形式で開催され、理学、工学、人文・社会学、医学を基礎とする「地域減災研究」に携わる研究者、実務者、学生が 2 日間で延べ人数およそ 80 名（オンライン含む）参加し、全 20 件の研究成果について活発な議論が行われた。

【減災連携研究センターリレーセミナー】

センター構成員の情報共有・相互理解を図りより広い連携を深める場として、減災連携研究センターリレーセミナー（以下「リレーセミナー」と呼称）を企画、開催した。

リレーセミナーは毎月 1 回、センター構成員が全員参加する連絡会議を利用し、発表者が、最近行っている研究内容や課題・プロジェクト進行状況・イベント参加報告などを行い、Web 会議システムを併用して参加者（センター構成員全員）とディスカッションを行うものである。各回とも予定時間を超過してプレゼンテーション及びディスカッションが行われ、センター内の顔の見える関係の構築に寄与したものと考えている。

今年度実施したリレーセミナーの内容、発表者は以下に示すとおりである。

回数	開催日	発表者	発表タイトル
1	2023年5月10日	平山修久准教授	水道工学，環境工学から災害環境工学， (地域減災学) へ
2	2023年6月7日	鈴木康弘教授	変動地形学と災害地理学
3	2023年7月5日	富田孝史教授	津波・高潮に関する研究
4	2023年8月2日	長江拓也准教授	建築耐震とわたし
5	2023年9月6日	千葉啓広特任助教	地域連携とわたし
6	2023年10月4日	隈本邦彦客員教員 岡田受託研究員 柴田受託研究員 末松研究員 渡辺連携協力員	ぼうさいこくたい報告 ・げんさいカフェ ・自治体研究会 ・ここは災対本部 ・減災古文書研究会 ・産官学民連携による地域減災社会の共創
7	2023年11月8日	都築充雄特任准教授	ローカルな地域の揺れを捕まえる
8	2023年12月6日	小沢裕治特任准教授	災害時のライフライン被害とエネルギー確保に関する研究
9	2024年2月7日	小島連携協力員	令和6年能登半島地震-石川県志賀町への派遣報告-
10	2024年3月6日	武村特任教授	関東大震災100年を終えて-日々の活動とちょこつと裏話-

5. 構成員研究活動

(1) 飛田 潤



共創社会連携領域 教授

1989年東北大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程後期課程修了。東北大学工学部助手、名古屋大学工学部助教授、同大学院環境学研究科准教授、同災害対策室教授・室長を経て2021年4月より現職。専門は建築構造学・地震工学。工学博士、構造設計一級建築士。

【自己紹介】

名古屋大学では1996年から都市高速道路トンネルや地下鉄工事の環境振動対策、2002年から災害対策室で地域防災活動、2011年からは同室長として名古屋大学の安全・防災体制の構築および周辺国立大学との防災連携推進に取り組んだ。本センター所属は2年目となり、建築構造学・地震工学・防災の各分野で、将来の南海トラフ地震の対策にむけた研究・教育、及び地域や企業と連携した活動を進めている。

【令和5年度活動実績】

(1) 大規模地震災害対応を想定した地域地盤・建物群の高密度モニタリング

大規模地震災害の発生時を想定して、地域の被災状況把握や初動対応のためのモニタリング手法の検討とプロトタイプシステムの開発・試行、観測記録の蓄積を継続している。地盤地震動に関しては、既存の震度観測網を補間するモニタリングの必要性を示し、地盤・都市・社会の状況に応じた体制整備を検討した。建物については極力簡易な機材で被災状況把握を行う方法をめざしている。あわせて、被災後の地域状況把握に向けて、地域の電力使用状況や災害時の変化の分析を行った。この内容は文科省プロジェクトの一部であり、自治体や企業との共同研究も進めている。

(2) 免震建物と免震装置の長期モニタリング

免震建物は地震災害時の安全確保・機能維持に有効であり、重要建物の採用が進んでいる。そのためには地震被災後や長期稼働後の免震性能の確認が重要となる。免震建物である減災館において、10年にわたり振動実験や地震・微動観測を継続しており、今年度はさらに系統的な強制振動実験を行って、詳細な性能把握や長期変化を検討した。また地域の免震建物の設計や観測へのアドバイスも行っている。これらは科学研究費の課題であり、免震装置メーカーとの共同研究も行っている。

(3) 文化財展示物の耐震対策に関する実験・解析

災害時の文化財保護は重要性を増しており、対象物の特性と災害状況による対策が必要となる。展示されている日本刀の地震時の保護について前年度に続き検討を行っており、新たな条件の実験、詳細な地震時挙動シミュレーション、地震動や建物特性の影響、対策方法の提案などを進めている。

(4) 地震観測・振動実験のためのデータ処理・活用システムの開発

上記の各項目も含めて、これまでに蓄積した地盤・構造物における多様な地震観測・振動実験に関する膨大なデータについて、オンライン収集、整理・分析、さらに教育・普及啓発に活用できるシステムとインターフェイスを検討している。これらの一部は情報システム開発企業との共同研究により実施している。

(2) 鷺谷 威



減災研究連携領域 教授

1990 年東京大学大学院理学系研究科地球物理学専攻博士課程中退。国土地理院を経て 2003 年 4 月名古屋大学大学院環境学研究科助教授。2008 年 1 月同教授を経て 2012 年 1 月より現職。専門は地殻変動学。博士（理学）。

【自己紹介】

大地震はプレート運動で蓄積された地殻のひずみによって起きるもので、発生までには長い準備期間があります。私はこれまで、測地学的手法を用いて地殻変動を解明することを通して大地震の準備過程を研究してきました。こうした研究をベースに長期および短期の地震発生予測がどこまで可能かを追求しています。人間社会は地球という自然の上に成り立っています。自然科学の知見を広めて人間社会と自然の間の橋渡しすることで、減災に貢献できればと考えています。

【令和 5 年度活動実績】

(1) 島弧地殻の変形メカニズムに関する研究

島弧地殻は基本的に弾性的に振る舞うと考えられるが、我々は 2011 年東北地方太平洋沖地震の地震前、地震時および地震後における地殻変動を比較することで、島弧地殻において非弾性変形が生じ長期的に累積していることが明らかになっており、こうした非弾性変形の分布の検討をより広い地域について行い、島弧地殻の変形に対する理解を深めることを目指している。

令和 5 年度は科研費基盤 B の課題が採択され、測地観測データにより得られる変形場を、地震観測に基づく応力場や地質データから得られる長期変形場の情報と統合して弾性変形と非弾性変形に分離し、島弧の変形を総合的に理解する枠組みを構築する取り組みを新たに開始した。この研究は様々な時間スケールで生じている島弧変形を統一的に解釈することを目指すもので、副産物として弾性変形により生じる地震のポテンシャル評価の学術的な裏付けを与えることになる。令和 5 年度には、新潟-神戸ひずみ集中帯の地殻変動データに基づいて非弾性変形の時空間分布を推定し、さらに非弾性変形の構成関係（応力とひずみ速度の関係）の推定を行った。今後はこうした分析を一般化し広域に適用していく。

(2) コロンビアの地殻変動研究

コロンビアのカリブ海沿岸部では過去の巨大地震・津波の発生が知られていないが、GPS 観測データから大地震の発生可能性を指摘してきた。以前の結果では沿岸部で観測される沈降が説明できていなかったが、数百年間隔での大地震の繰り返し発生とアセノスフェアの粘性緩和を考慮することで水平、上下方向の地殻変動を説明するモデルを構築し、大地震の震源域の推定を行った。

(3) 不確実性を有する地震予測情報に関する情報発信のあり方に関する調査研究

R2-4 年度に実施した文部科学省受託研究「屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯における重点的な調査観測」で行ったアンケート調査に基づいて、活断層の長期評価結果の公表方法について検討した。その結果、活断層における地震発生確率の値を正しく理解することはかえって誤った安心感を抱かせることになり、必ずしも住民の防災行動につながらないことが明らかになった。これは地震ハザードの情報提供を検討する上で重要な問題である。

(3) 鈴木康弘



減災研究連携領域 教授

東京大学大学院理学系研究科地理学専攻博士課程修了。1991 年名古屋大学助手。1993 年から愛知県立大学。2004 年 3 月から名古屋大学環境学研究科教授・災害対策室長。2012 年から現職。総長補佐を歴任。日本学術会議連携会員、地震調査研究推進本部専門委員。専門は、地理学、変動地形学。博士（理学）。

【自己紹介】

自然地理学および変動地形学の立場から、自然災害ハザードを、不確実性も含めてできるだけ正しく評価することを目指しています。東日本大震災や熊本地震、能登半島地震等が起きる度、災害予測の不十分さと、それにうまく対応できない防災対策の問題が浮き彫りになります。対策上の「不都合な真実」から目を遠ざける社会構造にも問題があり、克服する鍵を握る学校教育カリキュラムや教員養成の課題に取り組んでいます。また海外における活断層調査と防災協働事業にも携わり、国際協働のあり方も検討しています。

【令和 5 年度活動実績】

(1) 活断層の長期評価・強震動評価・防災教育に関する総合的研究

①2024 年元日の能登半島地震の地震断層調査を実施し、活断層の事前認定の問題点を新聞・テレビ・雑誌等に対していち早く発信し、今後の課題を提起した。②「災害軽減に貢献するため地震・火山噴観測研究計画（第 2 次：2019 年度から 5 ヶ年）」に対して全国の大学および防災科学技術研究所の研究者と話し合い、「変動地形学的手法による内陸地震発生モデルと活断層長期評価手法の再検討」と「地表地震断層の特性を重視した断層近傍の強震動ハザード評価」の 2 つのテーマを代表として推進し、さらに参加メンバーと次期計画を計画・立案した。③熊本県が南阿蘇村に災害教訓伝承施設 KIOKU を解説するにあたり、企画展示物の指導、住民との対話集会を行った。④自治体有志による活断層自治体連携会議の世話人を担った。

(2) レジリエンス共同研究センターを活用したモンゴルとの国際協働

モンゴル国立大学・名古屋大学レジリエンス共同研究センターをベースに、①令和 3 年度から開始した科研費基盤研究(A)「ウランバートルの総合的地震危険度評価とモンゴルの広域活断層図作成」を実施し、また終了前申請により次期の基盤研究 A へと繋げた。②放送大学・モンゴル国立大学・非常事態庁と共同で実施してきた JICA 草の根支援技術協力事業を総括し、フェーズ 2 を企画・申請し、次年度以降の継続課題として採択された。フェーズ 1 の成果は JICA から高く評価され、これと連動した JICA の国内企画（モンゴルカルタ大会）が国内の複数会場で実施され、協力した。③アジアサテライトキャンパス事業（ASC）において、モンゴル科学アカデミー地理学研究所の自然地理学部門長に博士論文指導を行った。

(3) 日本学術会議や学協会における地球人間圏科学・防災地理教育の振興、国際発信

①国際地理学連合（IGU）日本委員会委員長として日本の地理学に関する国際発信を行い、国際学術会議とも連携する IGU の企画を支援した。②日本活断層学会長として「大規模地震発生直後の航空レーザ測量(LiDAR 計測)の迅速実施に向けた提言」を取り纏め、発信した。③2025 年に日本地理学会が百周年を迎えるにあたり、国際発信力強化のための企画・立案を開始した。「持続的社会づくりへの提言ー地理学者三代の百年」を刊行し、日本地理学会賞（学術貢献部門）を受賞した。

(4) 富田孝史



減災研究連携領域 教授

1992 年名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程土木工学専攻修了。名古屋大学工学部助手、講師を勤め、1997 年に運輸省港湾技術研究所（現在の国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所）に異動し、高潮津波研究室長、海洋情報・津波研究領域長を経て、2016 年に名古屋大学大学院環境学研究科教授に異動し、2022 年より現職。工学研究科土木工学専攻教授を兼任。専門は沿岸防災、海岸工学。博士（工学）。

【自己紹介】

学部 4 年生の時に潮汐残差流という海の波・流れに関する研究テーマに出会って以来、部分重複波、二成分合成波に関する理論的、実験的な研究を名古屋大学にて行い、港湾技術研究所において係留船舶に影響を及ぼす長周期波、空港護岸の越波対策等の実践的な研究に従事し、2001 年から津波・高潮に関する研究に取り組んでいます。2003 年韓国での高潮災害、2004 年インド洋津波、2011 年東日本大震災など国内外 10 以上の津波や高潮の災害調査を実施し、まちや人々の生活を破壊してしまう自然の力を目の当たりにしてきました。地域の防災力と持続力の向上に関する研究を多くの人との連携により進めていく所存です。

【令和 5 年度活動実績】

(1) 陸上の津波漂流物の挙動に関する実験的研究

津波漂流物の挙動には不確実性があることが知られている。本研究では、その不確実性に影響を及ぼす要因として、津波流れに対する漂流物の初期配置角度、漂流物の縦長比（アスペクト比）、および津波波高に着目し、それらを系統的に変化させた合計 63 実験ケースを設定し、1 ケースにつき 15 回の反復実験を行った。その結果、津波流れに直交する方向への漂流物の変位は、初期配置角度が 0 度や 90 度の場合には、既往研究と同様に大きな値になることは無いが、津波流れに対して斜めに配置された場合には有意になり、その値は角度により変化することを明らかにした。直交方向変位の分散も検討した上で、その平均値と標準偏差の 2 倍の和についてモデル化を行った。本研究は、中部電力株式会社との共同研究の中で実施された。

(2) 豊川流域における霞堤の経済的減災効果に関する試算

気候変動の影響により想定を上回る洪水の発生の増加が懸念されている。そのような超過洪水に対応する流域治水対策の一つに霞堤がある。本研究では、豊川流域を対象に平面二次元氾濫解析を行い、霞堤遊水域および霞堤下流域を包括して、霞堤の減災効果の経済的価値を評価した。その結果、霞堤遊水域の浸水を許容することにより下流域の治水安全性を高めるという霞堤本来の減災効果があることを確認しつつ、連続堤に比べて霞堤が経済的に優位に機能するのは再現期間 12.7 年以下の高頻度洪水であることが試算された。さらに、連続堤に比べて霞堤を設置することにより湛水期間が短くなるというメリットも確認された。

(3) 東ティモール・ラウテン自治体における鉄砲水リスクアセスメント

鉄砲水は東ティモールにおいてよく起こる自然災害であり、その影響の受けやすさを評価することは災害リスク管理戦略に不可欠である。本研究では、ラウテン自治体の 5 つの河川流域を対象にして、土地傾斜、土地利用・土地被覆図（LULC）などに基づいて潜在的鉄砲水指数（FFPI）を開発し、マッピングした。その結果、鉄砲水の影響を受けやすい地域を明らかにした。

(5) 長江拓也



減災研究連携領域 准教授

2002 年東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了。東京工業大学、スタンフォード大学、京都大学防災研究所にて博士研究員。2006 年より防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センターにおいて E-ディフェンスを用いた調査開発研究に従事。2014 年より現職。専門は建築耐震構造。博士（工学）。

【自己紹介】

大学院生、研究員として所属した大学において、鉄筋コンクリート造建物、鋼構造建物、基礎構造に関する実験、数値解析に取り組みました。防災科学技術研究所では、E-ディフェンス（実大三次元震動破壊実験施設）に基づく超高層建物の調査開発研究、高耐震コンクリート系建物の調査開発研究に従事しました。施工性・経済性に優れた高耐震建築の開発と設計法の構築、および超高層建物に対する耐震性評価と補強対策を主要なテーマとし、分野間・社会・国際連携を大切にしつつ、社会に役立つ耐震工学研究に取り組んで参ります。

【令和 5 年度活動実績】

(1) 基礎構造に着目する高耐震構法の提案と実験実施

一般建物群への展開を見据え経済性を重視した高耐震構法として、大地震時において地震入力エネルギーを一定量遮断する基礎を掲げ、長年開発研究に取り組んできた。科研 国際加速基金のテーマとして実大 10 層骨組実験（2015 年度、2018 年度）、地盤上木造住宅実験（2018 年度）の分析を推し進めている。博士課程の大学院生 2 名が国際共同研究に従事し、牽引している。

(2) 南海トラフ地震時における鉄骨オフィスビルの崩壊余裕度

南海トラフ地震時において長周期地震動を受ける超高層鋼構造建物は、設計時に検討されたレベル 2 の制限値を超える骨組塑性変形を多数回繰り返し受ける。台湾国立成功大学、北大と連携しつつ、有限要素法等に基づく数値解析手法の高度化を博士課程の大学院生 2 名が主導している。

(3) 鉄筋コンクリート造共同住宅の崩壊限界

鉄筋コンクリート造建物の数値解析技術向上に米国、中国、トルコ、ニュージーランド等 10 ヶ国と継続的に取り組んでいる。世界標準のコア壁式超高層の性能評価法の高度化に向け、中国清華大学と世界最大容量の 1 万トン装置でコア壁実験を実施し、3 次元有限要素法解析による検証を推進した（科研 基盤（A）として天津大学震動台実験（2025 年度）に展開）。

(4) 一戸建て住宅のレジリエンス能力

文科省首都圏レジリエンス PJ から住宅密集地域の一戸建て住宅検証を継続的に推し進めている。能登半島地震被災地調査では、建築学会関連 WG、京大防災研一般共同研究（代表）にて京大生存圏研、東大生研とともに住宅検証を推進した。ニュージーランド企業との共同開発にも取り組み、新たな震動台実験計画を立案した。

(5) 確率論的修復コスト評価およびセンシング技術を通じた有機的研究連携

日本建築学会の関連小委員会を主査として主導した。建物全体評価のファサードセンシング・照明表示技術開発（特許）の実大 10 層実験（2022 年度）解析を推進した。次世代型振子免震研究の産学共同研究では、台湾国家地震工程研究中心、トルコ イルディス工科大学、スイス工科大等と研究共同体を構築した。SATREP ではペルーのリマ市へのセンシングに基づく避難誘導技術の社会実装に係るグループ責任者として技術普及啓発の手法に取り組んだ。

(6) 平山修久



社会連携部門 准教授

2004 年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士（工学）取得。人と防災未来センター主任研究員、京都大学大学院特定准教授、国立環境研究所主任研究員を経て、2016 年名古屋大学減災連携研究センターに着任。専門は、衛生工学、環境工学、災害環境工学。

【自己紹介】

災害と環境の視点から、災害時の人命・健康・環境に対する影響を低減するための社会システムをデザイン・管理するための技法に関する体系に取り組み、災害と環境に関する減災のための「知」を探究します。「持続可能な社会」が、災害時においても「安全・安心な社会」であるという仮説のもと、あいち・なごや強靱化共創センター等の産官学民や地域との階層的連携による実践的な災害環境や防災・減災学の研究教育を行い、名古屋をはじめ、東海地域や中部圏の減災連携の確立に貢献します。

【令和 4 年度活動実績】

(1) 水道システムにおける災害レジリエンス評価手法の検討

名古屋大学で開発した離散的水道管路被害予測モデルを用いて、復旧における優先事項を抽出し、復旧過程での建物被害、電力復旧を考慮した経済活動復旧モデルを構築した。中部地域のレジリエンス評価や日米の水道管路技術に関する共同研究（Hazard Resilience Pipe Research Panel）を推進した。

(2) 災害拠点病院における応急給水確保に関する検討

セルオートマトン法による応急給水数値解析モデルを用いて、国土交通省中部地方整備局による道路啓開戦略である中部版「くしの歯作戦」、日本水道協会による応急給水支援に基づく災害拠点病院への応急給水量を算出し、災害時の災害拠点病院での水確保に向けた医療分野と水、道路との分野連携について検討を進めた。能登半島地震での応急給水拠点マップ整備を行った。

(3) 災害エスノグラフィによる人材育成コンテンツの開発

仙台市水道局との共同研究として、災害エスノグラフィを活用した人材育成ツールの開発を行い、名古屋市上下水道局、保健医療科学院等で実践した。名古屋市上下水道局、愛知県企業庁と連携し、ウェアラブルカメラを活用した技術継承や施設見学システム、維持管理手法の研究開発を行った。

(4) 事前防災投資からみた災害廃棄物 3R の推進に関する検討

国勢調査や住宅・土地統計調査を用いて、地域メッシュ別に災害廃棄物量を算出するモデル（特許第 6894622 号）を構築している。このモデルをベースとして、将来の気候変動下における災害廃棄物ポテンシャル量の評価を行った。災害廃棄物の処理に係る温室効果ガス排出量の推定手法の構築を進めた。

(5) 災害廃棄物処理の高効率化に関する検討

復旧・復興期における被災地域の復旧の質、QoR（Quality of Recovery/Reconstruction）を確保するため、首都直下地震での災害廃棄物処理の高度化の必要性を定量的に示すとともに、防災担当大臣への提言書として取り纏めた。

(6) 災害時の情報共有と地域連携に関する検討

応急給水を事例として、愛知県西三河地域における情報共有による地域連携のあり方について検討した。また、2023 年 6 月 2 日豪雨災害を事例として、地域連携に関する検討を行った。

(7) 木作 尚子



共創社会連携領域 特任准教授

2017 年神戸大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程後期課程修了。2017 年神戸大学都市安全研究センター研究支援推進員、2018 年公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センター研究員、2019 年 4 月同主任研究員を経て、2022 年 5 月より現職。博士（工学）。

【自己紹介】

都市防災から建築防災まで、あるいは自然災害から人為的災害まで、居住環境に関わる様々なリスクについて、その被災対象と被災環境に着目した研究を続けています。特に力を入れて行ってきたのは、災害時要配慮者の安全・安心に関する研究です。研究課題は、大きく、①火災安全、②避難行動や避難生活、③福祉施設の事業継続が挙げられます。

【令和 4 年度活動実績】

(1) 地震発生後や臨時情報発表時の住民の避難行動意向と不安に関する研究

南海トラフの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価された場合、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」が発表され、政府から避難等の警戒を行うよう呼びかけが行われる。事前避難対象地域では、最初の地震に伴う大津波警報または津波警報切り替え後、避難指示や高齢者等避難を発令し、住民避難を継続する一方、事前避難対象地域外では基本的な社会活動が継続することが原則的な住民の行動規範となるが、住民の避難行動意向を把握することで、より多様性に配慮した臨時情報発表時の対応に繋げることができると考えられる。

令和 4 年度は、住民の地震発生後や臨時情報発表時の行動や不安について、事前避難対象地域との関係を踏まえて明らかにすることを目的に web アンケート調査を行った。南海トラフ地震臨時情報に関する認知度は「知らない」が 9.5%と、約 9 割の人が「言葉は聞いたことがある」や「内容は知っている」「内容を説明できる」と回答している一方、住まいが事前避難対象地域内かどうかは「知らない」が 52.4%と認知度が低いことが明らかとなった。

(2) 乳児院における夜間火災発生時の避難体制に関する研究

乳児院は、児童福祉法第 37 条を根拠法令とする児童福祉施設のひとつで、保護者の出産や病気、死亡、経済的理由、虐待等、何らかの理由によって、保護者との生活が困難である子どもを保護、養育するための施設である。乳児院では、自力避難が極めて困難な低年齢層の乳幼児が生活しており、火災時の避難安全性は職員数などの避難支援力に大きく依存するが、特に夜間職員の算定にあたって、夜間火災時に必要なマンパワーや避難介助対応が科学的に検討されているとはいえない。また、乳児院は保育所等と比べ、施設数が圧倒的に少ないため、統計上は出火・避難のリスクは顕在化していないが、自力避難できない乳幼児が 24 時間、集団で生活している点で、調理等に伴う火災発生要因も多く、特に職員体制が大きく弱体化する夜間火災時には、潜在的な避難危険性が大きいと考えられる。そこで、夜間火災時の避難介助に必要な職員数が充足しているかを検討した。さらに、充足していない施設の傾向を捉え、今後、避難介助に必要な人員を確保するための工夫について考察した。

(8) 千葉 啓広



共創社会連携領域 特任助教

2014年名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学コース博士後期課程単位満了退学。2014年10月より名古屋大学減災連携研究センター研究員。2023年7月より現職。専門は地域防災・都市計画。博士（工学）。

【自己紹介】

大規模災害に備え、事前復興・事前準備の視点から、市民・企業・行政・専門家が垣根を越えて議論することが大切だと思っています。とくに、災害対応における自治体間の連携や組織間連携・部局内の連携の重要性に着目しています。その為の議論の場づくりと、GIS等を用いた情報共有や状況認識の統一に基づくワークショップ形式の議論を主体とする検討過程の整理と議論の枠組みのあり方について研究に取り組んでおります。地域の防災・減災力の向上に皆さまと一緒に取り組んで参りたいと思います。

【令和5年度活動実績】

(1) 水害における広域避難の実施に向けた情報共有に関する研究

近年、激甚化する傾向のある風水害の対応の一環として、単一の自治体では避難の完結が困難な大規模水害時の避難対策として自機関以外の基礎自治体への広域避難の検討が進められている。その一方で、基礎自治体の避難計画の策定や関係機関の情報共有については課題が指摘されおり、基礎自治体間の調整・合意に資する検討手順や共有すべき情報を整理が必要とされている。

令和5年度は、前年度までに進めてきた地域との協働の取組みを対象に研究を行った。広域避難計画策定済みの基礎自治体へのインタビュー調査から、支援側・受け入れ側の双方の自治体が被害想定に基づく検討を行っておらず、その要因として意思決定の背景となる広域をカバーする情報がないことが明らかになった。また、情報共有すべき情報の要件については、垂直避難や避難所外避難者への配慮など、避難に関するより多様な視点の必要性が指摘されて引き続き検討が必要である。

(2) 地域社会の耐災性を考える事前検討手法に関する研究

東北地方太平洋沖地震以降、想定外をなくすことを念頭に起こり得る最大の外力による被害を念頭に各地域で置いた対策が進められる。一方で、大きな被害想定を突き付けられたことにより住民や行政の中に諦めのムードが生まれ、事前検討を進めることの難しさも報告されている。本研究では、「防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト」の一環として、最大限クラスではないM8クラスの南海トラフ地震「半割れ」の状況を条件として、企業や行政機関の対応状況やその課題を整理・抽出するワークショップ手法の構築を目指して検討を進めた。試行的な実践の中では「M8」クラスのシナリオに基づく検討では、対象が絞られ対策の優先順位づけがしやすく事業継続の事を考える上でも良いとの意見も示され、M9クラスの検討における諦めのムードから脱却し現実的な対策を考える機会を生み出す可能性が示された。一方で、より詳細に提供した情報に依拠する傾向も感じられたことから、例えば「ライフライン」や「道路と物流」など、WSごとに議論するテーマを絞り、より詳細な議論を行い、複数テーマの議論を積み重ねることで、被害様相の全体をカバーして地域社会の耐災性を高めることにつながるのではないかと考えており、産官学との連携を踏まえながら手法の確立が必要と考えている。

(9) エネルギー防災（中部電力）寄附研究部門



寄附研究部門特任教授 武村 雅之
1981年東北大学大学院理学研究科博士課程修了後、建設会社技術研究所入所、同社小堀研究室を経て2010年から小堀鐸二研究所副所長。2012年4月から現職。この間、日本地震学会理事、日本地震工学会副会長、歴史地震研究会会長などを務める。専門は地震学。理学博士。



寄附研究部門特任助教 幸山 寛和
2011年東北大学大学院工学研究科修了。電力会社勤務を経て2023年1月より現職。専門は建築構造学。修士（工学）。



寄附研究部門特任准教授 都築 充雄
1986年早稲田大学大学院理工学研究科修了。電力会社勤務を経て現職。専門は建築耐震工学。工学修士。一級建築士。

【寄附研究部門紹介】

エネルギー防災寄附研究部門では、エネルギーの安定・安全な供給を通して地域防災力の向上に資することを目的とし、以下の個別研究テーマを推進します。

- (1) 南海トラフ巨大地震による地震動および津波規模の推定の高度化
- (2) 南海トラフ巨大地震発生時におけるエネルギー供給設備の被害想定の高高度化
- (3) 地域の連携を活用した防災時の施設機能維持に向けた事前対策および早期復旧対策の検討

このような寄附研究部門での研究活動を通じて、エネルギー供給における災害対応力を向上させるための検討を進めていきます。また、過去に起こった地震・津波に関する被害や復興についての調査・研究を進めるとともに、将来の減災研究・減災教育を担う人材を育成し、産学官民の連携や地域社会に向けた情報発信を推進します。

【令和5年度活動実績】

(1) 歴史地震に関する調査研究について

中部『歴史地震』研究懇談会は開催から12年目を迎え、地域の歴史地震に関する情報をとりまとめた中部『歴史地震』研究年報第12号を発刊した。また、令和5年度の減災センター特別企画展では関東大震災について発災から復興まで三部構成で1年間を通じて展示し、展示内容と補足を交えた資料集として「図説 関東大震災の全容」を取りまとめた。

(2) 簡易地震計による高密度な地震動モニタリングの検討

大規模地震災害の発生を想定して、地域の多様で複雑な被災状況をリアルタイムに把握し、初動対応や二次災害抑止・早期復旧対応の判断に資することを目指し、地域の地震動分布、建物群の被災状況をモニタリングする体制を検討している。そこで西三河地域うち国道1号線沿いを中心に安価なMEMS地震計設置による高密度化地震観測網の分析例を明示した。

(3) 地域の電力需要量モニタリングによる産業活動状況分析

上記検討に加えて同地域について地域産業活動状況の変化と関連する指標として電力需要量からリアルタイムでの社会様相モニタリング手法を開発することを目指している。そこで電力需要量について、平時の変動傾向を分析するとともに、明治用水頭首工事故を例に社会に影響与えた事象に対して電力需要量が平時と異なる推移を示したことから、社会活動と電力需要量に相関があることを示した。



図 図説 関東大震災の全容

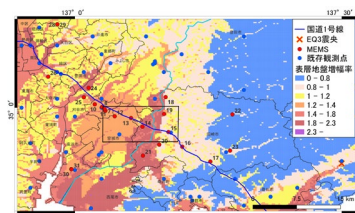


図 MEMS地震計配置

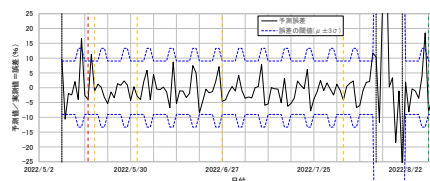


図 平時と異なる電力需要変動分析

(10) ライフライン防災(東邦ガスネットワーク) 産学協同研究部門



特任教授 田代 喬

2004年名古屋大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。土木研究所専門研究員、名古屋大学大学院工学研究科助手・助教、同大学院環境学研究科准教授、同減災連携研究センターライフライン地盤防災(東邦ガス)寄附研究部門准教授、ならびに、ライフライン地盤防災(東邦ガス)産学協同研究部門特任教授を経て2022年4月より現職。専門は河川水理学、流域保全学、応用生態工学、水防災学。



特任准教授 小沢 裕治

1998年慶應義塾大学大学院理工学研究科修了。ガス会社でガス空調、コージェネレーションシステム、パイプラインに関する技術開発等に従事。2022年4月より現職。専門はエネルギーシステム、パイプラインの保全技術。修士(理学)。



特任助教 羽田野 拓己

2018年東京農工大学大学院電気電子工学専攻修了。ガス会社でガス設備を遠隔監視・遠隔制御を行う、無線通信設備の維持管理に従事。2022年4月より現職。専門は半導体物性。修士(工学)。

【産学協同研究部門紹介】

本研究部門では、社会のレジリエンスとサステナビリティの強化に資するため、ガス供給ネットワークなどのライフラインの防災・減災を中心に、東日本大震災や近年の風水害等の自然災害について十分な検証を行うと共に、地震学・気象学・土木工学・建築学等の最新の知見を総動員して、今後の被害軽減を実現可能とすべく、以下の個別テーマを推進する。

- ① 大規模災害に対するライフライン・システムの脆弱性評価
- ② 大規模災害に備えるライフライン事業の効果的BCP対策の設計
- ③ 低平地における各種災害等の被害予測および対応策の検討と評価

【令和5年度活動実績】

(1) 氾濫平野の堆積環境からみた水害、改変履歴の分析

揖斐川水系津屋川に連なる池状水域に対し、鉛-210年代測定法を適用して近過去の堆積環境を分析した。その結果、堆積速度の経年変化は毎年の降水量データ(年総降水量や豪雨日数)、水害統計に記された被害履歴(公共土木施設被害や水害区域面積)と概ね良好な対応関係にあり(図1)、本川流路からの距離に応じてさまざまな空間的変異を呈することを示した。氾濫原水域4地点の堆積環境を分析したに過ぎないが、情報が乏しい過去の洪水、氾濫や改修による環境影響履歴を理解するうえで有用な知見が得られた。

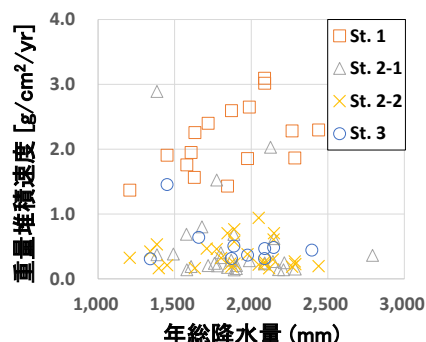


図1 揖斐川水系津屋川の池沼における堆積速度と年総降水量の関係

(2) 災害時の重要防災拠点におけるエネルギー確保に関する研究

大規模災害時の人命救助、早期復旧に資するため、発災後のエネルギー確保に関する研究に取り組んだ。一環として、南海トラフ巨大地震後の愛知県内の防災拠点での電力途絶を例に、非常用発電機用燃料の在庫現状と供給手法を検討した。既存データを用い、防災拠点の燃料消費量と在庫量、県内の道路復旧計画、燃料在庫、輸送手段について現状を調査し、車両の必要稼働数およびその課題を明らかにした。

表1 愛知県内の自治体庁舎および災害拠点病院(災害医療活動拠点1箇所含む)の想定発電容量

	自治体庁舎				災害拠点病院					合計		
	市町村 庁舎数	延床 面積	想定合計 発電容量	想定燃料 消費量	病院数	合計 病床数	合計床 面積	想定合計 発電容量	想定燃料 消費量	拠点数	想定合計 発電容量	想定燃料 消費量
	箇所	千m ²	kW	kL/d	箇所	床	千m ²	kW	kL/d	箇所	kW	kL/d
対象計	77	1,205	37,600	252	37 ⁽¹⁾	21,612	2,135	96,000	643	114	133,600	888

(3) 人工衛星 SAR 画像を用いた浸水範囲の簡易推定

令和5年6月台風2号に起因した豪雨で被害を受けた豊橋市柳生川流域を対象に、人工衛星搭載の合成開口レーダー(SAR)を用いた浸水域の抽出に取り組んだ。その結果、発災前後のSAR画像を使用し、合成画像の差分抽出(浸水域が赤色で表示)を行ったところ、浸水被害から1日経過後においても浸水域と推定される箇所があることが見て取れる。また、SARによる推定浸水域が含まれるグリッド数と実績浸水地点の合致度を調査したところ、推定浸水域が含まれる全34グリッド中、8グリッドは実績浸水地点が含まれた。浸水後1日経過して排水されたことを考慮すれば、本手法により浸水域を概ね特定できることが示唆された。



図2 合成後の SAR 画像(柳生川沿い)

6. 構成員研究業績

(1) 概要

減災連携研究センターでは、大地震を始めとする自然災害と、それに伴い都市や人間社会に生じる様々な被害の予測と軽減対策に関する研究を実施している。これらの多くは既存の研究分野で行われていたが、分野横断的な連携による新たな災害学理の追求と成果の社会実装を強く意識した研究が進められている。

① 論文および学会発表・講演・受賞等

専任教員・特任教員および寄附研究部門教員による令和5年度の研究業績は、著書8編、査読付き論文24編（うち欧文7編、和文17編）、査読無し論文24編、発表・講演233件である。その他、学会での研究成果報告および講演等を多数行っている。学術研究についても従来の専門領域に閉じたもののみならず、社会に対する様々な提言型の研究成果が多いことも本センターの特徴として特筆される。また令和5年度中には7つの賞を受賞し、研究レベルは全国的に見ても高い。

② 研究成果の社会実装および国際連携

論文等の執筆以外でも、国や地方自治体の災害予測・被害想定・政策立案等の取り組みに多くの教員が中核的に参画することで研究成果の社会実装が進められている。また、各種の防災人材育成企画において、現場の技術者や一般市民に向けて最新の研究成果を含む知見を分かり易い形で提供している。平成26年度から東海圏減災研究コンソーシアム、平成27年度からSIP（戦略的イノベーション創造プロジェクト）による「地域協働と情報連携による地域密着型減災シンクタンク構想」、平成30年度からSIP第2期「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」を進め、さらに令和2年度からは「防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト」および「屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯（恵那山－猿投山北断層帯）における重点的な調査観測」を進め開始し、防災・減災に関する産学官民の連携活動が推進されている。また平成29年度からJICA草の根技術協力事業（モンゴル）、令和2年度からJST-JICA「地球規模課題対応国際科学技術プログラム(SATREPS)」によるコロンビアとの国際共同研究や、コロンビアおよびモンゴルとのJSPS二国間共同研究も進めてきた。

令和5年度は、さらに、内閣府CSTI戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「スマート防災ネットワークの構築」(サブ課題「リスク情報による防災行動の促進」)における「水災害リスク・被害影響可視化技術」のうち「港湾における高潮・波浪浸水リスク評価技術の開発」(2023-2025)、科研費国際加速基金 国際共同研究強化 (B)「基礎地盤含む包括的建築耐震性能評価」、文部科学省科学技術試験研究委託事業「防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト」のサブ課題2「地震防災情報創成研究」(f)「発災時の企業の事業活

動停止を防ぐ」、総合地球環境学研究所・土地利用革新のための知の集約プログラム（インキュベーション研究）「氾濫原―輪中景観における災害軽減／生態系保全のための自然・文化を基盤とする解決策の体系化：持続的な地域の共創に向けた社会規範の再構築に向けて」、JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）：モンゴルにおける地球環境変動に伴う大規模自然災害への防災啓発プロジェクト（2017～2023）等を実施した。

③ 報道等

上記の名古屋大学の取り組みは社会的にも大きな注目を集め、令和5年度は関東大震災百周年にあたり、さらに令和6年元日には能登半島地震が起きたことから、研究成果に対して説明が求められ、令和5年度に本センター教員が関与した報道件数は例年を遙かに超え220件に及んだ。

以上のように研究活動は順調に行われている。

教員の発表論文・著書一覧

- (注) ・記載する論文・著書は、本学において行った研究に関する成果をまとめたものに限る
 ・2023年度中に公表されたものであること(“in press” 或いは「掲載決定」は原則として登録しない)
 ・“in press” 或いは「掲載決定」の論文で学会誌等が刊行前に電子版で公開されている場合は、学会誌等が刊行した時点で記載する
 ・論文は、学会誌、学術雑誌に投稿し掲載、または執筆依頼に基づき学会誌、学術雑誌、権威ある一般雑誌に掲載されたものであること
 ・CD-ROMによる発表でページ付けのないものは、「ページ」欄に「CD-ROM」と記載すること
 ・著者の人数が多い場合は、全著者欄に主な著者数名を記載して、最後に「・・・他」と記載しても良い

1 減災研究連携領域 2 共創社会連携領域 3 寄附部門 4 産学協同研究部門 5 研究員など	本センターの 教員名				著書の場合は空 欄			1 論文 2 著書 3 総説・解説 4 作品 5 国際会議プロ シーディングス 6 その他	1 査読有 2 査読無
部門	氏名	全著者	題目	掲載誌名/出版社	巻(号)	ページ	発行年月	分類	査読
1	鷺谷 威	Monika Przeor, Raffaele Castaldo, Luca D' Auria, Antonio Pepe, Susi Pepe, Takeshi Sagiya, Giuseppe Solaro, Pietro Tizzani, José Barrancos Martínez & Nemesio Pérez	Geodetic imaging of magma ascent through a bent and twisted dike during the Tajogaite eruption of 2021 (La Palma, Canary Islands)	Scientific Reports	14	212	2024年1月	1	1
1	鷺谷 威	光井能麻・鷺谷 威	活断層の長期評価と地震動予測に関するアンケート調査 その1: 日本活断層学会・日本地震学会編	活断層研究	59	1-14	2023年12月	1	1
1	鷺谷 威	Cabrera-Pérez, I; D'Auria, L; Soubestre, J; Przeor, M; Barrancos, J; García-Hernández, R; Ibáñez, JM; Koulakov, I; van Dorth, DM; Ortega, V; Padilla, GD; Sagiya, T; Pérez, N	Spatio-temporal velocity variations observed during the pre-eruptive episode of La Palma 2021 eruption inferred from ambient noise interferometry	Scientific Reports	13	12039	2023年7月	1	1
1	鷺谷 威	鷺谷 威・光井能麻・橋富彰吾	活断層の長期評価と地震動予測に関するアンケート調査	日本地震工学会誌	49	45-48	2023年6月	1	2
1	鷺谷 威	鷺谷 威	1923年関東地震の測地データが地震学にもたらしたもの	地震ジャーナル	75	71-77	2023年6月	1	2
1	鷺谷 威	Satrio Muhammad Alif, Kuo-En Ching, Takeshi Sagiya, Widya Nabila Wahyuni	Determination of Euler pole parameters for Sundaland plate based on updated GNSS observations in Sumatra, Indonesia	Geoscience Letters	11	16	2024年3月	1	1
1	鈴木康弘	石井祥子・奈良由美子・鈴木康弘・稲村哲也・バートルガ・オトゴンツェツェグ・ナラマンダハ	モンゴルにおける防災啓発ー防災カルタ、市民主導防災ーおよび遠隔教育	放送大学研究年報	41	11-27	20231030	1	2
1	鈴木康弘	岩城麻子・森川信之・先名重樹・藤原広行・鈴木康弘	活断層の詳細位置形状を取り入れた断層近傍の強震動予測	第16回日本地震工学シンポジウム論文集		G417-13	2023	1	2
1	鈴木康弘	長谷川直子・鈴木康弘 編	今こそ学ぼう地理の基本 防災編	山川出版			2023	2	2
1	鈴木康弘	伊藤達雄・鈴木康弘編	持続的社會づくりへの提言: 地理学者三代の百年	古今書院			2023	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘・杉戸信彦・中林一樹・阪本真由美	わかる！ 取り組む！ 新・災害と防災 地震	帝国書院		8-21, 38-39	2024	2	2
1	鈴木康弘	奈良由美子・鈴木康弘編	レジリエンスの科学	放送大学出版会			2024	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘	能登半島地震と活断層	世界/岩波書店	979	28-34	2024	3	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘・石山達也・岡田篤正・安江健一	1:25000活断層図「師崎」図幅	国土地理院			2023	4	2
1	富田孝史	大江崇, 富田孝史	津波火災の延焼発生リスク評価モデルの開発	土木学会論文集	79(17)	23-17047	202311	1	1
1	富田孝史	甲斐田秀樹, 木原直人, 新井田靖郎, 富田孝史	砕波の影響を受ける津波漂流物の移動過程に関する研究	土木学会論文集	79(17)	23-17037	202311	1	1

1	富田孝史	甲斐田秀樹, 木原直人, 大鳥靖樹, 富田孝史	スクリーニング手法を導入した津波漂流物による影響の包括的な評価フローの提案	土木学会論文集	79(18)	23-18167	2023.10		1	1
1	富田孝史	富田孝史, 三河大晟	異常潮位を除去した観測潮位による想定最大規模の高潮の再現期間推定	土木学会論文集	79(18)	23-18041	2023.10		1	1
1	富田孝史	樋口直人, 中村隆志, 近藤達男, 木全啓介, 佐藤昌宏, 原信彦, 富田孝史	港内波浪の入射波向の簡易推定法を組み込んだ高潮・高波浸水解析法の提案	土木学会論文集	79(18)	23-18069	2023.10		1	1
1	富田孝史	阿部隼人, 蜂須賀大智, 富田孝史	臨海石油施設を核とした石油輸送に及ぼす南海トラフ巨大地震・津波の影響	土木学会論文集	79(18)	23-18090	2023.10		1	1
1	長江拓也	Kang Jae-Do, Kajiwar Koichi, Tosauchi Yusuke, Sato Eiji, Inoue Takahito, Kabeyasawa Toshimi, Shiohara Hitoshi, Nagae Takuya, Kabeyasawa Toshikazu, Fukuyama Hiroshi, Mukai Tomohisa	Shaking table tests of a full-scale 10-story reinforced-concrete building (2015). Phase II: Seismic resisting system	EARTHQUAKE ENGINEERING & STRUCTURAL DYNAMICS	vol. 52-6	pp.1932-1955	2023年5月		1	1
1	長江拓也	Jin Jialiang, Nagae Takuya, Chung, Yu-Lin	Seismic and collapse behavior of existing high-rise steel buildings under long-period earthquakes	Journal of Constructional Steel Research	Volume 211		2023年12月		1	1
1	長江拓也	Yuncheng Zhuang, Xiaodong Ji, Lei Sun, Koichi Kajiwar, Jae-Do Kang, Takuya Nagae	Damage inference and residual capacity assessment for an E-Defense 2018 ten-story RC test structure	Engineering Structures	Volume 302		2024年3月		1	1
1	長江拓也	Swarup Ghosh, Farhad Dashti, Takuya Nagae, Hiroshika Uta	Numerical simulation of the 2010 4-story reinforced concrete structure tested on the E-defense shake table	Engineering Structures	Volume 306		2024年5月		1	1
2	飛田 潤	都築充雄, 幸山寛和, 飛田潤, 斎藤侑賢, 山下現生	大規模地震災害時の地域モニタリングに向けたMEMS地震計観測網	第16回日本地震工学シンポジウム論文集		Day1-G418-07	2023.11		1	2
2	飛田 潤	永坂英明, 大西亮, 伊藤一成, 吉田靖司, 飛田潤	非定常振幅スペクトルを用いた低層建物1点計測による地震時卓越振動数の変化の把握	第16回日本地震工学シンポジウム論文集		Day1-G419-09	2023.11		1	2
2	飛田 潤	奥祥平, 高橋武宏, 品川恭一, 護雅史, 飛田潤	常時微動計測に基づく戸建て木造住宅の地震経験後の振動特性	第16回日本地震工学シンポジウム論文集		Day3-G414-18	2023.11		1	2
2	飛田 潤	飛田潤, 薄坂嶺, 角空音	免震建物の振動実験・観測による建物振動特性と免震装置特性の長期モニタリング	第16回日本地震工学シンポジウム論文集		Day3-G419-23	2023.11		1	2
2	飛田 潤	護 雅史, 藤内 繁明, 小橋 知季, 河合 良道, 金森 愛咲美, 飛田 潤	長期地震観測と常時微動計測に基づくスチールハウスの振動特性分析	日本地震工学会論文集	24(1)	1-17	2024.2		1	1
2	千葉啓広	岡田恵実, 町屋弦一郎, 西尾 吏啓, 千葉啓広, 荒木裕子, 平山修久	南海トラフ地震が時間差で発生した場合の行動を考える勉強会ツールの開発と実践	地域安全学会論文集	No.43	pp.137-146	2023年11月		1	1
2	木作尚子	木作尚子, 大西一 嘉	乳児院における夜間火災発生時の避難体制に関する研究(その1) アンケート調査からみる職員配置の課題	日本建築学会計画系論文集	812	2643-2650	2023.10.		1	1
2	平山修久	大杉裕康, 平山修久	地震住家被害による木材固定炭素開放量に基づく災害廃棄物CO2排出量評価手法の構築	土木学会論文集G(環境)	79(26)	23-26019	2023年10月		1	1
2	平山修久	平山修久, 永田尚人, 葛畑秀亮, 河田恵昭	災害廃棄物仮置場滞留量からみた復旧の質(QOR)に関する検討	地域安全学会論文集	43	337-343	2023.11		1	1
2	平山修久	岡田恵実, 町屋弦一郎, 西尾吏啓, 千葉啓広, 荒木裕子, 平山修久	南海トラフ地震が時間差で発生した場合の行動を考える勉強会ツールの開発と実践	地域安全学会論文集	43	137-146	2023.11		1	1
2	平山修久	Ola MOHAMED, Nagahisa HIRAYAMA	Investigating the Relationship Between Water and Sanitation Security and COVID-19 Using Multivariate Regression and Scattered Chart Analysis	9th IWA-ASPIRE Conference & Exhibition 2023		Abstract No.:00528	2023年10月		5	2
2	平山修久	千葉啓広, 野村一保, 水井良暢, 廣井悠, 中村洋光, 平山修久	臨時情報発表時の社会事象とその要因の推定に関する一考察～なぜなぜ分析を応用した災害事象の要因分析手法の検討～	地域安全学会梗概集	52	79-83	2023.5		1	2
2	平山修久	平松佳采, 平山修久	豊川市防災センターの巨大床面地図の豊川市職員防災研修への展開の取り組み	地域安全学会梗概集	52	147-150	2023.5		1	2
2	平山修久	岡田恵実, 柴田智隼, 町屋弦一郎, 人見幸希, 千葉啓広, 荒木裕子, 平山修久	南海トラフ地震と臨時情報について理解を深めるための災害行動想定ワークの開発と実施	地域安全学会梗概集	52	185-188	2023.5		1	2
2	平山修久	平山修久, 臼田裕一郎	Google マップを活用した災害時の応急給水拠点情報共有	環境衛生工学研究	37(3)	16-18	2023.7		1	2
2	平山修久	山口泰, 藤本幸士, 平山修久	災害時対応力向上のための災害拠点病院と水道事業との連携カード「名古屋モデル」の開発	環境衛生工学研究	37(3)	19-21	2023.7		1	2

2	平山修久	大杉裕康, 平山修久	建築資材の炭素貯蔵量に基づく地震後の家屋解体に伴うCO2排出量の評価手法の構築	環境衛生工学研究	37(3)	113-115	2023.7	1	2
2	平山修久	平松佳采, 松本めぐみ, 平山修久	床面地図を活用した部局横断型災害廃棄物ワークショップの実践	環境衛生工学研究	37(3)	110-112	2023.7	1	2
2	平山修久	Jhumar SIOSON, Nagahisa HIRAYAMA	Development of Self-Evaluation Tools in the Business Continuity Management of the Large-Scale Operating Mining Companies in the Philippines	Environ. Sanit. Eng. Res.	37(3)	125-127	2023.7	1	2
2	平山修久	平山修久, 野村一保, 福和伸夫	プロジェクションマッピングを活用した災害廃棄物ワークショップの状況付与シナリオに関する考察	第34回廃棄物資源循環学会研究発表会講演原稿2023		111-112	2023.9	1	2
2	平山修久	大杉裕康, 平山修久	住家被害による家屋解体及び運搬に伴うCO2排出量評価手法の検討	第34回廃棄物資源循環学会研究発表会講演原稿2023		135-136	2023.9	1	2
2	平山修久	平山修久	南海トラフ地震臨時情報発表時の被災事業体支援のあり方	令和5年度全国会議(水道研究発表会)講演集		812-813	2023年10月	1	2
2	平山修久	吹元雅崇, 平山修久	地図アプリケーションを活用した災害時の情報共有方策	令和5年度全国会議(水道研究発表会)講演集		832-833	2023年10月	1	2
2	平山修久	平田明寿, 行木利彰, 藤井俊二郎, 中出悟, 飯塚麻莉, 平山修久	計画策定, 訓練, 人材育成, 技術継承等に資する被災シナリオと事態想定マップの検討	令和5年度全国会議(水道研究発表会)講演集		868-869	2023年10月	1	2
2	平山修久	千葉啓広, 水井良暢, 野村一保, 高橋成実, 中村洋光, 平山修久	南海トラフ地震の半割れシナリオに対する地域社会の耐災性を考えるワークショップの検討と実践	地域安全学会梗概集	53	113-116	2023.11	1	2
2	平山修久	平山修久	南海トラフ巨大地震に向けた災害拠点病院での応急給水対策のあり方	第29回日本災害医学会総会・学術集会プログラム・抄録集	28 Supplement	352	2024.2	1	2
2	平山修久	平山修久	復旧の質を考慮した災害廃棄物処理対策	環境浄化技術	22(4)	19-26	2023.4	3	2
2	平山修久	平山修久, 臼田裕一郎	R6能登半島地震でのGoogleマップを活用した水道に係る情報共有の取り組み	日本災害情報学会第28回学会大会予稿集		150-151	1905年7月	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の遺産:30年間の研究を支えたもの	地震ジャーナル	75号	3-21	2023	1	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災後の帝都復興事業に対する予算削減の真相-蔵相・井上準之助の役割とその評価	中部「歴史地震」研究年報	第11号	121-126	2023	1	2
3	武村雅之	武村雅之	1923年関東地震に対する強震動地震学の成果-国内地震記象・被害統計資料・体験談の発掘と解析	地震	第76巻特集:1923年大正関東地震	111-128	2023	1	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災がつくった東京:首都直下地震へどう備えるか	中公選書/中公新社		245pp	2023	2	2
3	武村雅之	武村雅之	図説 関東大震災の全容	名古屋大学減災連携研究センター		64pp	2024	2	2
3	武村雅之	武村雅之・北原系子	(監修)関東大震災:1923年、東京は被災地だった(改訂版)	東京防災救急協会		135pp	2023	2	2
3	武村雅之	北原系子・武村雅之・鈴木淳・森田祐介・高野宏康	関東大震災絵図:揺れたあの日のそれぞれの情景	東京美術		143pp	2023	2	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の記憶をたどり防災の今を視る(インタビュー)	Ace建設業界	4月号	6-11	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	海溝型巨大地震の震源直上での出来事:関東大震災と神奈川県	J.Geophys.Lett.	Vol.19No.2	16-17	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	東京を支え続ける関東大震災-復興小公園と井下清	報道写真展「関東大震災から100年-写真に刻まれた記憶」(図録)/新聞通信調査会・共同通信社	2023/8/10発売	122-123	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	武村雅之先生インタビュー 関東大震災の研究に携わって	日本地震工学会誌	6月号 No.49	3-6	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	マグニチュード7超の大地震が2日間に6回も起きていた…だれも詳細を知らなかった「関東大震災」の真実(インタビュー)	PRESIDENT Online(1)	2023/6/15 15:00		2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	揺れたのは犠牲者は4%だった…関東大震災で「東京での犠牲者6万人超」という途轍もない被害が出た理由(インタビュー)	PRESIDENT Online(2)	2023/6/20 12:00		2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	「海岸のタフマン」はリスクが大きすぎる…震災の専門家が「倒壊しなければいいわけではない」と警告するワケ(インタビュー)	PRESIDENT Online(3)	2023/6/21 9:00		2023	3	2

3	武村雅之	武村雅之	関東大震災100年と向き合う(4)(インタビュー)	週刊金曜日	2023/7/28	16-19	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	帝都復興事業を再評価する(座談会)X筒井・紅林	東京人	9月号(No.469)	18-27	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	1923 Great Kanto Earthquake:Damages by the Quake and Tsumami	Journal of Disaster Research	Vol.18 No.6,	1-3	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	過去に学び、未来につなぐ地震学(インタビュー)	現代思想総特集	9月臨時増刊号	114-125	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災から100年 その5 帝都復興事業	日本地震学会広報紙なみふる	8月号	2-3	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	首都としての品格を東京は取り戻せ	月刊公明	9月号	2-7	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	特集:関東大震災100年 関東大震災を知る(インタビュー)	港湾	8月号(特集)	4-9	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	特集 関東大震災から100年 帝都復興事業における公園整備と現在の状況	土木施工	9月号(特集)	112-115	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災後の帝都復興事業と現在の東京	学士会報	第962号	55-59	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災を今に伝える-災害と復興、そして現在	窮理	第24号	11-19	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災100年 先人に学ぶ「調査」と「記録」の大切さ(インタビュー)	災害情報学会誌(巻頭言)	No.94	1	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東地震、地震がもたらす被害～火災・地盤・津波	関東大震災・南海地震パンフレット/東大地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会		10	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	復興の品格 関東大震災から考える市民・政治家・専門家の責任(インタビュー)	災害復興学会誌	第30号 Vol.12No.1	9-14	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の教訓を忘れないために 目先の利益優先で損なわれる安全と景観(特集 インタビュー)	月刊保団連	10月号	4-11	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災研究の総括―被害と復興から学ぶ地震防災	住団連令和5年秋号	No.337	25-28	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	連載コラム その30 関東大震災から100年、第2回 震源域直上で何が起こったか	日本地震工学会ニュースレター	Vol.12No.1	9-11	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	連載コラム その31 関東大震災から100年、第3回 なぜ東京で最大の被害がでたのか	日本地震工学会ニュースレター	Vol.12No.2	14-15	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	連載コラム その32 関東大震災から100年、第4回 東京の震災復興とその後	日本地震工学会ニュースレター	Vol.12No.3	14-16	2023	3	2
3	武村雅之	武村雅之	(監修)ノブさんからのメッセージ:手記に学ぶ関東大震災	東京防災救急協会/桜映画社	DVD		2023	4	2
3	武村雅之	武村雅之	防災最前線関東大震災に学ぶ「今私たちにできること」(インタビュー)	港区関東大震災100年プロジェクト	港区HP(出演)		2023	4	2
3	武村雅之	第16回日本地震工学シンポ行事・企画部会、武村雅之	1923年関東大震災の史跡・遺跡マップ	第16回日本地震工学シンポジウム	パンフレット		2023	4	2
3	武村雅之	武村雅之	(講演録)「関東大震災100年を前に復興の歴史から学ぶ」を聞いて(2022年11月)	UIFA JAPON NEWSLETTER	No.124 4月	1	2023	6	2
3	武村雅之	武村雅之	書評「武村雅之著「関東大震災がつくった東京」(福島隆史)	災害情報学会誌	No.94	4	2023	6	2
3	武村雅之	武村雅之	書評「関東大震災がつくった東京」 関東大震災100年の読書案内(萬年一剛)	神奈川県温泉地学研究所観測だより	第73号		2023	6	2
3	武村雅之	武村雅之	(講演録)都市計画が命を救う―関東大震災の教訓	JASTJNEWS(日本科学技術ジャーナリスト会議会報)	No.109	4	2023	6	2
3	武村雅之	武村雅之	(講演録)関東大震災に学ぶ―帝都復興事業と現在の東京と名古屋	アーバン・アドバンス/名古屋都市センター	No.81	1-10	2024	6	2
3	武村雅之	武村雅之	(講演録)関東大震災100年の学びとこれからの東京	AVANT Report/アバンアソシエイツ	Vol.42	7	2024	6	2

3	武村雅之	武村雅之	「資料を残す」ということの意義-関東大震災研究30年を通じて思うこと	専門図書館/専門図書館協議会特集:「関東大震災	第317号		2024	3	2
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災がつくった東京ー震災復興後の課題と現状の危機	機関誌「Re」/人建築保全センター	222(春)号		2024	3	2
4	田代 喬	田代 喬, 小沢裕治, 羽田野拓己, 末松憲子	名古屋大学減災連携研究センターライフライン防災(東邦ガスネットワーク)産学協同研究部門 2022年度調査研究・活動報告書	名古屋大学減災連携研究センターライフライン防災(東邦ガスネットワーク)産学協同研究部門			202304	6	2
4	田代 喬	田代 喬, 陀安 一郎, 森 誠一	河川と接続した半閉鎖性水域の堆積物からみた氾濫原環境の分析:揖斐川水系津屋川における現地観測の結果から	河川技術論文集/土木学会	29	515-520	202306	1	1
4	田代 喬	荒木裕子, 倉田和己, 田代 喬	1959年伊勢湾台風に際した名古屋市の避難に関する研究(その1):発災から閉鎖までの避難所と発災8日以内及び21日後の避難者分布	日本建築学会計画系論文集	89(816)	330-338	202401	1	1
4	小沢裕治	小沢裕治, 橋富彰吾, 飯坂真也, 富田孝史	南海トラフ地震後の防災拠点におけるエネルギー確保に関する考察ー愛知県内での電力途絶を例にしてー	地域安全学会論文集	44	電子ジャーナル	2024.03	1	1

教員の発表・講演等一覧

(注)・2023年度中の成果

- ・「開催地」は大学等の会場名でも可
- ・日本国内で開催された国際会議は、種別を「国際」とする
- ・本人が発表したものに限る

1 減災研究連携領域 2 共創社会連携領域 3 寄附部門 4 産学協同研究部門 5 研究員など	本センターの 教員名				大学等会場名でも可		1国際 2国内	1 基調・招待講演 2 口頭発表 3 ポスター発表 4 その他
部門	氏名	全発表者	発表題目	会議等名称	開催地	発表年月	国際/国内	発表種類
1	鷺谷 威	Takeshi Sagiya, Arong Bai	A High-angle Strike-slip Model for the Northern and Central Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line Fault System, Central Japan	AGU 2023 Fall Meeting	San Francisco	2023年12月	1	2
1	鷺谷 威	鷺谷 威	長岡平野西縁断層帯周辺におけるGNSS地殻変動観測網の稠密化の検証	日本測地学会第140回講演会	仙台市	2023年10月	2	2
1	鷺谷 威	Takeshi Sagiya, Angela Meneses-Gutierrez, Arong Bai, Naoki Yamada	Geodetic exploration of elastic/inelastic behavior of the earth's crust with time-dependent deformation	IUGG 2023 General Assembly	Berlin	2023年7月	1	2
1	鷺谷 威	Takeshi Sagiya, Angela Meneses-Gutierrez, Arong Bai, Naoki Yamada	Crustal Mechanical Properties Inferred from Time-Dependent Crustal Deformation	The 6th Japan-Taiwan Workshop on Crustal Dynamics	宇治市	2023年6月	1	2
1	鷺谷 威	Takeshi Sagiya	Earth, Planets and Space: Its status in 2023	日本地球惑星科学連合2023年大会	千葉市	2023年5月	2	3
1	鷺谷 威	鷺谷威・光井能麻・橋富彰吾	活断層の地震ハザード情報を社会にどのように伝えるか	日本地球惑星科学連合2023年大会	千葉市	2023年5月	2	3
1	鷺谷 威	鷺谷 威	地震・地震防災論	伸進館コロキウム	西条市	2023年12月	2	1
1	鷺谷 威	鷺谷 威	自然災害論	防災・減災カレッジ	岡崎市	2023年10月	2	1
1	鷺谷 威	鷺谷 威	南海トラフ地震:その概要、被害予測と対策	名古屋ShakeOut事前学習会	名古屋市	2023年8月	2	1
1	鷺谷 威	鷺谷 威	南海トラフ地震の被害想定～愛知県はどうなる	災害・ボランティアを学ぶ会	オンライン	2023年7月	2	1
1	鷺谷 威	鷺谷 威	自然災害論	防災・減災カレッジ	豊田市	2023年7月	2	1
1	鷺谷 威	鷺谷 威	1923年関東地震に関する測地観測の今日的意義	減災連携研究センターシンポジウム	名古屋市	2023年6月	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘・石山達也・渡辺満久・後藤秀昭・杉戸信彦・松多信尚・廣内大助	屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯に関する変動地形学的考察	日本地球惑星科学連合(JpGU)	千葉県幕張	2023/05/21	2	3
1	鈴木康弘	鈴木康弘	地形と活断層ー活断層大地震に備えるー	防災・減災カレッジ	名古屋大学	2023/07/22	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘	1:25,000活断層図「師崎」図幅の解説	国土地理院活断層図説明会	オンライン	2023/08/17	2	1
1	鈴木康弘	鈴木康弘	ハザードマップの活用と課題	地図展	名古屋市	2023/09/19	2	1
1	鈴木康弘	鈴木康弘	活断層とは	防災学術連携体シンポジウム	オンライン	2023/09/29	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘	地形と活断層ー活断層大地震に備えるー	防災・減災カレッジ	名古屋大学	2023/10/28	2	2
1	鈴木康弘	山下日和・鈴木康弘・向山 栄・室井翔太・山下久美子・福場俊和・村木昌弘・杉本 惇・小俣雅志	2016 年熊本地震の地表地震断層周辺における地表変形特性の分析	2023年日本活断層学会学術大会	福岡市	2023/11/10	2	3
1	鈴木康弘	鈴木康弘・石山達也・岡田篤正・安江健一・五味雅宏	知多半島の活断層ー地理院活断層図「師崎」の新知見	2023年日本活断層学会学術大会	福岡市	2023/11/10	2	2

1	鈴木康弘	Yasuhiro Suzuki, Mitsuhsa Watanabe, Takashi Nataka, Hedeaki Goto, Tomoru Yamanaka, Wataru Mori, Munkhsaikhan Adiya, Demberel Sodnomsambuu, Bayasgalan Amgalan, Narangerel Serdyanjiv, Gantulga Bayasgalan	New Evidence of Ulaanbaatar Fault Activity Revealed in 2020-2022 Survey	American Geophysical Union (AGU)	San Francisco	2023/12/01	1	3
1	鈴木康弘	鈴木康弘	ハザードマップと地理学ー現状の課題解決への貢献を考えるー	立命館地理学会シンポジウム	京都	2023/12/02	2	1
1	鈴木康弘	鈴木康弘	令和6年能登半島地震から学ぶこと	活断層自治体連携会議	オンライン	2024/02/15	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘	詳細DEM整備の重要性:提言に向けて	日本活断層学会オンラインワークショップ	オンライン	2023/02/27	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘・田中 靖・八反地 剛・石黒 聡士	災害地理学の発展をめざしてー日本地理学会の災害対応開始から四半世紀の歩みと今後の展望ー(シンポジウムの趣旨)	2024年日本地理学会春季大会	東京・青山学院大学	2024/03/19	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘	能登半島地震直後の地理学的調査の社会的意義	2024年日本地理学会春季大会	東京・青山学院大学	2024/03/19	2	2
1	鈴木康弘	岩佐佳哉・後藤秀昭・山中 蛍・中田 高・熊原康博・鈴木康弘・渡辺満久・楳原京子	令和6年能登半島地震に伴う津波浸水分布図の作成とその地理的特徴	2024年日本地理学会春季大会	東京・青山学院大学	2024/03/19	2	3
1	鈴木康弘	後藤秀昭・岩佐佳哉・山中 蛍・楳原京子・熊原康博・中田 高・鈴木康弘・松多信尚・小倉拓郎・牧田智大・青木賢人	令和6年能登半島地震に伴う海岸の隆起と海底活断層	2024年日本地理学会春季大会	東京・青山学院大学	2024/03/19	2	2
1	鈴木康弘	後藤秀昭・渡辺満久・鈴木康弘・岩佐佳哉・中田 高	ウランバートル断層の南東部における最終氷期以降の活動	2024年日本地理学会春季大会	東京・青山学院大学	2024/03/19	2	2
1	鈴木康弘	鈴木康弘	令和6年能登半島地震と活断層	名古屋大学地震火山研究センター年次報告	名古屋大学	2024/03/21	2	2
1	富田孝史	富田孝史	港湾における災害リスクマネジメント~気候変動影響への対応~	名古屋港危険物専用岸壁荷役統括管理責任者協議会講演会	名古屋大学減災連携研究センター	202311	1	4
1	富田孝史	富田孝史	Addressing Climate Change in the Port Sector	第23回北東アジア港湾シンポジウム	Busan Port International Exhibition & Convention Center(韓国釜山広域市)	202311	2	1
1	富田孝史	富田孝史	臨海部の防災・減災に対する備え~これまでとこれから~	四日市港海岸シンポジウム	四日市港ポートビル(三重県四日市市)	202309	1	1
1	富田孝史	富田孝史	津波、高潮への備え:気候変動影響等に対する港湾の防災・減災	地盤品質判定士会中部支部講演会	名古屋大学減災連携研究センター	202309	1	4
1	富田孝史	富田孝史	国内外の災害とその教訓	学びの杜・学術コース	名古屋大学減災連携研究センター	202307	1	4
1	富田孝史	富田孝史	どうする港湾:気候変動影響等に対する港湾の防災・減災	令和5年度静岡県港湾振興会総会	ホテルグランヒルズ静岡(静岡県静岡市)	202307	1	1
1	富田孝史	富田孝史	Disaster Risk Reduction in Japan	Disaster Mitigation Research Center of Nagoya Univ.交流会	名古屋大学減災連携研究センター	202305	2	4
1	富田孝史	富田孝史	臨海部の防災・減災は大丈夫?ーこれまでの災害教訓と今後の地域変容ー	第187回防災アカデミー	名古屋大学減災連携研究センター	202304	1	4
1	長江拓也	太田和杜, 高谷和樹, 長江拓也, 高橋武宏	2019年E-Defense高耐震木造住宅実験における枠組壁工法の壁脚部破断評価	日本建築学会北海道支部研究報告集	室蘭工業大学	2023/06/24	2	2
1	長江拓也	LiJionghui, 金家良, 岡崎太一郎, 長江拓也, 藤原淳, 岸田明子, 梶原浩一, 西岐汰	Data reduction for the 2023 E-Defense shaking table test on 10-story steel frame structure Part 1: Instrumentation plan and measured response of beams, panel zones and columns	日本建築学会北海道支部研究報告集	室蘭工業大学	2023/06/24	2	2
1	長江拓也	Jin Jialiang, Li Jionghui, 長江拓也, 岡崎太一郎, 浅井竜也, 藤原淳, 岸田明子, 西岐汰, 梶原浩	Data reduction for the 2023 E-Defense shaking table test on 10-story steel frame structure Part 2: Contribution of buckling-restrained braces	日本建築学会北海道支部研究報告集	室蘭工業大学	2023/06/24	2	2
1	長江拓也	鈴木里佳子, 高谷和樹, 浅井竜也, 長江拓也, 神崎喜和, 齋藤直佳, 齊藤功男, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 荒井智治, 西岐太	カーテンウォール内蔵型センサ・アラートシステムに向けた2023年E-ディフェンス実験分析	日本建築学会北海道支部研究報告集	室蘭工業大学	2023/06/24	2	2

1	長江拓也	廣鹿詩, 長江拓也, 浅井健志郎, 浅井竜也	連層耐震壁を有する4階建て実大RC造骨組に対する全体数値解析 カーブドシェルモデルの二方向非線形応答への適用性	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	太田和杜, 高谷和樹, 長江拓也	地中配管設備等の非構造部材を含む3階建て住宅の機能を検証するEーディフェンス実験(首都圏レジリエンスプロジェクト) その33. 枠組壁工法の壁脚部破断評価	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	西岐汰, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 荒井智治, 長江拓也	包括的耐震性能評価実験 その13: 履歴ループ, 履歴吸収エネルギー, 塑性率	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	荒井智治, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 西岐汰, 神崎喜和, 日高和幸, 長江拓也	包括的耐震性能評価実験 その14 カーテンウォール内蔵型センサー・アラートシステム	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	斉藤功男, 神崎喜和, 齋藤直佳, 長江拓也, 高谷和樹, 鈴木里佳子, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 荒井智治, 西岐汰	包括的耐震性能評価実験 その15 カーテンウォール試験体の概要	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	藤直佳, 神崎喜和, 斉藤功男, 鈴木里佳子, 高谷和樹, 浅井竜也, 長江拓也, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 荒井智治, 西岐汰	包括的耐震性能評価実験 その16 カーテンウォール計測計画と実験結果概要	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	日高和幸, 神崎喜和, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 荒井智治, 西岐汰, 長江拓也	包括的耐震性能評価実験 その17 センサー・アラートシステムの開発	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	高谷和樹, 長江拓也, 金家良, 浅井竜也, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 西岐汰	包括的耐震性能評価実験 その18 等価1自由度縮約系による数値解析と実験	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	重田永生, 長江拓也, 浅井竜也, 高谷和樹, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 荒井智治, 西岐汰	包括的耐震性能評価実験 その19 等価減衰定数の評価方法の検討	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	高言舟, 長江拓也, 金家良, 高谷和樹, 浅井竜也, 姜在道, 藤原淳, 岸田明子, 西岐汰, 梶原浩一	包括的耐震性能評価実験 その20 10層S造試験骨組と10層RC造試験骨組の等価1自由度評価	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	鈴木里佳子, 高谷和樹, 浅井竜也, 長江拓也, 神崎喜和, 日高和幸, 梶原浩一, 藤原淳, 岸田明子, 荒井智治, 西岐汰, 齋藤直佳, 斉藤功男	包括的耐震性能評価実験 その21 カーテンウォール内蔵型センサー・アラートシステムにおけるジャイロセンサーを用いた加速度評価	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	金家良, リー ジョンフー, 長江拓也, 岡崎太郎, 浅井竜也, 藤原淳, 岸田明子, 西岐汰, 梶原浩一	包括的耐震性能評価実験 その23 10 層鉄骨造試験体における座屈拘束プレースの耐震性能	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	蔽天浩, 浅井竜也, 長江拓也, 藤原淳, 岸田明子, 西岐汰, 梶原浩一	包括的耐震性能評価実験 その24 光ファイバーによる構造部材のひずみ計測	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	楠浩一, Trevor Yeow, 毎田悠承, 岸田明子, 長江拓也, 梶原浩一	包括的耐震性能評価実験 その26 等価線形化法を用いた構造ヘルスマニタリング手法の適用	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	陳威中, 柴駿甫, 林凡茹, 黄百誼, 長江拓也, 藤原淳, 岸田明子, 西岐汰, 梶原浩一	Comprehensive seismic performance assessment testing Part32 Experimental Study of Suspended Busway Systems	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	長江拓也	川瀬貴晴, 寺本隆幸, 梶原浩一, 藤原淳, 西岐汰, 長江拓也	包括的耐震性能評価実験 その35: 10層鉄骨造試験体の内部空間を利用した設備機器実験の概要	日本建築学会大会学術講演梗概集	京都大学	2023/09/13	2		2
1	Takuya Nagae		System-Level and Component-Level Verification by Seismic-Response Building Tests Towards PBEE	Anniversary Workshop in Commemoration of the 1999 Chi-Chi and 2022 Chihshang Earthquakes	National Center for Research on Earthquake Engineering (NCREE), National Applied Research Laboratories (NARLabs), Taiwan	2023/09/26	1		1

1	Takuya Nagae		System-level verification by seismic-response building tests towards PBEE	International Workshop on Reliability-based Design (27th Domestic Workshop on Technology Related to Reliability-based Design)	School of Environmental Studies, Nagoya University	2023/11/12	1	2
1	長江拓也		二次部材損傷を含む建築耐震性評価と研究動向	日本建築学会近畿支部 鉄骨構造部会 2023年度第2回研究会	大阪科学技術センター	2024/01/19	2	1
1	長江拓也		高耐震木造住宅の地盤・RC基礎含む性能評価法への取り組み	令和5年度 京都大学防災研究所 研究発表講演会	京都大学防災研究所	2024/02/21	2	2
1	長江拓也		大型震動台実験の研究開発による建築構造国際展開	日本建築学会近畿支部 構造力学部会 第71回構造力学コロキウム	立命館大学 大阪梅田キャンパス	2024/03/09	2	1
1	Takuya Nagae		1) International collaborations in the past 5 years, 2) Essential collaborations including exchanged students	Workshop for Academic Exchange and Cooperation between College of Planning and Design, National Cheng Kung University and Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University	國立成功大学	2024/03/04	1	1
1	Takuya Nagae		Improving the resilience of earthquake-damaged buildings through seismic engineering research	Lecture, Earthquake Engineering and Resilience	Tianjin University	2024/03/13	1	1
2	飛田 潤	河合良道, 飛田潤, 護雅史, 藤内繁明, 小橋知季	薄板軽量形鋼造の事務所建築の地震時応答・損傷モニタリング	日本建築学会大会	京都	2023.9	1	2
2	飛田 潤	幸山 寛和, 飛田 潤, 都築 充雄, 斎藤 侑賢, 山下 現生	大規模地震災害時の地域被災モニタリングに向けた地盤・建物の高密度地震観測 その1 地域被災モニタリングの概念と対象地域の概要	日本建築学会大会	京都	2023.9	1	2
2	飛田 潤	斎藤 侑賢, 幸山 寛和, 都築 充雄, 飛田 潤, 山下 現生	大規模地震災害時の地域被災モニタリングに向けた地盤・建物の高密度地震観測 その2 MEMS地震計による地盤高密度地震観測	日本建築学会大会	京都	2023.9	1	2
2	飛田 潤	山下 現生, 幸山 寛和, 都築 充雄, 飛田 潤, 斎藤 侑賢	大規模地震災害時の地域被災モニタリングに向けた地盤・建物の高密度地震観測 その3 建物群の被災状況把握にむけた地震観測	日本建築学会大会	京都	2023.9	2	2
2	飛田 潤	角 空音, 中村 悠太, 飛田 潤	免震用オイルダンパーの空走に関する研究 その3 実建物設置下での減衰性能への影響と経年変化の検討	日本建築学会大会	京都	2023.9	2	2
2	飛田 潤	薄坂 嶺, 飛田 潤	免震建物の継続的な振動実験・観測に基づく振動特性の把握	日本建築学会大会	京都	2023.9	2	2
2	飛田 潤	高野 美希, 平井 敬, 飛田 潤	文化財展示物の地震時損傷防止のための振動実験と動的モデルの構築	日本建築学会大会	京都	2023.9	2	2
2	飛田 潤	飛田 潤	次世代に伝えたい「防災・減災」	あいち防災リーダー会総会	名古屋	2023.4	2	1
2	飛田 潤	飛田 潤	災害情報	あいち防災・減災カレッジ	名古屋	2023.7, 2023.10	2	2
2	飛田 潤	飛田 潤	建築物の耐震・免震・制振	三重県立四日市高校SSH	名古屋	2023.7	2	1
2	飛田 潤	飛田 潤	防災・減災の学び	三重県立津高校SSH	名古屋	2023.8	2	1
2	飛田 潤	飛田 潤	大規模地震災害を想定した施設の安全確保と機能維持	防災・減災セミナー2023名古屋	名古屋	2023.8	2	1
2	飛田 潤	飛田 潤	減災館の振動実験	日本機械学会機械力学・計測制御部門講演会 (D&D2023)	名古屋	2003.8	2	1
2	飛田 潤	飛田 潤	大規模地震災害にむけた施設・住宅の安全確保と機能維持	全国市有物件災害共済会講習会	名古屋	2023.11	2	1
2	飛田 潤	飛田 潤	建築防災論	愛知県消防学校研修	名古屋	2023.12	2	2
2	飛田 潤	飛田 潤	防災・減災の重要性と減災館の取り組み	なごや環境大学	名古屋	2024.1.27	2	1
2	千葉啓広	千葉啓広, 野村一保, 水井良暢, 廣井悠, 中村洋光, 平山修久	臨時情報発表時の社会事象とその要因の推定に関する一考察 ～なぜなぜ分析を応用した災害事象の要因分析手法の検討～	地域安全学会第52回研究発表会(春季)梗概集, pp.79-82	神奈川大学六角橋キャンパス	2023年5月27日	2	2

2	千葉啓広	千葉啓広, 水井良暢, 野村一保, 高橋成美, 中村洋光, 平山修久	広域避難の検討と実施に向けた基礎自治体間の情報共有に関する研究	日本災害情報学会第27回学会大会予稿集, pp.58-59	福島学院大学福島駅前キャンパス	2023年10月28日	2		2
2	千葉啓広	千葉啓広, 水井良暢, 野村一保, 高橋成美, 中村洋光, 平山修久	南海トラフ地震の半割れシナリオに対する地域社会の耐災性を考えるワークショップの検討と実践	地域安全学会第53回研究発表会(秋季)梗概集, pp.113-116	静岡県地震防災センター	2023年11月19日	2		1
2	千葉啓広	柴田 智隼, 人見 幸希, 壁谷 初美, 山本 笙平, 古橋 勝也, 千葉 啓広, 荒木 裕子	～続・豊橋市役所における横のつながりを考える研修～	地域安全学会第53回研究発表会(秋季)梗概集, pp.45-48	静岡県地震防災センター	2023年11月19日	2		1
2	千葉啓広	千葉啓広, 水井良暢, 野村一保, 高橋成美, 中村洋光, 平山修久	南海トラフ地震の半割れシナリオに対する地域社会の耐災性を考えるワークショップに関する一考察	日本災害情報学会第28回大会予稿集, pp.95-96	東京大学福武ホール	2024年3月16日	2		2
2	木作尚子	木作尚子, 千葉啓広, 野村一保, 光井能麻	発災シナリオに基づき災害時の施設の対応を考える	能登半島地震被災施設応援派遣(介護)職員現地報告及び福祉施設の防災BCP研修会	名古屋大学減災館(減災ホール)	2024年3月1日	2		4
2	平山修久	平山修久, 永田尚人, 葛畑秀亮, 河田恵昭	災害廃棄物仮置場滞留量からみた復旧の質(QOR)に関する検討	第53回地域安全学会研究発表会(秋期)	静岡市	2023.11.19	2		2
2	平山修久	平山修久, 臼田裕一郎	Googleマップを活用した災害時の応急給水拠点情報共有	第45回京都大学環境衛生工学研究発表会	京都大学	2023.7.29	2		2
2	平山修久	平山修久, 野村一保, 福和伸夫	プロジェクションマッピングを活用した災害廃棄物ワークショップの状況付与シナリオに関する考察	第34回廃棄物資源循環学会研究発表会講演原稿2023	大阪工業大学	2023.9.12	2		2
2	平山修久	平山修久	南海トラフ地震臨時情報発表時の被災事業体支援のあり方	令和5年度全国会議(水道研究発表会)講演集	東京都	2023.10.19	2		2
2	平山修久	平山修久	南海トラフ巨大地震に向けた災害拠点病院での応急給水対策のあり方	第29回日本災害医学会総会・学術集会	京都市	2024.2.23	2		2
2	平山修久	平山修久, 臼田裕一郎	R6能登半島地震でのGoogleマップを活用した水道に係る情報共有の取り組み	日本災害情報学会第28回学会大会	東京大学	2024.3.17	2		2
2	平山修久	平山修久	南海トラフ地震への備え	清須市防災講演会	清須市民センター	2023.5.13	2		1
2	平山修久	平山修久	なぜ目標管理型災害対応なのか	岡崎市目標管理型ワークショップ	岡崎市役所	2023.5.16	2		1
2	平山修久	平山修久	目標管理型災害対応ワークショップ	岡崎市目標管理型ワークショップ	岡崎市役所	2023.5.16	2		1
2	平山修久	平山修久	災害廃棄物マネジメント	令和5年度佐賀県災害廃棄物処理対策市町職員リーダー研修会	エスプラッツ	2023.5.23	2		1
2	平山修久	平山修久	目標管理型での災害対応	知立市水防訓練防災講和	知立市役所	2023.5.28	2		1
2	平山修久	平山修久	災害対応各論 災害廃棄物の対応	令和5年度春期災害対策専門研修 マネジメントコース:エキスパートA	人と防災未来センター	2023.6.7	2		1
2	平山修久	平山修久	これからの我が国の水道インフラにおけるレジリエンスについて	令和5年度名古屋地区工業用水道協議会	減災館	2023.6.21	2		1
2	平山修久	平山修久	災害時の水・トイレを考える	岡崎市学区福祉委員会	減災館	2023.7.6	2		1
2	平山修久	平山修久	目標管理型での災害対応 トップの役割	岡崎市第1回防災トップセミナー	岡崎市役所	2023.7.11	2		1
2	平山修久	平山修久	災害エスノグラフィから考える災害時対応	安城市自主防災リーダー養成講座	安城市民会館	2023.7.15	2		1
2	平山修久	平山修久	Practical Implementation of Business Continuity Management in Japan in the Context of Disaster Waste Management	Forum on Access to Science Advice on Disaster Waste Management for Local Government Officials in the Philippines	Online	2023.7.20	1		1
2	平山修久	平山修久	巨大地図プロジェクションマッピング手法の横展開	第34回名古屋大学・防災科学技術研究所研究交流会	防災科研東京オフィス	2023.7.21	2		1
2	平山修久	平山修久	住まいの安全と防災まちづくり	2023年度前期 防災・減災カレッジ(防災人材養成研修)	名古屋大学坂田・平田ホール	2023.7.22	2		1
2	平山修久	平山修久	阪神水道企業団における危機管理と他事業体における取り組み状況	阪神水道企業団危機管理研修	阪神水道企業団	2023.8.28	2		1
2	平山修久	平山修久	災害エスノグラフィを活かした災害対応ワークショップ	阪神水道企業団危機管理研修	阪神水道企業団	2023.8.29	2		1

2	平山修久	平山修久	大学での地域連携	JICA草の根技術協力事業「メキシコ市における上下水道震災対策強化プロジェクト」	減災館	2023.9.5	2		1
2	平山修久	平山修久	災害エスノグラフィを活かした災害対応ワークショップ	神奈川県内広域水道企業団危機管理に関する研修NEXT	神奈川県内広域水道企業団	2023.9.14-15	2		1
2	平山修久	平山修久	災害エスノグラフィによる温故知新	国立保健医療科学院災害対応セミナー	保健医療科学院	2023.9.19	2		1
2	平山修久	平山修久	これからの災害廃棄物対策を考える	環境省九州ブロック協議会 災害廃棄物に関する研修会	オンライン	2023.9.21	2		1
2	平山修久	平山修久	豊橋市災害廃棄物WS		豊橋市役所	2023.9.25	2		1
2	平山修久	平山修久	これからの災害廃棄物対策を考える	環境省九州ブロック協議会 災害廃棄物に関する研修会	オンライン	2023.10.10	2		1
2	平山修久	平山修久	災害対応各論 災害廃棄物の対応	令和5年度秋期災害対策専門研修マネジメントコース:エクスパートA	人と防災未来センター	2023.10.17	2		1
2	平山修久	平山修久	災害時のごみとトイレを考える	あいち防災リーダー会 本部研修	安城市民会館	2023.10.22	2		1
2	平山修久	平山修久	住まいの安全と防災まちづくり	2023年度後期 防災・減災カレッジ(防災人材育成研修)	名古屋大学	2023.11.4	2		1
2	平山修久	平山修久	自治体幹部職員を対象としたトップセミナーの取り組み	第35回防災科学技術研究所-名古屋大学研究交流会	減災館	2023.11.11	2		1
2	平山修久	平山修久	災害廃棄物の対応から連携へ	北勢5市5町防災担当者会議	減災館	2023.11.16	2		1
2	平山修久	平山修久	災害廃棄物処理対応について	令和5年度広島県危機管理人材育成研修(専門研修)災害廃棄物処理	広島県庁	2023.11.21	2		1
2	平山修久	平山修久	上下水道事業におけるBCP災害対応について～あなたならどうする～	名古屋市上下水道局BCP定着研修	減災館	2023.11.22	2		1
2	平山修久	平山修久	若手が明るく楽しく防災減災活動に取り組むことができる地域社会を考えるワークショップ	令和5年度つなぎ舎第2回ワークショップ	減災館	2023.11.26	2		1
2	平山修久	平山修久	水道設備の危機管理と災害への備え	令和5年度水道事業担当者研修	ひょうご県民会館	2023.11.28	2		1
2	平山修久	平山修久	災害レジリエントと水道における文明文化	2023年度ダクトイル鉄管協会セミナー-高松会場	香川県社会福祉総合センター	2023.11.29	2		1
2	平山修久	平山修久	「関東大震災から100年」100年間に見る水道整備状況/南海トラフ地震と豊田市の関係・防災備蓄とは	令和5年度豊田市自主防災会連絡協議会事例発表会	豊田市福祉センター	2023.12.2	2		1
2	平山修久	平山修久	災害エスノグラフィを活かしたワークショップ災害文明と災害文化	あま市防災カレッジ レベルアップ講座	あま市役所	2023.12.3	2		1
2	平山修久	平山修久	災害対応力の高い組織づくり～水道の危機管理と応急給水体制の強化に向けて～	大阪市水道局令和アカデミー講座 防災学講座(特別講座)	大阪市水道局	2023.12.4	2		1
2	平山修久	平山修久	情報共有と地域連携 水害にかかる災害ごみ	令和5年度東三河地域防災協議会	減災ホール	2023.12.5	2		1
2	平山修久	平山修久	都市災害論	愛知県令和5年度地震防災科第18期	減災館	2023.12.7	2		1
2	平山修久	平山修久	関東大震災から100年、これからのレジリエントな水道を考える	2023年度ダクトイル鉄管協会セミナー-栃木会場	栃木県総合文化センター	2023.12.20	2		1
2	平山修久	平山修久	生活を支えるインフラ整備について	岐阜県議会「県土強靱化・インフラ整備対策特別委員会」	岐阜県議会棟	2023.12.20	2		1
2	平山修久	平山修久	豊田市の災害文明と災害文化を考える	令和5年度豊田市議会市民シンポジウム	豊田産業文化センター	2024.1.13	2		1
2	平山修久	平山修久	南海トラフに備える水道文明と水道文化	第42回大都市研究会	KKRホテル名古屋	2024.1.22	2		1
2	平山修久	平山修久	災害時の水を考える	津島市防災講演会	津島市生涯学習センター	2024.1.27	2		1
2	平山修久	平山修久	南海トラフ地震理論上最大シナリオの限界 R6能登半島地震	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト 令和5年度情報発信検討会第二回「事業継続」	名古屋大学	2024.1.31	2		1

2	平山修久	平山修久	南海トラフ地震を克服するための地域連携	安城市防災講演会	安城市役所	2024.2.9	2	1
2	平山修久	平山修久	R6能登半島地震から考えるこれからの水道事業BCP	令和5年度岡崎市上下水道局BCP研修	岡崎市	2024.2.15	2	1
2	平山修久	平山修久	水から考える知立市の南海トラフ地震への備え	令和5年度知立市防災講演会	知立市中央公民館	2024.2.17	2	1
2	平山修久	平山修久	水道事業におけるレジリエント R6能登半島地震から考える	大阪広域水道企業団トップセミナー	大阪広域水道企業団	2024.2.21	2	1
2	平山修久	平山修久	災害時の上下水システム～R6能登半島からみえること	GaNコンソーシアム交流会	減災館	2024.3.6	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災を今に伝える-災害と復興、そして現在の備えは？	日本地理学会2022 年春シンポジウム	東京都立大学	2023年3月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	100年目に語る「関東大震災研究事始め」	減災カフェ	名古屋大学減災館	2023年4月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災を振り返るーなぜ東京は大火災が発生したのか？	第23回地震災害マネジメントセミナー	土木学会大講堂	2023年5月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災100年(1)震災の真相：震源、被害、そして復興	日本記者クラブ記者会見	日本プレスセンター（日本記者クラブ）	2023年5月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災100年」を語る	減災館ギャラリートーク	名古屋大学減災館	2023年5月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の真相ー被害と復興から学ぶ地震防災	コンソ・プラザ「一般講演会」	晴海トリトンスクエア Z棟 4F	2023年5月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災ー1923年東京は被災地だった	消防防災展（東洋プリディア）	東京ビッグサイト東7ホール	2023年6月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の真相ー災害原因・復興とその後	AIG損害	新宿NSビル30F	2023年6月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災100年」を語る	減災館ギャラリートーク	名古屋大学減災館	2023年6月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災と復興を俯瞰する	社会連携シンポジウム	名古屋大学減災館	2023年6月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災100年・特別講演（首都直下地震への提言） 被害の真相を知り、現在の都市防災を考える	リアルタイム地震・防災情報利用協議会	ヒューリック&カンファレンス3F	2023年6月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	1923年関東地震で何が起きたのか	防災学術連携会講演	日本学術会議講堂	2023年7月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災からの教訓：震源直上の神奈川県で何があったのか？	神奈川経済同友会講演	横浜崎陽軒本店	2023年7月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災から100年」を語る①	スペシャルギャラリートーク（関東大震災展）	名古屋大学減災館	2023年7月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災からの教訓：100年前、東京で何が起こったか？	経営文化フォーラム	学士会館	2023年7月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災ゆかりの地を巡るツアー	国交省企画（動画あり）7/22・23	東京都内	2023年7月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	巨大災害に備える防災・減災ー関東大震災の復興の歴史から学ぶ	自治体制作講座（自治体議会政策学会）	市ヶ谷自動車会館	2023年8月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災100年」を語る（キッズディ特集）	減災館ギャラリートーク	名古屋大学減災館	2023年8月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	首都直下地震にどう備えるかー関東大震災100年の教訓から考える	日本科学技術ジャーナリスト会議8月例会	遠隔（オンライン）	2023年8月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災がつくった東京：100年後の変容と首都直下地震	関東大震災100年記念シンポジウム	東京ビッグサイト国際会議場	2023年8月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	迫りくる首都直下地震：今こそ関東大震災の被害・救済・復興に学ぶ	関東弁護士連合会	霞が関弁護士会館講堂「クレオ」	2023年8月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災と100年目の東京	建築学会関東大震災100周年シンポジウム	建築会館ホール	2023年9月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災から100年、その時神奈川で何が起きていたのか	関東大震災100年事業、シンポジウム	神奈川県庁本庁舎3階大会議	2023年9月	2	1

3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の正体と教訓 (Characteristics of the 1923 Great Kanto Earthquake and Lessons Learned)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議	日本学術会議講堂	2023年9月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	あれから100年、関東大震災に学ぶ: 帝都復興事業と現代の東京	愛知学院大学モニングセミナー	愛知学院大学110周年記念講堂	2023年9月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災から100年」を語る②	スペシャルギャラリートーク(関東大震災展)	名古屋大学減災館	2023年9月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災100年の学びとこれからの東京	アバンフォーラム	遠隔(オンライン)	2023年9月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災に学ぶ-帝都復興事業と現代の東京と名古屋	令和5年第1回「まちづくりセミナー」	名古屋都市センター	2023年10月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災がつくった東京-それから100年、東京は安全か?	関東大震災100年企画展「震災からのあゆみ」特別講演会	国立科学博物館 日本館2F講堂	2023年10月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災100年」を語る	減災館ギャラリートーク	名古屋大学減災館	2023年11月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災でなぜ東京は最大の被害を出したのか? -大火災の原因とその後	第71回全国消防技術者会議	三鷹市公会堂(光のホール)	2023年11月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の真相を知る: 東京が首都直下地震に怯えるわけ	愛知工業大学あいぼう会	愛知工業大学本山キャンパス	2023年11月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の真相とその後の東京: 震源、被害そして復興から	日本地震工学シンポジウム	パシフィコ横浜	2023年11月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災がつくった東京-首都直下地震へどう備えるか	全国建設青年会議第28回全国大会	東京プリンスホテル	2023年12月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の被害・救済・復興に学ぶ: 帝都復興事業の跡継ぎは名古屋市か	名古屋地方気象台防災講演会	鯉城ホール	2023年12月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災100年」を語る	減災館ギャラリートーク	名古屋大学減災館	2023年12月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災100年の学び-被害・復興とその後の東京について	防災士専門講座	防災士研修センター(神田)	2023年12月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災がつくった東京: 首都直下地震へどう備えるか	朝日カルチャーセンター(新宿)	遠隔(オンライン)	2023年12月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東地震による地震動と被害-始まりは地震記象の発掘	東大地震研究所サイエンスカフェ	遠隔(オンライン)	2023年12月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災100年」を語る	減災館ギャラリートーク	名古屋大学減災館	2024年1月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災の震源・被害・復興-研究30年の成果から見える現在の問題	技術の創造研究会新春講演会	AP 東京丸の内 BCルーム	2024年1月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	関東大震災から生まれた東京と名古屋: 帝都復興事業に学ぶ行政の役割	岩倉市議会講演会	岩倉市生涯学習センター	2024年1月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	1923年関東大震災の地震被害を振り返る-研究30年の成果から見える現在の問題	大阪大学建築工学部門特別講演会	大阪大学吹田キャンパス	2024年1月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災から100年」を語る③	スペシャルギャラリートーク(関東大震災展)	名古屋大学減災館	2024年2月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	「関東大震災100年」を語る	減災館ギャラリートーク	名古屋大学減災館	2024年3月	2	1
3	武村雅之	武村雅之	(講義)「災害史に学ぶ」(地震防災)	全学共通講義(大学教育センター)(前期)	静岡大学	2023年6月	2	4
3	武村雅之	武村雅之	(講義)防災概論: 国家存亡の機を招いた唯一の震災	令和5年度防災・減災カレッジ(前期)	愛知県・豊田市福祉センター	2023年7月	2	4
3	武村雅之	武村雅之	(講義)震災・防災概論: 関東大震災から100年-災害原因と救護	一宮研伸大学総合看護実習	一ノ宮研伸大学	2023年9月	2	4
3	武村雅之	武村雅之	(講義)防災概論: 国家存亡の機を招いた唯一の震災	令和5年度防災・減災カレッジ(後期)	愛知県・西三河県民事務所	2023年10月	2	4
3	武村雅之	武村雅之	(講義)強震動・地震災害史	ふじのくに防災フェロー養成講座	(遠隔)静岡大学	2023年10月	2	4
3	武村雅之	武村雅之	(巡検)日泰寺関東大震災めぐり	令和4年度防災・減災カレッジ	日泰寺	2023年11月	2	4

3	武村雅之	武村雅之	(講義)「災害史に学ぶ」(地震防災)	全学共通講義(大学教育センター)(後期)	静岡大学	2023年12月	2	4
4	田代 喬	田代 喬, 倉田和己, 荒木裕子	伊勢湾台風に伴う広域・長期浸水地域におけるライフラインの復旧過程に関するレビュー: 1. 決壊堤防の仮締切に関する時空間変異	2023年度地域安全学会春季研究発表会	神奈川大学	2023年5月21日	2	2
4	田代 喬	田代 喬	流域治水と地域の特徴を理解して、激甚化する洪水に備えましょう	幸田町災害対策研修会	幸田町役場	2023年5月24日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	流域治水を実践して備えるために	知立市水防訓練防災講話	知立市役所	2023年5月28日	2	4
4	田代 喬	田代 喬	過去の水害を教訓に～伊勢湾台風と東海豪雨が語ること～	令和5年度昭和生涯学習センター前期講座「水害への備え 整っていますか？」	昭和生涯学習センター	2023年6月1日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	地域の特性を知り、起こりえる風水害に備える	四日市市防災大学／四日市市防災・減災女性セミナー(防災士養成研修)	四日市市消防本部	2023年6月17日	2	4
4	田代 喬	田代 喬	伊勢湾台風によって決壊した海岸・河川堤防とその仮締切作業	シンポジウム「伊勢湾台風の災害記録をひも解いて改めて見えてきたこと」、自然災害の経験を未来へつなぐ—名古屋大学減災館の活動から—	名古屋都市センター	2023年7月9日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	水災と津波・高潮	防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」市民防災コース、あいち防災協働社会推進協議会	名古屋大学	2023年7月15日	2	4
4	田代 喬	田代 喬	安城市における被害想定や過去の災害等から豪雨災害のリスクについて学ぶ	令和5年度安城市減災まちづくり研究会	安城市市民会館	2023年7月19日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	近年の水害を踏まえた、流域治水＝治水×水防災について	日本建設業連合会中部支部令和5年度災害対策講習会	名古屋クレストンホテル	2023年7月26日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	伊勢湾台風によって決壊した海岸・河川堤防の応急復旧過程を明らかにする試み	令和5年度第3回北勢5市5町防災担当者連携会議	木曽町役場	2023年8月24日	2	1
4	田代 喬	田代 喬, 陀安一郎	氾濫原—水郷地帯における洪水履歴のデジタル復元(1): フンド水域の底泥コア試料と統計情報から考察する堆積環境	2023年度環境水理部会研究集会, 土木学会水工学委員会環境水理部会	気仙沼	2023年8月31日	2	2
4	田代 喬	倉田和己, 荒木裕子, 田代 喬	1959年伊勢湾台風時の広域復旧戦略に関する資料調査と考察	2023年度日本建築学会大会	京都大学	2023年9月15日	2	2
4	田代 喬	田代 喬	近年の被害傾向と地域の特性を踏まえた激甚化する水害への備えについて	警備災害専修教養特別講義	愛知県警察本部	2023年10月5日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	流域治水を踏まえて地域で進める水害への備え	公益社団法人日本技術士会中部本部建設部会講演会	オンライン	2023年10月14日	2	1
4	田代 喬	野崎健太郎, 松本嘉孝, 田代 喬	御嶽山南麓の無機酸性河川における糸状緑藻 <i>Klebsormidium</i> (Klebsormidiophyceae) 群落の繁茂	日本陸水学会第87回大会	大分大学	2023年10月15日	2	2
4	田代 喬	田代 喬	中部地方の災害履歴とその特徴	国土交通省中部地方整備局新任職員研修(技術・事務職員対象)	国土交通省中部技術事務所	2023年10月19日	2	4
4	田代 喬	田代 喬	「流域治水2.0」って何？～高まる水害リスクに備える新たな取組～	第143回げんさいカフェ	名古屋大学減災館	2023年10月23日	2	1
4	Tashiro, T.	Tashiro, T.	Variations in sedimentation environments of inland waters in western Nobi Plain, central Japan over the last decades	2023 International Symposium on Aquatic Ecosystems and Environmental Health and the Second China Wenzhou International Wetland Forum	Wenzhou University (ハイブリッド)	2023年10月28日	1	1
4	田代 喬	荒木裕子, 倉田和己, 田代 喬	伊勢湾台風による名古屋市内の長期浸水地2 地区の状況	日本災害情報学会第27回大会	福島学院大学	2023年10月28日	2	2
4	田代 喬	田代 喬, 倉田和己, 荒木裕子	伊勢湾台風により決壊した堤防の応急復旧に関する考察	日本災害情報学会第27回大会	福島学院大学	2023年10月28日	2	2
4	田代 喬	田代 喬	ネコギギの好む川	日本水大賞環境大臣賞受賞記念ネコギギ保全シンポジウム～ネコギギの保護をとおして ふるさとの未来へつなぐ～(パネリスト)	いなべ市藤原文化センター	2023年10月29日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	水災と津波・高潮	防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」市民防災コース、あいち防災協働社会推進協議会	名古屋大学	2023年11月4日	2	4

4	田代 喬	田代 喬	水害から命を守る～過去の水害から学ぶ～	令和5年度西生涯学習センター後期講座 「災害から命を守る～もしもの時に役立つ 知識を身に付けよう～」	名古屋西生涯学習センター	2023年11月11日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	伊勢湾台風の災害記録をひも解いて改めて見えてきたこと	第23回中部『歴史地震』研究懇談会	名古屋大学減災館	2023年12月2日	2	2
4	田代 喬	田代 喬, 陀安一郎	氾濫平野の半閉鎖性水域における過去数十年間の堆積環境の分析	第13回同位体環境学シンポジウム	総合地球環境学研究所	2023年12月22日	2	3
4	田代 喬	田代 喬	水害時のリスク軽減へのアクション	令和5年度安城市減災まちづくり研究会	安城市さくら庁舎	2024年1月22日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	水害の現状から考える～水害(内水氾濫)を想定して～	令和5年度名東生涯学習センター後期講座 「過去から考えるわたしたちにできる備え～ 水害を中心に～」	名古屋名東生涯学習セン ター	2024年1月31日	2	1
4	田代 喬	田代 喬	流域治水による持続的な風土とそれを支える共同体の設計に関する試案	第26回日本陸水学会東海支部会研究発表 会	愛知工業大学自由ヶ丘キャン パス	2024年2月16日	2	2
4	田代 喬	田代 喬	地球温暖化と異常気象に備える:近年の風水害からの教訓	知多市保安連防災講演会、知多市石油コ ンビナート等特別防災区域保安連絡協議 会	メディアス体育館ちた	2024年2月29日	2	1
4	田代 喬	田代 喬, 倉田和己, 荒木裕子	1959 年伊勢湾台風による海岸・河川堤防の決壊とその復旧過程 の時空間的変異	令和5年度土木学会中部支部研究発表会	名古屋工業大学	2024年3月1日	2	2
4	田代 喬	田代 喬	65年を機に考える・・・伊勢湾台風の災害記録をひも解いてあらた めて見えてきたこと	第3回環境防災オンラインセミナー、株式会 社三弘	オンライン	2024年3月15日	2	1
4	小沢 裕治	小沢裕治	大災害時のエネルギー確保を考える	令和5年度前期 熱田生涯学習センター主 催講座	名古屋大学減災館	2023年6月13日	2	1
4	小沢 裕治	橋富彰吾, 千葉啓弘, 小沢裕治, 都 築充雄, 鷺谷威, 鈴木康弘	屏風山・恵那山断層帯及び猿投山北断層帯が活動した場合のエ ネルギー供給支障についての検討	第41回エネルギー・資源学会研究発表会	大阪大学 中之島センター (大阪市北区中之島4-3-53)	2023年8月8日	2	2
4	小沢 裕治	小沢裕治, 羽田野拓己	ガス事業者における地震対策の事例	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究 プロジェクト 情報発信討論会(事業継続)	名古屋大学	2023年9月4日	2	1
4	小沢 裕治	小沢裕治, 橋富彰吾, 飯阪真也, 富 田孝史	南海トラフ地震後の愛知県内の重要拠点における非常用発電機 用燃料の供給に関する研究	令和5年度土木学会中部支部研究発表会	名古屋工業大学(名古屋 市昭和区御器所町)	2024年3月1日	2	2
4	羽田野 拓己	羽田野 拓己	災害がライフラインに与える影響と日々の備えについて	令和5年度 自主防災リーダー研修会、自 主防災講演会	一宮市役所	2023年5月20日	2	1
4	羽田野 拓己	羽田野拓己, 小沢裕治	ガス事業者における地震対策の事例	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究 プロジェクト 情報発信討論会(事業継続)	名古屋大学	2023年9月4日	2	1
4	羽田野 拓己	羽田野 拓己	大規模地震とライフラインの関係について	令和5年度 阿久比町・東浦町防災リー ダー及び災害ボランティアコーディネーター 養成講座	阿久比町勤労福祉会館	2023年10月28日	2	1
4	羽田野 拓己	羽田野 拓己	人工衛星SAR 画像を用いた浸水範囲の簡易推定:令和5 年6 月大雨災害への適用	第7回社会連携研究交流会	名古屋大学	2024年2月15日	2	2
4	羽田野 拓己	羽田野拓己, 田代喬	人工衛星SAR 画像を用いた浸水範囲の簡易推定:令和5 年6 月大雨災害への適用	日本陸水学会東海支部会・第26回研究発 表会	愛知工業大学自由ヶ丘キャン パス	2024年2月17日	2	2
4	羽田野 拓己	羽田野 拓己	令和5年台風2号から水害対策について考える	第148回げんさいカフェ	名古屋大学	2024年3月26日	2	1

教員の論文賞・学会賞等の受賞一覧

(注)

・受賞は、本学において行った研究の成果に対し、2023年度中に学外の団体から授与されたものであること

・第二受賞者以降でも可

1 減災研究連携領域 2 共創社会連携領域 3 寄附部門 4 産学協同研究部門 5 研究員など	本センターの 教員名				
部門	氏名	受賞者	賞の名称	授与者名	受賞年月
1	鈴木康弘	伊藤達雄・鈴木康弘	日本地理学会賞(学術貢献部門)	日本地理学会	2024年3月
2	木作尚子	木作尚子	大会優秀発表賞	日本災害情報学会 会長 片田敏孝	2022年10月9日
3	武村雅之	武村雅之	測量の日功労者感謝状受領	国土地理院	2023年6月
3	武村雅之	武村雅之	第49回日本ケーブルテレビ大賞番組アワード優秀賞(メディアチャンネルとメディアスエフエムが共同で制作「明治村の建造物が語る関東大震災」主演)	日本ケーブルテレビ連盟	2023年9月
3	武村雅之	武村雅之	映文連アワード2023文部科学大臣賞(桜映画社制作「ノブさんからのメッセージ〜手記に学ぶ関東大震災」監修)	映像文化製作者連盟	2023年11月
4	田代 喬	田代 喬	令和5年度河川基金助成事業優秀成果表彰「水害適応社会の共創に向けた輪中湿地帯の冠水履歴に関する研究」	公益財団法人河川財団	2023年8月25日
4	田代 喬	田代 喬	感謝状(災害対策アドバイザーを通じた、警備警察活動に対する協力)	愛知県警察本部 警備部長	2024年2月1日

教員の外部資金一覧

(注)

・2023年度中に学外の団体から研究代表者として受けたもの

・先日発行のパンフレットに掲載したもの以外

1 減災研究連携領域 2 共創社会連携領域 3 寄附部門 4 産学協同研究部門 5 研究員など	本センターの 教員名					1 共同研究 2 科学研究費補助金 3 その他
部門	氏名	助成金名	研究タイトル	出資先	研究期間	種類
	1 鷺谷 威	共同研究	長岡平野西縁断層帯周辺のGPS観測・解析	地震予知総合研究振興会	2022/04 ～2025/03	1
	1 鷺谷 威	科学研究費補助金基盤研究(B)	島弧地殻の変形特性解明によるテクトニクスの総理解	日本学術振興会	2024/04～ 2028/03	2
	1 鈴木康弘	文部科学省科学研究費補助金(基盤研究A)	ウランバートルの総合的地震危険度評価とモンゴルの広域活断層図作成	文部科学省	2021.4～2025.3	2
	1 鈴木康弘	JICA草の根技術協力事業	モンゴル・ホブド県における地球環境変動に伴う大規模自然災害への防災啓発プロジェクト	JICA中部	2017.10～2024.3	3
	1 鈴木康弘	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)	NGY03:変動地形学的手法による内陸地震発生モデルと活断層長期評価手法の再検討 NGY05:地表地震断層の特性を重視した断層近傍の強震動ハザード評価	文部科学省	2019.4～2024.3	3
	1 富田孝史	原子力安全技術研究所公募研究	津波漂流物の挙動に関するモデル構築に関する研究	中部電力株式会社	202304～202503	1
	1 富田孝史	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)	港湾における高潮・波浪浸水リスク評価技術の開発	内閣府	202309～202803	3
	1 長江拓也	地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム	G4:災害対応力向上, SATREPS, 地震直後におけるリマ市内インフラ被災程度の予測・観測のための統合型エキスパートシステムの開発	JST/JICA	2021/09～ 2027/03	3
	1 長江拓也	共同研究	建築物の二次部材を含む地震被災度総合評価のためのカーテンウォールセンシング技術と数値解析融合およびセンサーシステムの開発	不二サッシ(株)	2023/05～ 2024/03	1
	1 長江拓也	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	基礎滑り構造と二次部材耐震対策の導入による建築物の高耐震化研究課題	日本学術振興会	2022/10～ 2027/03	2
	1 長江拓也	京都大学防災研究所一般共同研究	高耐震木造住宅の開発と確率論的性能評価手法の適用	京都大学防災研究所	2023/04～ 2025/03	1
	2 飛田 潤	科学研究費・基盤研究(B)	免震建物の被災後・長期稼働後を想定した免震装置の特性変化モニタリング	日本学術振興会	2022.4～2025.3	2
	2 飛田 潤	共同研究	減衰振動による免制振ダンパの動特性の同定	KYB株式会社	2023.4～2024.3	1
	2 飛田 潤	共同研究	モバイル地震計との運動によるリアルタイム可視化システムの研究開発	有限会社アシストコム	2023.4～2024.3	1
	2 平山修久	文部科学省受託研究	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト	JAMSTEC	2020年～2025年	1
	2 平山修久	共同研究	地域レジリエンスのインパクト評価手法に関する研究	三菱総合研究所	2022年～	1

2	平山修久	共同研究	中部地域における産業防災に関する研究	三菱総合研究所	2022年～	1
2	平山修久	環境研究総合推進費	国民の生活の質（QoL）とその基盤となるインフラ・地域産業への気候変動影響予測と適応策の検討と評価	ERCA	2020年～	1
4	田代 喬	河川砂防技術研究開発公募河川技術・流域管理分野提案型課題（流域課題）	伊勢湾台風に学ぶ被災後の復旧過程のデジタル復元と広域・長期浸水被害からの早期復旧戦略	国土交通省水管理・国土保全局	202204～202403	3
4	田代 喬	学術コンサルティング	豪雨時の浸水リスクのスクリーニングを通じた被害低減対策の検討に関する学術コンサルティング	中部電力株式会社	202306～202403	3

教員の委員会一覧

(注)

・2023年度中のもの

1 減災研究連携領域 2 共創社会連携領域 3 寄附部門 4 産学協同研究部門 5 研究員など	本センターの 教員名				
部門	氏名	委員会名	立場	出資先	期間
1	鷺谷 威	日本地球惑星科学連合グローバル戦略委員会	副委員長	日本地球惑星科学連合	2022/04-2024/03
1	鷺谷 威	日本地球惑星科学連合環境災害委員会	委員	日本地球惑星科学連合	2022/04-2024/03
1	鷺谷 威	Earth, Planets and Space編集委員会	委員長	日本地震学会、日本測地学会、日本火山学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本惑星科学会	2021/01-2024/12
1	鷺谷 威	日本測地学会	会長	日本測地学会	2023/06-2025/05
1	鷺谷 威	日本活断層学会	理事	日本活断層学会	2022/06-2024/05
1	鈴木康弘	日本学術会議	連携会員	内閣府	2011.10～2026.9
1	鈴木康弘	国際地理学連合日本委員会	委員長	国際地理学会	2020.10～2026.9
1	鈴木康弘	(一社)日本活断層学会	代表理事・会長	日本活断層学会	2022～2023
1	鈴木康弘	(公社)日本地理学会	理事・集会専門委員長	日本地理学会	2022～2023
1	鈴木康弘	国土地理院活断層図作成検討委員会	委員長	国土地理院	2021～2025
1	鈴木康弘	日本測量協会中部支部	支部長	日本測量協会	2022.4～
1	鈴木康弘	文部科学省地震調査研究推進本部	専門委員	文部科学省	1995～
1	富田孝史	四日市港海岸直轄海岸保全施設整備事業計画段階評価検討会	委員長	中部地方整備局四日市港湾事務所	202312～202403
1	富田孝史	静岡県海岸保全基本計画検討委員会	委員	静岡県	202309～現在
1	富田孝史	静岡県海岸保全基本計画検討委員会技術部会	委員	静岡県	202309～現在
1	富田孝史	三重県海岸保全基本計画検討委員会	委員	三重県	202309～現在

1	富田孝史	三重県海岸保全基本計画検討委員会技術部会	主査	三重県	202309~現在
1	富田孝史	国際標準化機ISO/TC98分科会	委員	(一社)建築・住宅国際機構	202306~現在
1	富田孝史	国際標準化機構ISO/TC98/SC3津波WG	主査	(一社)建築・住宅国際機構	202306~現在
1	富田孝史	中部の港湾における高潮・暴風対策検討委員会	委員長	国土交通省中部地方整備局	202305~現在
1	富田孝史	海岸工学委員会沿岸災害デジタルツイン研究小委員会	委員	(公社)土木学会	202305~現在
1	富田孝史	愛知県入札監視委員会	委員	愛知県	202301~現在
1	富田孝史	都市丸ごとのシミュレーション技術研究組合	テクニカルアドバイザー	都市丸ごとのシミュレーション技術研究組合	202212~現在
1	富田孝史	特定複合観光施設区域整備計画審査委員会	有識者	特定複合観光施設区域整備計画審査委員会(観光庁)	202211~現在
1	富田孝史	四日市港ヒアリ対策連絡会議	委員	環境省中部地方環境事務所	202211~202403
1	富田孝史	原子力土木委員会津波評価小委員会津波漂流物の影響評価技術の体系化WG	主査	公益社団法人土木学会	202211~現在
1	富田孝史	海洋開発委員会	委員長	公益社団法人土木学会	202206~現在
1	富田孝史	伊勢湾BCP協議会	アドバイザー	国土交通省中部地方整備局	202206~現在
1	富田孝史	伊勢湾BCP協議会作業部会	アドバイザー	国土交通省中部地方整備局	202206~現在
1	富田孝史	土木学会中部支部	商議員	公益社団法人土木学会中部支部	202205~現在
1	富田孝史	交通政策審議会港湾分科会防災部会	委員	国土交通省	202205~現在
1	富田孝史	交通運輸技術開発推進外部有識者会合	委員	国土交通省	202205~現在
1	富田孝史	名古屋港浚渫土工石検討委員会	委員	国土交通省中部地方整備局	202110~202403
1	富田孝史	四日市港湾審議会	委員	四日市港湾管理組合	202109~現在
1	富田孝史	国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会(第三部会)	委員	国土交通省国土技術政策総合研究所	202104~現在
1	富田孝史	港湾における気候変動対策の実装に向けた技術検討委員会	委員	国土交通省	202101~202403
1	富田孝史	静岡県高潮浸水想定等検討委員会	委員	静岡県	202009~現在

1	富田孝史	中部地方整備局事業継続力認定制度検討委員会	委員	国土交通省中部地方整備局	202002~現在
1	富田孝史	中部地方整備局港湾空港事業継続力認定制度検討委員会	委員	国土交通省中部地方整備局	202002~現在
1	富田孝史	原子力土木委員会津波評価小委員会津波漂流物衝突評価WG	主査	公益社団法人土木学会	201910~現在
1	富田孝史	海洋レーダー技術検討委員会	委員	国土交通省中部地方整備局	201801~現在
1	富田孝史	ハザード評価部会	構成員	東海圏減災研究コンソーシアム	201707~現在
1	富田孝史	原子力土木委員会津波評価小委員会	委員	公益社団法人土木学会	201604~202403
1	富田孝史	耐震設計分科会津波検討会	委員	一般社団法人日本電気協会	201207~現在
1	富田孝史	地震工学委員会	委員	公益社団法人土木学会	200804~現在
1	富田孝史	災害連絡会議	専門委員	公益社団法人地盤工学会	200804~現在
1	富田孝史	企画運営委員会	委員	日本沿岸域学会	200704~現在
1	長江拓也	日本建築学会 大地震時耐震性能評価小委員会 二次部材性能・コスト評価WG	主査	日本建築学会	202104-202503
1	長江拓也	日本建築学会 大地震時耐震性能評価小委員会	主査	日本建築学会	202304-202503
1	長江拓也	日本建築学会 大地震時耐震性能評価小委員会 RC造性能評価WG	委員	日本建築学会	202304-202503
1	長江拓也	日本建築学会 振動運営委員会	委員	日本建築学会	202304-202503
1	長江拓也	BCP設備耐震設計指針 編集委員会	委員	日本建築センター	202104-202503
1	長江拓也	日本建築学会 大地震時耐震性能評価小委員会	委員	コンクリート工学会	202304-202503
1	長江拓也	コンクリート構造物の性能型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会	委員	日本建築構造技術者協会	202304-202503
2	飛田 潤	環境省中部地方環境事務所 大規模災害時廃棄物対策中部ブロック協議会	委員	環境省中部地方環境事務所	2023.4~2024.3
2	飛田 潤	耐震構造委員会・耐震改修評定部会・耐震診断判定部会	委員	(一財)愛知県建築住宅センター	2023.4~2024.3
2	飛田 潤	構造性能評価委員会・耐震評定委員会	委員	(株)確認サービス	2023.4~2024.3
2	飛田 潤	愛知建築地震災害軽減システム研究協議会	幹事	愛知建築地震災害軽減システム研究協議会	2023.4~2024.3

2	飛田 潤	内閣府 防災研究の中長期的なビジョンの策定検討に係る有識者会議	委員	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局	2023.10～2024.3
2	木作尚子	防火本委員会	委員	日本建築学会	
2	木作尚子	小規模な社会福祉施設の避難安全性能向上小委員会	幹事	日本建築学会	
2	木作尚子	輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討	委員	消防庁、国土交通省	2024/2/15～現在
2	平山修久	地域安全学会学術委員会	学術委員	地域安全学会	R4～R5
2	平山修久	廃棄物資源循環学会東海・北陸支部	常議員	廃棄物資源循環学会東海・北陸支部	2017～
2	平山修久	分野横断的演習検討委員会	有識者	内閣官房情報セキュリティセンター	2022～
2	平山修久	京都市上下水道事業経営審議委員会	委員	京都市上下水道局	2019～
2	平山修久	環境省中部地方環境事務所大規模災害時廃棄物対策中部ブロック協議会	構成員	環境省中部地方環境事務所	2017～
2	平山修久	大規模災害廃棄物対策九州ブロック協議会	学識委員	環境省九州地方環境事務所	2016～
2	平山修久	日本プロジェクト産業協議会防災委員会第4ワーキング	委員	日本プロジェクト産業協議会	2013～
2	平山修久	明治用水頭首工復旧対策検討委員	委員	農林水産省東海農政局	2022～
2	平山修久	防災スペシャリスト養成災害対応eラーニング	コーディネーター	内閣府	2022～
2	平山修久	静岡市清水地区水源検討部会	臨時委員	静岡市上下水道局	2023～
2	平山修久	安城市水道事業及び下水道事業審議会	学術委員	安城市	2022～
2	平山修久	小牧市上下水道事業経営審議会	有識者	小牧市	2022～
2	平山修久	強靱で高度な水道管路システムの構築に関する研究	有識者	水道技術研究センター	2023～
2	平山修久	名古屋市上下水道事業経営有識者会議	有識者	名古屋市上下水道局	2023～
2	平山修久	理事会	理事	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター	2023～
2	平山修久	環境研究総合推進費1MF-2303アドバイザーボード	アドバイザー	大阪大学大学院工学研究科	2023～
2	平山修久	環境研究総合推進費1MF-2301アドバイザーボード	アドバイザー	国立環境研究所	2023～

3	武村雅之	強震動委員会	委員	(公社)日本地震学会	2012年度より
3	武村雅之	原子力土木委員会	委員	(公社)土木学会	2013.9より
3	武村雅之	地震動予測地図高度化ワーキンググループ	専門委員	文部科学省	2005.3より
3	武村雅之	原子力規格委員会耐震設計分科会地震・地震動検討会	副主査	(一社)日本電気協会	2012年度より
3	武村雅之	名古屋産業科学研究所	非常勤所員	(公財)名古屋産業科学研究所	2012年度より
3	武村雅之	静岡大学防災総合センター	客員教授	静岡大学	2012年度より
3	武村雅之	静岡大学防災総合センター	講師	静岡大学	2018.6.1より
3	武村雅之	関東大震災100年記念事業懇談会	委員	(公財)東京都慰霊協会	2021.5.1より
3	武村雅之	幸田町郷土博物館建設検討会	委員	愛知県幸田町	2021.9.1より
4	田代 喬	日本学術振興会 特別研究員等審査会	専門委員	独立行政法人 日本学術振興会	2019/7/1-2023/6/30
4	田代 喬	土木学会 水工学委員会 水工学論文集編集小委員会	委員	公益社団法人 土木学会	
4	田代 喬	土木学会 水工学委員会 環境水理部会	委員	公益社団法人 土木学会	
4	田代 喬	土木学会 水工学委員会 水害対策小委員会	委員	公益社団法人 土木学会	
4	田代 喬	応用生態工学会 将来構想委員会	委員	応用生態工学会	
4	田代 喬	応用生態工学会 学会誌編集委員会	委員	応用生態工学会	
4	田代 喬	応用生態工学会 災害対応委員会	委員	応用生態工学会	
4	田代 喬	日本陸水学会東海支部会 「陸の水」論文集編集委員会	編集委員	日本陸水学会東海支部会	
4	田代 喬	国土交通省中部地方整備局 東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会	ファシリテーター	国土交通省中部地方整備局河川部	
4	田代 喬	国土交通省中部地方整備局 中部ブロック多自然川づくりサロン	アドバイザー	国土交通省中部地方整備局河川部	
4	田代 喬	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 櫛田川自然再生推進会議	委員	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所	
4	田代 喬	国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所 木曽川イタセンパラ事業環境影響検討会	委員	国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所	

4	田代 喬	愛知県 内水面漁場管理委員会	委員	愛知県	2016/12/1-
4	田代 喬	愛知県 警察本部	災害対策アドバイザー	愛知県警察本部	
4	田代 喬	愛知県 一宮建設事務所 新濃尾大橋(仮称)環境監視調査等検討委員会	副委員長	愛知県一宮建設事務所	
4	田代 喬	三重県 天然記念物ネコギギ保護連絡会議	委員	三重県教育委員会	
4	田代 喬	名古屋市 防災会議風水害等対策専門部会	専門委員	名古屋市防災危機管理局	
4	田代 喬	いなべ市 天然記念物ネコギギ保護増殖指導委員会	指導委員	いなべ市教育委員会	
4	田代 喬	菊川市 菊川流域治水プロジェクト	アドバイザー	菊川市	
4	田代 喬	一般財団法人新エネルギー財団 水力発電事業化促進事業費補助金(地域理解促進等関連事業)採択審査委員会	委員	一般財団法人新エネルギー財団	
4	田代 喬	一般財団法人水源地環境センター 水源地生態研究会ダム下流生態系研究部会	委員	一般財団法人水源地環境センター	
4	田代 喬	公益財団法人名古屋産業科学研究所	非常勤所員	公益財団法人名古屋産業科学研究所	
4	田代 喬	第15回いい川・いい川づくりワークショップin東北	実行委員	NPO法人全国水環境交流会	2023/9/30-10/1
4	田代 喬	公益財団法人名古屋産業科学研究所	非常勤所員	公益財団法人名古屋産業科学研究所	

教員のメディア掲載一覧

(注)

・2023年度中のもの

1 減災研究連携領域 2 共創社会連携領域 3 寄附部門 4 産学協同研究部門 5 研究員など	本センターの 教員名				1 テレビ 2 ラジオ 3 新聞 4 その他	
部門	氏名	番組名など	内容	掲載先	種別	日付
1	鷺谷 威	日刊県民福井	関東大震災「否定」し大論争 大森房吉の数奇な人生	日刊県民福井	3	2023年9月1日
1	鷺谷 威	チャント！	災とSeeing 明応地震(三重県津市)	CBC	1	2023年10月2日
1	鷺谷 威	中日新聞	災とSeeing 明応地震(三重県津市)	中日新聞	3	2023年10月2日
1	鷺谷 威	週刊新潮	実は公表されていた能登半島の地震リスク なぜ無視されたのか	週刊新潮	4	2024年1月28日
1	鷺谷 威	週刊新潮	能登半島地震は人災だった？ 27年間放置された県防災計画	週刊新潮	4	2024年2月15日
1	鷺谷 威	報道1930	南海トラフ地震発生確率公表の裏側	BS-TBS	1	2024年2月16日
1	鷺谷 威	プレーボーイ	「南海トラフ地震の発生確率20%説」は本当なのか!?	プレーボーイ	4	2024年3月18日
1	鈴木康弘	災とSeeing	阿寺断層	中日新聞	3	2023/12/4
1	鈴木康弘	評論	能登地震、想定できたM7級 沿岸活断層、陸上同様認定を	熊本日日新聞	3	2024/1/5
1	鈴木康弘	こちら特報部	志賀原発「異常なし」の裏側(下) 直下断層 有無も変転 過去に臨界事故隠し「珠洲原発」なら大変だった「否定できない」16年認定	東京新聞	3	2024/1/5
1	鈴木康弘		能登地震／沿岸活断層の認定急務／能登半島のM7級は予測できた／名古屋大教授 鈴木康弘氏 過去100年間の日本の活断層地震としては最大であるマグニチュード(M)7	河北新聞	3	2024/1/5
1	鈴木康弘	主要／科学・環境・医療・健康	内陸の活断層、ずれ確認 志賀原発の北9キロ、能登地震	共同通信	3	2024/1/16
1	鈴木康弘	文化面	M7予想できた「能登半島地震」 鈴木康弘 名古屋大教授 沿岸の活断層認定は急務	中日新聞/東京新聞	3	2024/1/16
1	鈴木康弘		内陸活断層もずれ確認／志賀原発の北9キロ、連動か／能登半島地震	神奈川新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		志賀で活断層ずれ確認 原発北9キロ、地震に連動か	四国新聞	3	2024/1/17

1	鈴木康弘		能登半島地震と連動か 内陸の活断層ずれ確認 志賀原発の北9キロ 日本地理学会	新潟日報	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登地震 内陸活断層にずれ 震源と連動か 志賀原発北9キロ	山陽新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登地震／内陸の活断層にずれ／志賀原発北、長さ3キロ超／地理学会調査	宮崎日日新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		原発9キロ 活断層ずれ／志賀町内陸、長さ3キロ／能登半島地震	琉球新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		内陸の活断層 ずれ確認／能登半島地震 連動か／志賀原発の北9キロ／地理学会チーム	沖縄タイムズ	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		内陸の活断層、ずれ確認 能登地震、志賀原発の北9キロ 地理学会調査	佐賀新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登地震／内陸の活断層 ずれ確認／志賀原発の北9キロ	長崎新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		内陸の活断層、ずれ確認 震源と連動か 志賀原発の北9キロ 能登地震	熊本日日新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登 内陸の活断層もずれ 志賀原発北9キロ 能登半島地震	西日本新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登地震 内陸活断層も動いたか 志賀原発近く 地理学会調査 地表ずれ3キロ超	長崎新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		内陸の活断層 ずれ確認 地理学会調査 震源域と連動か 志賀原発の北9キロ	徳島新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		内陸の活断層 ずれ確認 志賀原発北9キロ 地震連動か 能登地震	中国新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登半島地震 志賀原発北9キロ 断層にずれ	神戸新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		志賀原発北9キロ 断層動く 能登地震 震源と連動か	京都新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		内陸の活断層 ずれ3キロ超 能登半島地震 志賀原発の北9キロ	中日新聞/東京新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登半島地震 北方沖と連動か 内陸活断層 ずれ確認 志賀原発の北9キロ 日本地理学会チーム 調査	静岡新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登半島内陸、活断層連動か 志賀原発北9キロにずれ	信濃毎日新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		<1.1大震災> 内陸の活断層、ずれ確認 志賀原発の北9キロ 日本地理学会	北国・富山新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		内陸の活断層 ずれ確認 能登半島地震 志賀原発の北9キロ	東京新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		内陸の活断層 ずれ確認／志賀原発北9キロ、連動か	下野新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		志賀原発北の活断層ずれ 能登地震震源と連動か 北陸電再評価の可能性	東奥日報	3	2024/1/17

1	鈴木康弘		内陸活断層もずれ／能登地震／志賀原発北9キロ 石川県能登地方で起きたマグニチュード(M)7.6の能登半島地震の際、震源となったとみられる能登半島北方沖の活断層と	河北新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		能登半島地震 内陸活断層も動く？ 原発付近、地表のずれ3キロ以上 日本地理学会チーム調査	秋田魁新聞	3	2024/1/17
1	鈴木康弘		志賀原発 北9キロでずれ 内陸活断層、長さ3キロ超 再評価迫られる可能性も	岩手日報	3	2024/1/17
1	鈴木康弘	NHKニュース	「活断層」リスク評価 専門家「陸域対象で海岸沿いは盲点 調査手法など見直す必要」	NHK	1	2024/1/17
1	鈴木康弘		特集 能登地震／被災者の心身ケア 大切に	長崎新聞	3	2024/1/22
1	鈴木康弘	大下容子ワイド！スクランブル	能登地震 震源断層と別の断層“連動”か 専門家「今まで前例ほぼない」	朝日放送	1	2024/1/25
1	鈴木康弘		能登半島地震／志賀原発の北9キロ、活断層のずれ確認／地理学会チーム	岩手日報	3	2024/1/25
1	鈴木康弘	NHKニュース	能登半島地震 震度7の志賀町で別の断層も動いたか 専門家「大変珍しい現象」	NHK	1	2024/1/26
1	鈴木康弘	毎日放送サンデーモーニング	能登半島地震…厳冬の被災地 活断層で“想定外”の連動も？	毎日放送	1	2024/1/28
1	鈴木康弘	NHKニュース おはよう日本	20キロ離れた2つの断層 同時にずれ動いたか	NHK総合大阪	1	2024/1/28
1	鈴木康弘	TBSサンデーモーニング	能登半島地震…厳冬の被災地 活断層で“想定外”の連動も？	TBS	1	2024/1/28
1	鈴木康弘	NHKニュース おはよう日本	20キロ離れた2つの断層 同時にずれ動いたか	NHK	1	2024/1/28
1	鈴木康弘	こちら特報部 能登半島 次なる地震	志賀原発 安心できるか 沿岸部の音波探査 精度に難 ◆断層長さ・動き未知多く 地盤のズレも脅威 核燃料の扱い早急に	東京新聞	3	2024/2/3
1	鈴木康弘	原発の安全性考えるオンライン企画	「複合災害」高まる懸念 能登地震受け環境団体 「全国で廃炉を」	京都新聞	3	2024/2/5
1	鈴木康弘	教育科学：能登半島地震1カ月（下）	海底活断層、間に合わなかった警鐘	朝日新聞	3	2024/2/9
1	鈴木康弘	特報面	能登半島 次なる地震 発生を危惧 周辺の断層 動く可能性 震度5弱以上「平常時の50倍」	中日新聞	3	2024/2/10
1	鈴木康弘	科学面	シル マナブ 科学 ナゾ残る 能登半島地震 活断層のリスク見直しを 想像以上に複雑な動き 「海陸境界」も多くは未解明	東京新聞	3	2024/2/18
1	鈴木康弘	科学面	ナゾ残る 能登半島地震 活断層のリスク見直しを 想像以上に複雑な動き 「海陸境界」も多くは未解明	中日新聞新聞	3	2024/2/19
1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	この痛みを記憶しながら／能登半島地震が問うもの／復興に残された人々	沖縄タイムズ	3	2024/2/28
1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	能登地震が問うもの／痛みを記憶する「復興」を	琉球新聞	3	2024/2/29
1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	また同じ轍を踏むのか 能登半島地震が問うもの バックアップ 拠点分散／無力さ、痛み記憶せよ	京都新聞	3	2024/2/29

1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	能登地震 痛みを記憶する必要性	中国新聞	3	2024/3/1
1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	震災が問う社会の支援 痛みを記憶する営み必要	愛媛新聞	3	2024/3/3
1	鈴木康弘	教養[焦点／争点]	能登半島地震が問うもの この痛み 記憶しながら	静岡新聞	3	2024/3/5
1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	能登地震が問うもの／この痛みを記憶しながら	下野新聞	3	2024/3/7
1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	防災に見る社会設計／能登半島地震が問うもの／この痛みの記憶を忘れないで	長崎新聞	3	2024/3/8
1	鈴木康弘	考える広場	原発推進で大丈夫ですか？	中日新聞	3	2024/3/11
1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	能登半島地震が問うもの この痛みを記憶しながら	東奥日報	3	2024/3/12
1	鈴木康弘	考える広場	原発推進で大丈夫ですか？	東京新聞	3	2024/3/13
1	鈴木康弘	文化面[焦点／争点]	能登半島地震が問うもの 養生の困難さを知る	秋田魁新聞	3	2024/3/13
1	鈴木康弘	【第2特集 能登半島地震の警告】	地震と原発災害－能登半島地震の警告	週刊東洋経済 第7163号	4	2024/3/16
1	富田孝史	お仕事ファイル 防災研究者	教育面で掲載	中日新聞	3	2024/3/9
1	富田孝史	四日市港海岸保全施設の整備を求める声	シンポジウム講演について紹介	日本海事新聞	3	2023/10/6
1	富田孝史	四日市港の防災対策、考えるシンポジウム 一見知事、森市長ら参加	シンポジウム講演について紹介	中日新聞	3	2023/10/3
2	飛田 潤	チャント！	災とSeeing 福井地震(福井市)	CBC	1	2023/6/5
2	飛田 潤	中日新聞	災とSeeing 福井地震(福井市)市街地激震 震度7の契機に	中日新聞	3	2023/6/5
2	飛田 潤	読売新聞・キャンパス発	地震減災 触れて学んで	読売新聞	3	2023/9/16
2	飛田 潤	チャント！	能登半島地震の石川県珠洲市での揺れを再現 周期が1秒～2秒ぐらいの揺れが木造建築に大きなダメージ 名古屋大学減災館(中継)	CBC	1	2024/1/11
2	飛田 潤	チャント！	南海トラフ巨大地震が起きたらどうなる 揺れや津波の地図シミュレーションで見える危険 名古屋大学減災館(中継)	CBC	1	2024/1/11
2	飛田 潤	ニュースOne	能登半島地震の揺れと被害	東海テレビ	1	2024/1/12
2	飛田 潤	中日新聞	能登半島地震揺れ再現 振動台で可視化「耐震化の大切さ考えて」	中日新聞	3	2024/1/12
2	飛田 潤	中日新聞デジタル	【能登半島地震】4市町の激震を振動台で可視化 名大・減災連携研究センター	中日新聞デジタル	4	2024/1/13

2	飛田 潤	5時スタ	能登半島地震の「揺れ」を再現 他地域で発生した「地震」との違いも 改めて自宅の“耐震確認”を(中継)	テレビ愛知	1	2024/1/19
2	飛田 潤	Nスタ	最大震度7を観測も… なぜ家屋の倒壊免れた? 「揺れる周期が関係」石川県志賀町	TBS	1	2024/2/1
2	木作尚子	ニュースほっと関西	乳幼児の防災対策	NHK大阪放送局	1	2023年9月29日
2	平山修久		共創的連携の調整役を期待「自分たちで守る」文化の創生を	水道産業新聞	3	2023.5.29
2	平山修久		南海トラフ2.4億トン想定	読売新聞	3	2023.8.2
2	平山修久		震災がれき「3R」迫る	日経産業新聞	3	2023.9.1
2	平山修久		過去から「倣い」、「習い」、「学ぶ」	水道産業新聞	3	2023.9.4
2	平山修久		地震対策から100年に臨む	日本水道新聞	3	2023.9.25
2	平山修久		緊急時対応など知見や事例が/災害対策の人的ネットワークを	水道産業新聞	3	2023.10.12
2	平山修久		災害廃棄物石川珠洲で65年分相当量 専門家で「広域で対応を」	NHK NEWS WEB	4	2024.1.23
2	平山修久		災害ごみ珠洲に「64年分」	日本経済新聞	3	2024.1.23
2	平山修久		珠洲災害ごみ64年分	読売新聞夕刊	3	2024.1.24
2	平山修久		災害ごみ回収 輪島・珠洲来月から	北國新聞	3	2024.1.27
2	平山修久		珠洲災害廃棄物65年分か	中日新聞	3	2024.1.27
2	平山修久	真相報道バンキシャ!(日本テレビ)	再建への壁「災害廃棄物」どこへ		1	2024.1.28
2	平山修久	5時サタ(テレビ愛知)	廃棄物珠洲市で65年分 原因と課題は…		1	2024.1.30
2	平山修久		災害ごみ80万トン超	北國新聞	3	2024.2.4
2	平山修久		石川の災害ごみ推計80万トン超	静岡新聞	3	2024.2.4
2	平山修久		災害ごみ 処理進まず	読売新聞	3	2024.2.6
2	平山修久	ニュースウォッチ9(NHK)	災害廃棄物		1	2024.2.6
2	平山修久		災害廃棄物 石川で244万トン	中日新聞	3	2024.2.7

2	平山修久	報道ステーション(テレビ朝日)	“災害ごみ”再利用で効率化も		1	2024.2.7
2	平山修久		災害ごみ7年分244万トン	静岡新聞	3	2024.2.7
2	平山修久		水道 投資の意識を住民に	朝日新聞	3	2024.2.20
2	平山修久		災害廃処理はルート確保が重要	循環経済新聞	3	2024.2.26
2	平山修久		災害廃棄物処理 教訓生かせ	中日新聞	3	2024.3.11
2	平山修久		倒壊家屋、6市町で公費解体が始まらず 輪島の被災者「待つしか…」	朝日新聞	3	2024.3.13
3	武村雅之	明日をまもるナビ	関東大震災から100年、遺構を歩く	NHK総合	1	2023年4月9日
3	武村雅之	MBCニューズナウ	今村明恒と東京の被害(TBC NEWS DIG)	MBC南日本放送	1	2023年4月13日
3	武村雅之	MBCニューズナウ	今村明恒と首都直下地震(TBC NEWS DIG)	MBC南日本放送	1	2023年4月14日
3	武村雅之	東海NEWS	かるたやすごろくで子どもたちが災害への備えを学ぶ 名古屋	NHK	1	2023年8月19日
3	武村雅之	関東大震災から100年 震源地・神奈川	スポンサー・神奈川県庁	テレビ神奈川	1	2023年8月27日
3	武村雅之	テレ朝ニュース	残されていた揺れの記録	テレビ朝日	1	2023年8月29日
3	武村雅之	ひるおび	JNNニュース(インタビュー)	TBSテレビ	1	2023年8月29日
3	武村雅之	首都圏情報ネタドリ	ロケ、インタビュー	NHK総合	1	2023年9月1日
3	武村雅之	MEGAQUAKEⅢ巨大地震	よみがえる関東大震災～首都壊滅・90年目の警告～	NHK総合	1	2023年9月1日
3	武村雅之	宮城ローカル	Nスタみやぎ	TBC東北放送テレビ	1	2023年9月1日
3	武村雅之	アッブ(18:00)	インタビュー	名古屋テレビ	1	2023年9月1日
3	武村雅之	TIME30	特集 関東大震災から100年 いま私たちが学ぶこと	KATCHテレビ	1	2023年9月1日
3	武村雅之	池上彰と考える「巨大自然災害から命を守れ」	インタビュー	名古屋テレビ	1	2023年9月2日
3	武村雅之	防災特番「池上彰と考える！巨大自然災害から命を守れ」	関東大震災100年	名古屋テレビ	1	2023年9月2日
3	武村雅之	おはよう日本	特集コーナー 災害を伝える碑見つめ直す	NHK総合	1	2023年9月17日

3	武村雅之	どんと鹿児島	関東大震災100年 巨大地震が都市を襲う 鹿児島はそのとき	MBC南日本放送	1	2023年9月20日
3	武村雅之	視点・論点	関東大震災100年 歴史的教訓から都市計画を再考する	NHKEテレ	1	2023年10月16日
3	武村雅之	明日をまもるナビ	歴史は繰り返す 災害と生きてきた日本人	NHK総合	1	2024年1月21日
3	武村雅之	TOKYO NEWS RADIO～ LIFE	特別企画「関東大震災から100年」(インタビュー)	東京FM	2	2023年8月26日
3	武村雅之	はまキラ	関東大震災100年SP	NHKラジオ 第一	2	2023年8月30日
3	武村雅之	北野誠のズバリサタデー	防災キャンペーン	CBCラジオ	2	2023年9月2日
3	武村雅之	Nラジ	特集「関東大震災から100年～東京は安全になったか」	NHKラジオ代第1	2	2023年9月14日
3	武村雅之	Brother presents Music Earth	関東大震災に学ぶ街づくり	FM愛知	2	2023年11月28日
3	武村雅之	関東大震災とは	犠牲10万、災害史上最悪	中部経済新聞	3	2023年1月30日
3	武村雅之	復興小公園「防砂拠点へ再生」	関東大震災後建設…閉鎖も	読売新聞夕刊	3	2023年2月4日
3	武村雅之	関東大震災100年	10府県被害10万人超	高知新聞	3	2023年2月6日
3	武村雅之	関東大震災100年	犠牲者10万任超最悪の災害	信濃毎日新聞	3	2023年2月14日
3	武村雅之	関東大震災100年	悲劇の記録現代に生かす	岩手日報	3	2023年3月5日
3	武村雅之	第7回 備える	関東大震災 明治村に移築遺構24件	中日新聞	3	2023年3月6日
3	武村雅之	震災1923、100年に向け	「未曾有」の教訓今後に	神奈川新聞	3	2023年3月26日
3	武村雅之	関東大震災100年	被災の教訓今に	伊勢新聞	3	2023年5月2日
3	武村雅之	関東大震災100年歴史を伝える遺構	戦争、開発経て教訓今に	秋田魁新聞	3	2023年5月4日
3	武村雅之	関東大震災100年	経験と教訓伝える遺構	中部経済新聞	3	2023年5月10日
3	武村雅之	関東大震災100年	複合災害 広範囲に被害	読売新聞	3	2023年6月6日
3	武村雅之	関東大震災発生100年揺れを解説	減災センター関東大震災展の紹介	静岡新聞	3	2023年6月9日
3	武村雅之	学ぼう産経新聞	発生100年 関東大震災を知る	産経新聞	3	2023年6月18日

3	武村雅之	著者と1時間	帝都復興にかけた思い(著書紹介)	建設通信新聞	3	2023年6月28日
3	武村雅之	書評欄	脆弱な街に警鐘 百年前に学ぶ	朝日新聞	3	2023年7月1日
3	武村雅之	災害列島関東大震災100年	事前復興 住民の協力必要	産経新聞	3	2023年7月2日
3	武村雅之	備えは万全か	都市部の公園防災担う	読売新聞	3	2023年7月13日
3	武村雅之	関東大震災から100年全容に迫る	名大減災館で特別企画展	中日新聞	3	2023年7月17日
3	武村雅之	首都東京の安全と防災関東大震災100年を考える	市民が誇りに思う街づくりこそ	聖教新聞	3	2023年7月18日
3	武村雅之	関東大震災いま住む場所の被害知ってますか？	武村雅之特任教授に聞く	朝日新聞(横浜版)	3	2023年7月30日
3	武村雅之	朝日記者サロン	関東大震災の真相と首都圏の弱点	朝日新聞Web	3	2023年8月3日
3	武村雅之	朝日記者サロン	関東大震災100年 防災を考える	朝日新聞	3	2023年8月7日
3	武村雅之	備える第12回	関東大震災 今こそ教訓に	中日新聞	3	2023年8月7日
3	武村雅之	科学記者の目(編集委員 久保田啓介)	関東大震災100年、「災害のデパート」追う執念の研究	日経新聞(電子版)	3	2023年8月9日
3	武村雅之	関東大震災がつくった東京(書評、)	書評、京大名誉教授鎌田浩毅	公明新聞	3	2023年8月7日
3	武村雅之	100年前の教訓忘れ、危険度増す現代都市	関東大震災専門家の警鐘	朝日新聞DIGITAL	3	2023年8月19日
3	武村雅之	名大減災館で企画展	震源直上で何が？	朝日新聞愛知版	3	2023年8月24日
3	武村雅之	TOKYO 考(3)	都市再生の100年	読売新聞	3	2023年8月24日
3	武村雅之	関東大震災から100年	現代への教訓とは	北海道新聞デジタル発	3	2023年8月24日
3	武村雅之	関東大震災から100年	識者に聞く 市民の利益になる街づくり	日刊建設工業新聞	3	2023年8月24日
3	武村雅之	関東大震災100年	記者の目 執念で調査続ける研究者	日経産業新聞	3	2023年8月24日
3	武村雅之	関東大震災100年	巨大地震繰り返す相模トラフ	朝日新聞	3	2023年8月25日
3	武村雅之	関東大震災100年の警告	石碑に刻まれた教訓	毎日新聞	3	2023年8月26日
3	武村雅之	関東大震災から100年	過密・高層化高い火災リスク	北海道新聞	3	2023年8月26日

3	武村雅之	関東大震災耐えた建物	大震災教訓の証人	中日こどもWEEKLY	3	2023年8月26日
3	武村雅之	課題今も 関東大震災100年(上)	地震に弱い首都再び	佐賀新聞	3	2023年8月27日
3	武村雅之	関東大震災100年	都市計画失敗の人災	しんぶん赤旗日曜版	3	2023年8月27日
3	武村雅之	関東大震災100年 学び防ぐ	首都の弱点	日経新聞	3	2023年8月29日
3	武村雅之	課題今も 関東大震災100年(上)	地震に弱い首都再び	西日本新聞	3	2023年8月30日
3	武村雅之	発生から100年	犠牲者10万人火災が猛威	読売KODOMO新聞	3	2023年8月31日
3	武村雅之	関東大震災100年	震度7相当 東京より揺れた	中日新聞	3	2023年8月31日
3	武村雅之	100年の警鐘(1面)	名古屋帝都復興の後継者	中日新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	関東大震災名古屋で悼む(12面)	名古屋でも救済活動	中日新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	1世紀関東大震災の教え(24面)	複合災害犠牲9割が火災	中日新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	100年の警鐘 関東大震災(29面)	上 まちづくり 幅100m 名古屋は通した	中日新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	関東大震災100年	被害甚大 各地が救いの手	読売新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	大震災の「揺れ方」記録紙県内に	岐阜地方気象台が保存	朝日新聞岐阜版	3	2023年9月1日
3	武村雅之	【特集】関東大震災が日本にもたらした被害とは?	そこからの学びは現代に活かされている!?	ジチタイワークスWeb	3	2023年9月1日
3	武村雅之	関東大震災 100 年 名大・減災館を訪れて	減災には記憶を後世に伝える活動が重要	月刊さなるこ新聞デジタル	3	2023年9月1日
3	武村雅之	社説	関東大震災100年 教訓を現代に生かしたい	北海道新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	いま聞く	研究30年 関東大震災の教訓は	朝日新聞夕刊	3	2023年9月1日
3	武村雅之	「東京はこれでいいのか」	関東大震災研究30年の地震学者の訴え	朝日新聞デジタル	3	2023年9月1日
3	武村雅之	オピニオン 関東大震災100年課題を聞く	地震に弱い街に逆戻り	中国新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	識者インタビュー 課題今も 関東大震災100年	地震に弱い首都、再び	伊勢新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	関東大震災きょう100年(1面)	防災の原点どう継承	神奈川新聞	3	2023年9月1日

3	武村雅之	100年の記憶(16、17面)	歴史的惨禍瞬間見つめ	神奈川新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	相模湾の津波被害(31面)	伝承も解明いまだ	神奈川新聞	3	2023年9月1日
3	武村雅之	名古屋大学減災連携研究センター武村雅之特任教授に聞く	インタビュー	静岡新聞	3	2023年9月2日
3	武村雅之	関東大震災を知る	神奈川・千葉で震度7	毎日小学生新聞	3	2023年9月2日
3	武村雅之	関東大震災100年	犠牲者4万人分調査票を公開	読売新聞	3	2023年9月3日
3	武村雅之	編集委員インタビュー	名古屋大学減災連携研究センター武村さんに聞く	神戸新聞	3	2023年9月3日
3	武村雅之	関東大震災行事県内各地で	県シンポ有識者記憶継承へ整備訴え	神奈川新聞	3	2023年9月3日
3	武村雅之	関東大震災100年課題今も	上 まちづくり 武村雅之	京都新聞夕刊	3	2023年9月4日
3	武村雅之	小田原専門家が最新知見報告	次の100年頻発局面も	神奈川新聞	3	2023年9月4日
3	武村雅之	関東大震災100年	名古屋地震学者監修の企画展	毎日新聞愛知版	3	2023年9月5日
3	武村雅之	キャンパス発	名大施設で教室	読売新聞	3	2023年9月16日
3	武村雅之	名大の減災館の来館者9万人に	記念セミナー開催	中日新聞	3	2023年10月22日
3	武村雅之	関東大震災100年	旧制一高生125人の手記復刻	東京新聞夕刊	3	2023年11月1日
3	武村雅之	関東大震災100年	旧制一高生125人の手記復刻	上毛新聞	3	2023年11月2日
3	武村雅之	関東大震災100年	旧制一高生125人の手記復刻	産経新聞	3	2023年11月2日
3	武村雅之	関東大震災100年	旧制一高生125人の手記復刻	神奈川新聞	3	2023年11月6日
3	武村雅之	関東大震災100年 消火の「美談」	公への矛先回避に「頑張れ」強調	東京新聞	3	2023年11月6日
3	武村雅之	関東大震災100年	旧制一高生125人の手記復刻	高知新聞	3	2023年11月8日
3	武村雅之	関東大震災教訓大切に	名古屋 名大・武村特任教授講演	中日新聞	3	2023年12月5日
3	武村雅之	関東大震災から減災考えよう	名大・武村特任教授岩倉で講演会	中日新聞	3	2024年1月19日
4	田代 喬	チャント！	災とSeeing「西日本豪雨」	CBCテレビ	1	2023年4月3日

4	田代 喬	チャント！	明治用水頭首工の大規模漏水発生から1年	CBCテレビ	1	2023年5月17日
4	田代 喬	キン・ドニーチ	名古屋大学減災館夏休みスペシャル減災教室／エムリバー・流れる水の働きを見よう	テレビ愛知	1	2023年9月1日
4	田代 喬	ケーブルNews	ネコギギ保全シンポジウム	CTY・CNS放送（ケーブルテレビ）	1	2023年10月30日
4	田代 喬	第8回備える～災とSeeing（25）	西日本豪雨（岐阜県関市）“山間部の中小河川 急激に水位上昇”	中日新聞朝刊21面（震災）	3	2023年4月3日
4	田代 喬		櫛田川自然再生、知恵出し合う 外来魚対策など議論 三重河川国道事務所	夕刊三重7面	3	2023年4月26日
4	田代 喬	+C防災	川の合流点水害「うかばり」の町「バックウォーター現象」岐阜県白川町	朝日新聞26面（地域総合）	3	2023年6月3日
4	田代 喬		水没数十台 泥の海 空振り恐れず避難を	中日新聞朝刊27面（社会）	3	2023年6月4日
4	田代 喬	第11回備える	愛知東部・静岡西部 大雨から1カ月 走行中 車が浸水したら・・・？	中日新聞朝刊21面（震災）	3	2023年7月3日
4	田代 喬	学ぶ	多発する水害を考える	中日新聞朝刊16面（教育）	3	2023年9月1日
4	田代 喬	中部災害アーカイブス「災とSeeing」	（25）西日本豪雨	一般社団法人中部地域づくり協会	4	2023年4月3日
4	田代 喬		趙敏学長と名古屋大学の田代喬教授が会談	中国・温州大学新聞	4	2023年6月9日
4	田代 喬		高校生スタッフが名大減災館で専門家に聞く	中日新聞Web	4	2023年9月4日
4	小沢 裕治	名大ハカセの虫メガネ 名大ハカセからのみらいメッセージ	南海トラフ地震から身を守る もしもに備えて今できること “自分ごと”で考える災害対策 ～SDGs 11 住み続けられるまちづくりを～	Common-S.サカイエ大学（運営：松坂屋名古屋）	4	2023年5月20日
4	羽田野 拓己	チャント！	災とSeeing「南海トラフ巨大地震と豊橋市」	CBCテレビ	1	2024年2月5日
4	羽田野 拓己	中日新聞	<災とSeeing>（30）南海トラフ（愛知県豊橋市） 繰り返す地震	中日新聞	3	2024年2月5日
4	羽田野 拓己	中部災害アーカイブス「災とSeeing」	災とSeeing（30）南海トラフ巨大地震と豊橋市	一般社団法人中部地域づくり協会	4	2024年2月5日

7. 名古屋大学基金「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」寄附者様 ご芳名一覧

<2018 年度寄附者様 ご芳名一覧>

名古屋大学基金「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」に対し、たくさんの方から貴重なご支援を賜りました。関係者一同、厚く御礼申し上げます。

金原 保夫 様
福和 伸夫 様
長谷川 大 様
岡田 純一 様
高木 勝 様
伊藤 秀章 様
利藤 房男 様
飛田 潤 様
岩井 仙一 様
大竹 広行 様
成瀬 敦 様
矢野 優治 様
高橋 義治 様
近藤 斎 様
小川 直人 様
村尾 英彦 様
鈴木 要介 様
服部 匠 様
飯田 文雄 様
鷺見 修 様

野田 利弘 様
小泉 明 様
近藤 善房 様
伊藤 秀樹 様
杉野 和記 様
野木森 鐘治 様
和田 茂 様
大津 宜子 様
鳥井 信吾 様
田口 常代 様
瀬戸 礼子 様
嶋田 裕子 様
小縣 真理子 様
共栄火災海上保険株式会社 中京支店 様
株式会社 トライデザイン 様
共栄火災海上保険株式会社 中京支店 様
中部電力株式会社 土木建築室 様
株式会社 一条工務店 様
セラミックス連合東海 OB 会 様

(順不同) 他 20 名

<2019 年度寄附者様 ご芳名一覧>

名古屋大学基金「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」に対し、たくさんの方から貴重なご支援を賜りました。関係者一同、厚く御礼申し上げます。

高橋 義治 様

西園 千江美 様

有限会社アシストコム 様

近藤 斎 様

浅田 務 様

近藤 斎 様

杉本 達彦 様

飛田 潤 様

中西 広吉 様

伊藤 秀樹 様

森田 宏 様

村上 一徳 様

岩井 仙一 様

大津 宜子 様

大東 憲二 様

舟橋 隆 様

加納 弘恵 様

服部 英身 様

鈴木 道宏 様

瀬戸 礼子 様

森田 宏 様

神野 春光 様

(順不同) 他 9 名

<2020 年度寄附者様 ご芳名一覧>

名古屋大学基金「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」に対し、たくさんの方から貴重なご支援を賜りました。関係者一同、厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 GEOASIA 研究会 様

中川 雅章 様

浅田 務 様

石橋 畝 様

杉本 達彦 様

阪口 正敏 様

服部 英身 様

伊藤 秀樹 様

大津 宜子 様

近藤 斎 様

水谷 誠 様

一般社団法人 日本防災共育協会 様

中田 和子 様

柳学区民生児童委員協議会 様

脇田 慎司 様

岩井 仙一 様

鈴木 道宏 様

神野 春光 様

杉本 達彦 様

近藤 康典 様

伊藤 秀樹 様

仲村 治朗 様

(順不同) 他 11 名

<2021 年度寄附者様 ご芳名一覧>

名古屋大学基金「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」に対し、たくさんの方から貴重なご支援を賜りました。関係者一同、厚く御礼申し上げます。

高橋 義治 様

寺川 亜伸 様

田中 孝幸 様

近藤 斎 様

柴崎 洋二 様

大滝 修 様

浅田 務 様

杉本 達彦・美保・彩名 様

鈴木 道宏 様

河津 博史 様

ホイテクノ物流 株式会社 様

近藤 康典 様

服部 英身 様

大津 宜子 様

中日コプロ 株式会社 様

神野 春光 様

株式会社 共和電業 様

横田 義男 様

(順不同) 他 9 名

<2022 年度寄附者様 ご芳名一覧>

名古屋大学基金「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」に対し、たくさんの方から貴重なご支援を賜りました。関係者一同、厚く御礼申し上げます。

横田 義男 様

井上 誠 様

神野 春光 様

岩田 庸一 様

大津 宜子 様

服部 英身 様

東浦防災ネット 様

近藤 康典 様

近藤 斎 様

坂川 勇 様

金子 健 様

土井 ちづ子 様

浅田 務 様

杉山 忠男 様

池沼 靖子 様

杉本 達彦・美保・彩名 様

大滝 修 様

飛田 潤 様

岡田 公夫 様

(順不同) 他 6 名

<2023 年度寄附者様 ご芳名一覧>

名古屋大学基金「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」に対し、たくさんの方から貴重なご支援を賜りました。関係者一同、厚く御礼申し上げます。

徳倉建設㈱ 様

大滝 修 様

近藤 斎 様

太田 貴代子 様

藤井 勝久 様

池沼 靖子 様

杉本 達彦・美保・彩名 様

宗宮 博子 様

浅田 務 様

服部 英身 様

佐々木 睦朗 様

浅田 敏夫 様

板倉 正己 様

Y's 経理サポート 様

坂川 勇 様

山口 温朗 様

東浦防災ネット 様

前田 幸正 様

近藤 康典 様

神野 春光 様

鈴木 道宏 様

井上 誠 様

大津 宣子 様

小田 益慈 様

武村 雅之 様

戸田 三津夫 様

横田 義男 様

株式会社 リバイブ 様

(順不同) 他 12 名